１９７１年８月　７日第３種郵便物認可　毎月１・６の日発行
２０１３年３月２４日発行　　増刊通巻　７８６９号

SSKA　一般社団法人
全国パーキンソン病友の会会報
愛知県版　69号

35 周年記念

３５周年記念誌・編集にあたって

当会は発足以来３５年経ちました。この機会に記念誌を編集しようとしましたが発足当時から２０年間の記録が見つかりませんでした。
友の会では毎年度、本部事務局に活動報告書を提出しているのを思いだし、支部長会に益田さんが東京へ行ったとき、本部事務局を探してもらいましたがダメでした。仕方なく、当会が会報を発行した 2000 年 12 月以降の資料に基づき編集することにしました。

創刊号から現在 67 号を発行しています。会報発行の目的は
① まず、患者・家族を勇気づけること
② 必要な医学情報の提供
③ 友の会の連帯を促す共通の話題提供
④ 話題に富んだ自由な投稿
等を編集の柱としています。この編集方針は代々引き継がれて今日に至っています。友の会の活動も年を追うごとに盛んになってきています。

今回の構成は３部になっています。
① 日ごろお世話になっております先生方はじめ会員の「友の会」への想いを綴った文集
② 友の会活動の記録写真
③ 数的にとらえた活動の年次資料
記録写真、年次資料につきましては、益田利彦会長が丹念に集めてくださいました。

35 周年記念誌発刊にあたり

会長　益田利彦

愛知県パーキンソン病友の会は本年3月で、発足して 35 年となりました。先人達が闘病の中でこの患者会を起ち上げるには、大変な苦労と勇気がいったことと思われます。残念ながら今となっては推測する他ありません。発足から前半20年間の記録がないのです。記録が無いのに35周年誌かとお叱りを受けるかもしれませんが、無いからこそ、たとえ後半15年の分かるものだけでも記録を残すことは、会運営の参考となり会員の励ましとなるものと信じます。

私は、丹羽会長に誘われて平成17年から役員会でお手伝いをすることになりました。丹羽会長が病魔に倒れ、あとを継いだ大道会長は2年で体調不良により退任され、私に大役を回されました。 歴代の会長は、患者本人であり、パーキンソン病の痛みは身を以て体得され当会への思いは必至でした。 それに引き替え健常者の私がまた器量も度量ないのに会長など引き受けて良いのだろうか、思案しましたが辞退することも許されず引き受けました。 とにかく先人たちの作ってくれた道を、役員一人ひとりが出来ることをする、の精神で支え合いながらやっております。 医療講演会や会報発行等の啓蒙活動、及びリハビリや親睦活動を行ってきましたが、これら活動の効あってか会員も年々増加し現在 280 名を超えました。

しかしながら友の会は、会員だけの力でやれるものではありません、多くのボランティアに支えられて活動をしています。 医療講演の講師を快く引き受けていただいている医師の先生方、リハビリの先生、音楽療法の先生、会運営のご指導をして頂く市会議員の先生、講演会のボランティアをして頂く製薬メーカーの方々、また会報では医療情報、リハビリ指導、医療相談等、私たちの為にご協力いただいております。これら殆どがボランティア活動です。また特定疾患外し反対の街頭署名活動の時は、医師や市会議員の先生も街頭に立って協力していただきました。 これ等多くの支援を頂ながら歩んできた35年、多くの会員の皆さんが友の会があってよかったと思えるでしょうか。

今年1月厚労省の難病対策委員会がまとめた難病対策の改革提言案は、パーキンソン病患者の満足できるものになっておりません、また、iPS細胞の実用化もまだ時間がかかりそうです。この病気が根絶し、友の会が不要となるまでは役割を終えることが出来ません。 35年の歴史を礎に患者家族の苦悩の追放と生活の質の改善に向けて、「明るく・楽しい・毎日を」をモットーに皆で頑張りましょう。

目　　次

パーキンソン病の根本医療をめざして	祖父江　元	５ｐ
愛知県パーキンソン病友の会３５周年によせて	服部　達哉	７
パーキンソン病は「えらい」病気？	服部　優子	９
愛知県パーキンソン病友の会３５周年に向けて	平山　正昭	１１
パーキンソン病治療のこれまでとこれからから	渡辺　宏久	１３
友の会愛知県支部の３５周年に寄せて	神野久美子	１５
友の会とともに歩んで	鵜飼久美子	１６
愛知県パーキンソン病友の会発足３５年記念祝辞	矢野　健蔵	１８
愛知県パーキンソン病友の会３５周年記念に寄せて	近藤　将人	１９
愛知県支部３５周年に寄せて	都築　延男	２０
愛知友の会３５周年によせて	浅井　利一	２１
友の会と共（友）に歩む	大津　慶明	２２
友の会との出会い	大津　邦世	２３
３５周年記念　～先輩たちに感謝～	原田　良實	２４
丹羽会長と友の会と会報と私	池田　幸夫	２６
友の会に入会して	肥後ひとみ	２８
ひまわりの会との四年間	肥後ひとみ	３０
３５年ですって	益田　　緑	３１
３５周年　おめでとうございます	冨板　邦夫	３３
私　パーキンソン病になちゃいました	冨板　邦夫	３５
交遊会に思うこと	後藤サヨ子	３８
３５周年を迎えて	森　　久子	３９
ある日ある時	奥田富美江	４０
パワー全開	山田　良知	４１
歴史は現代に語る	越澤　　博	４２

パーキンソン病の根本治療をめざして

名古屋大学教授　　祖父江　元

愛知県パーキンソン病友の会の皆様、35 周年おめでとうございます。山あり谷ありの 35 年と思いますが、皆様力を合わせてここまで来られたこと、心より敬服し、お祝い申し上げます。

私と友の会のかかわりは、先代の会長　丹羽さんが私の室までお越しになり「先生、力を貸していただけませんか」と言われたのが始まりです。その後何度もお会いし、いつも熱い思いに圧倒されておりました。「先生、こういうことを見つけたんです」「ほう、何を見つけた？」「目標を見つけて未来に生きるということで、パーキンソン病というのは相当直るんです」「それは素晴らしい」。こういう会話をいつも交わしていました。この丹羽前会長の思いは「ATM」として、現益田会長に受け継がれ、発展されてきていると思います。今後の更なるご発展をお祈り申し上げます。

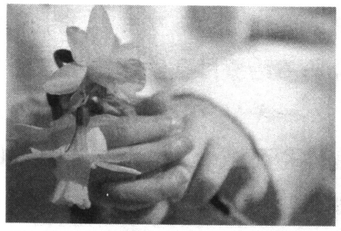
患者会の目的は数多くあると思います。正しい情報を共有し治療に生かすこと、お互いに励まし合い疾患とつき合う力を持つこと、医師などの医療者との良い関係を作っていくこと、あるいは行政などに対して場合によっては声を上げていくことなど色々あると思います。私はその中で、今後益々重要になっていくのは新しい治療法の開発に向けて医師などの開発者と一緒に共闘のスクラムを組んでいくことではないかと思っています。新薬の開発は医師だけではできません。患者さんと共同して疾患に立ち向かう必要性が益々高くなってきていると思います。

現在パーキンソン病の薬は数多く出回っています。2 年に 1 つ位の割合で新薬が出ていると思います。また DBS などもその適応や効果がはっきりしてきました。リハビリもより有効な方法が考えられつつあります。今後は iPS も治療応用が考えられようとしています。しかし今ある治療は薬物療法を含めて、パーキンソン病を根本的に治すものではありません。パーキンソン病はご存知のように、神経細胞が変性し死滅していく疾患です。この変性や死滅のプロセスを直接に止める手だては、残念ながら今のところありません。現在使用されている薬は、おしなべて神経細胞が変性・死滅した後に、その神経細胞が分泌していた神経伝達物質を補うもので、補充療法といわれています。変性や細胞死が進んでくると、どうしても効果が減ってきますし、変性や細

胞死の範囲が広がってくるとなかなか治療が難しいことになります。これはパーキンソン病に限ったことではなく、アルツハイマー病や脊髄小脳変性症、ALS などの他の神経変性疾患でも同じで、神経変性や細胞死そのものを止めることはできていません。神経細胞の変性そのものを抑えることのできる治療は根本治療につながるもので、今世界の研究者がなんとか手がかりがないかと必死で研究しているものです。

このような根本治療が出てくれば、病気の進行・進展そのものを抑えることができるということになり、非常に大きな福音になるはずです。しかし残念ながら、まだ世界的にどの神経変性疾患についても成功例がないのが現状です。これが全くの夢物語でないことは、がんの治療を見れば分かるように思います。がんの世界では、まだ限られたいくつかのものですが、病態抑止治療（分子標的治療）が成功して、治る疾患になってきています。ある種の白血病は直らない死の病でしたが、現在は 90%くらいの患者さんがこの治療で治っています。根本的に治せる病気になってきています。パーキンソン病でこれを成功させるには、患者さんと医師や製薬企業などが本当の意味でスクラムを組んで立ち向かわなければいけません。

私はこの分子標的治療を考える時、丹羽前会長の思いを感じます。なんとか根本治療の開発に向けて、皆様と一緒に進んでいこうではありませんか。



愛知県パーキンソン病友の会 35 周年によせて

本町クリニック　　**服部達哉**

愛知県パーキンソン病友の会との出会いは、1999 年のことでした。私達は同年 2 月まで東京の順天堂大学で働いており、7 月に名古屋市中区栄で本町クリニックを開業しました。

今は大学医学部を卒業すると、2 年間の初期研修で色々な診療科を研修してから専門を決めます。私達が卒業した 1985 年当時、順天堂の内科は、循環器、呼吸器、腎臓など臓器別に分かれており、内科研修を終えた後に専門を決めるのですが、神経内科だけは卒後直接入ることが可能でした。私も家内も大学卒業後すぐに神経内科に入り、一年大学で神経学の基礎や学ぶ態度を叩き込まれてから、他科の研修を行いました。内科だけでなく、脳外科や神経放射線科など脳神経に関連する診療科を研修するコースを選択できましたので、医師となってからずっと神経の病気に取り組んでいました。

85 年当時は初代の楢林教授で、パーキンソン病の定位脳手術を世界に先駆けて行ったパイオニアです。定年で退官された後も自分のクリニック（神経科クリニック。略して神(しん)クリ）で手術をされていました。私は大学時代、神クリを手伝いに行っておりましたし、国立の研究所に赴任して兼業ができなくなってからは、家内が開業直前の 1999 年 6 月まで手伝いに行っておりました。自分たちのクリニックを本町(ほんまち)クリニックと名付けたのは、本町通に面しているからというのが一番の理由ですが、略して本(ほん)クリと呼ぶ事を意識していました。

1989 年、水野美邦先生が順天堂神経内科の 2 代目教授として赴任されました。水野先生はパーキンソン病の原因に迫る研究をされており、治療だけでなく、研究の面でも最先端の研究室になっていきました。私達夫婦は、二人一緒に大学の教室に勤めていましたが、いつまでも二人で限りのある大学教員のポストに留まる訳にはいきません。大病院に入院日数を制限するような医療制度が導入され、大学病院だけでは自分たちがいいと思う医療ができないと感じ始めた事もあり、夫婦二人で診療所を作り、一緒に自分たちが理想とする医療を行いたいと思うようになりました。水野先生に開業の意志を伝え、一年かけて準備をして今の診療所を作りました。

1999 年当時ではまだ少なかった MRI を導入し、必要な時に撮影できるようにしました。（大病院では撮影一ヶ月待ちという時代で、開業当初は近隣病院から検査の依頼も受けていました）脳波や筋電図も病院では検査を行うまでかなり時間がかかりましたが、身軽な診療所では必要な時に行う事ができます。往診にも行く事ができ、目の届く範囲でリハビリを行ない、毎日カンファレンスを行なって、治療方針を決めるという自分たちが納得できる体制を作りました。

私達が開業した初日（1999 年 7 月 15 日）に楢林先生が手術をした名古屋の患者さんが受診されたのが、本クリのパーキンソン病患者さん第一号です。この年、全国のパーキンソン病の会が千葉で開かれ、そこで私達が名古屋で開業した事を聞いた大石さんが当院を訪ねて来られたのが愛知県パーキンソン病友の会との出会いでした。八野会長の時代で講演会や一泊旅行に呼んで頂いたりしたおかげでたくさんの患者さん達と出会う事ができました。残念だったのは、開業医ですので泊まりがけの旅行に行くと、通っている患者さんが急変した時に対応できなくなるため、泊まらず帰らなくてはならなかった事です。夕食まで一緒してもお酒もあまり飲めず？断腸の思いで帰っておりました。名古屋大学の先生達が友の会の活動に参加して頂けるようになり、よかったと思います。

八野会長の後を継いだ丹羽会長の時代に友の会の会報が創刊されました。68 号となるとは感慨深いものがあります。会報を定期的に発刊しようとした丹羽さんの情熱と努力が、その後の歴代会長や会員に受け継がれ、こうした形になっており、その先見の明に敬服しております。毎号、珠玉の原稿が投稿されており、読み応えがあります。お一人お一人から印象深い文章が寄せられ、いつも勉強させて頂いています。越澤さんや肥後さん、池田さん、山尾さん、大津を初め編集に携われている方々のご尽力に感謝しております。

パーキンソン病は日進月歩で研究が進んでおります。昔は結核も胃潰瘍も死に至る病気でしたが、今では根治できる病気となっています。日がまた昇り一日が始まるように、当たり前の毎日を過ごす中でこの病気と付き合っている皆様の病気との付き合い方、生活の工夫など、病気の研究だけではわからなかった事を会報から学ばせて頂いています。

幸いにしてパーキンソン病に精通した看護師や検査技師、リハビリスタッフや明るい事務職員に恵まれ、本クリも 14 年目を迎える事ができました。愛知県パーキンソン病友の会が 35 周年を迎え、また新しい日が昇る事を祈念してこの記念号に贈る言葉とさせて頂きます。

パーキンソン病は「えらい」病気？

本町クリニック　**服部優子**

パーキンソン病友の会 35 周年、おめでとうございます。
ところで、本町クリニックは開業して 14 年を迎えました。長いようでもあり、あっという間のようでもあり、決して苦労がなかったわけではありませんが、友の会の方に色々と助けられながらここまで来ることができたと思っております。心から感謝しています。

友の会との出会いは、今でもはっきり覚えています。
ある日の昼休みに、当時の会長八野さんと副会長大石さんがご挨拶に来られ、友の会の活動に協力して欲しいということでした。実は大石さんは、千葉県の浦安市で開かれたパーキンソン病大会に行かれた際に、調子を崩され、順天堂大学の看護師さんに介抱されたそうですが、その看護師さんが「順天堂大学にいた服部夫妻が、最近名古屋で開業した」ことを教えてくれたのだそうです。それでさっそく訪ねてきてくれたのでした。順天堂大学やその関連病院で沢山のパーキンソン病患者さんを診察させて頂く機会に恵まれた私達でしたが、開業してみるとパーキンソン病どころか、患者さんがあまり来ない日が続きました。そんな折、友の会で講演をさせて頂いたり、音楽療法をさせて頂いたり、旅行にご一緒させて頂いているうちに、来院患者さんも少しずつ増えて、何とか借金を返すことができました。開業以来つけている、「パーキンソン病患者さん名簿」によれば、昨年までに、のべ 900 人を超えるパーキンソン病患者さんが来院して下さったことになります。

その後の丹羽会長のご活躍は、皆さんがよく知るところですが、2007 年のパーキンソン病友の会全国大会は本当にすばらしい会となりました。今でもそのときの写真を見ると、熱気が伝わってきます（写真）。最後は皆で「365 歩のマーチ」を会場全員で合唱し、一つになることができた気がしました。また「パーキンソンとは呼ばないで」という一緒に本を出版させて頂いたのもよい思い出です。私達が大学病院を辞めて開業した理由は、「患者さんをできるだけ長く診たい、ご本人だけではなく家族の話も聞きたい、どんなことでも気軽に相談でき、来たいときに来られるクリニックにしたい」と思ったことです。その初心を忘れないように、時々この本を読み返しています。丹羽さんは残念ながら亡くなられましたが、八野さんも大石さんもまだ当院にかかって下さっており、お一人の患者さんを長

く診せて頂けるのは、大変うれしいことですし、励みになります。

最後に、医療現場における名古屋弁についてひとこと。最近、Medical Tribune という医学新聞連載の「臨床方言学」というコーナーで、症状を現す患者さんのコトバが地方によって本当にさまざまであることが紹介されていて、思わずびっくりすることがあります。私も最初名古屋に来て、患者さんのコトバに戸惑っていた時期がありました。パーキンソン病でよく使われる名古屋弁がいくつかあります。その筆頭は『えらい』というコトバかもしれません。会報 66 号にもアンケートを掲載させて頂きましたが、パーキンソン病は疲れやすい病気です。でも「疲れる」より、「最近『えらでかんわ〜』」と言われる方が今ではしっくりきます。「先生、この薬はちょっと『なるい』わ」と言われたときも最初は戸惑っていましたが、今では「そうですか〜。もう『ちょこっと』効き目の強い薬に代えましょうね〜。前の薬は『ほかってといて』くださいね。」などと言えます。そして最近困ったことは、自分でもどれが名古屋弁で、どれが標準語だかがわからなくなってきたことです（笑）。私も、臨床方言学「名古屋弁版」を書いてみたいと思っている今日この頃です。

そんなわけで、名古屋で開業して、友の会を通して沢山のパーキンソン病患者さんと出会うことができました。改めて、友の会の会報を第 1 号から見直していたら、懐かしい患者さんの写真があったり（皆若かったですね！）、こんなこともあんなこともあったなあと、走馬燈のように思い浮かび、何だかじ〜んとしてしまいました。友の会の会報は、本当に財産ですね。これからも皆様と色々な思い出が作れるといいなあと思っています。

愛知県パーキンソン病友の会３５周年に向けて

名古屋大学医学部　　平山正昭

顧問を受けたのは多分２００５年頃，突然現れた前々会長の丹羽さんが“先生顧問にしてやる”と言われ，顧問の認定書のようなものを置いていったのが始まりだと思うのですが，この年に関してはあまり定かではありません。実は，認定書なるものもどこかにはあるのですが，なかなか見つけられません。その後，丹羽さんがなくなるなど大変な時期もありましたが，順調に会員数も増えているようでほっとしています。

さて，今回３５周年に一言書いてくださいと言うことでしたが，不勉強な私は，まさか３５年も続いている会とは知りませんでした。この会の発足の１９５３年は私が，医学部に入学した年です。その時にはまさか神経内科医になるとは考えてもいませんでしたし，ましてパーキンソン病を中心にした診療研究を行うとも思ってもいませんでした。そう考えるとこれも何かの縁なのでしょう。縁とは不思議なもので，一つの出来事で時にその方の人生すら代わってしまうことがあるので宗教じみてしまいますが，時に自分は何か見えないものに導かれるときもあるのかとすら考えてしまいます。

パーキンソン病ほど神経難病の中で，多くの患者さんを抱える病気はありません。さらに，薬剤効果の面でもこれほど病気の症状に効果がある薬剤が日進月歩で研究されている病気もありません。残念なことに最近増えている認知症でも，少し症状が改善しますが，パーキンソン病の薬のように飲めば動けるようになる薬といった優れた効果が出るものでもありません。しかし、まだまだ完全に根治できる病気でないことも確かです。

神経難病の治療の問題点として，現在の治療は対症療法であると言うことです。例えば，がんであればうまくすれば癌を取りきってしまうことで完治します。また感染症は，抗生物質でその原因となる最近を殺してしまえばいいのです。しかし、神経難病はあくまでも対症療法という一時しのぎによる治療です。病気そのものを直してしまった訳ではないので長い目で見るといつかは薬が効か

なくなる日が来ます。それが，寿命がくるより後まで伸びるというのであればいいのですが，それは難しい問題です。

治療は日進月歩です。今後，新薬の研究をする上でも，今まで以上に患者さんの協力が必要になります。今後は，医師と患者が協力して治療開発にあたることも必要になってきます。先日，順天堂の服部先生が，iPS 細胞を用いた治療を開発するために，患者会を一緒になって患者登録を行うバンクを設立すると発表されました。今まで以上に新薬の開発研究が進むのではないかと期待しています。私自身も，最近やっと病気の進行の予防やパーキンソン病の診断のためのバイオマーカーを見つける研究が実を結びつきあるところです。もう少ししたら皆さんにお知らせできるかもしれません。

また、難病がどんどん増えていくと国の方ではだんだん難病の助成などを減らす動きが出ることがあります。以前も一度ありましたが，そのときにはパーキンソン病友の会の署名活動が非常に有用でした。政治的なことは，私は嫌いですが，こうした会があることは今後の難病に対する国への働きかけにもなります。特に，今はやりの iPS 細胞はパーキンソン病の治療に光明を与えるもので，一層の国の研究への関与が必要になります。

さらに，患者会が必要なのは，研究開発だけでなく患者会の中でまとまることで，患者会としてリハビリや交流会で自分の病気を一人だけで悩まずに治療にあたれることです。患者さん自身で，自分たちの治療にまで参画することは大変ですが，社会参加を通じて脳を使い社会の中で自分たちが必要であることを証明するチャンスでもあります。その意味で，愛知県の友の会は，講演会だけで年間４回以上，それ以外に音楽療法を月一回，交流会も三ヶ月に一回程度は行っている全国でも希有な非常に活気の友の会ではないかと自負しています。今後もますます患者さん同士が話し合えるこのような形の会が発展していくことを心から願っています。できる限りの協力は惜しみませんので，一緒にやっていきましょう。

パーキンソン病治療のこれまでとこれから

その中における友の会の大切さ

名古屋大学神経内科　**渡辺宏久**

愛知県パーキンソン病友の会 35 周年、誠におめでとうございます。私は、名古屋大学神経内科の渡辺宏久と申します。友の会の会報において、丹羽浩介様が会長をされていた時から開始した、”EBM とオーダーメート治療”というコーナーを毎号担当している縁で、今回、このような寄稿の場をいただいたと理解しています。

一言で 35 年といっても並大抵の期間ではありません。まずは、これまで友の会を支えていらっしゃった皆様、現在友の会を支えている皆様に対して心から敬意を表する次第です。

パーキンソン病治療における 35 年前を振り返りますと、本邦におけるレボドパ合剤の使用開始が 1980 年頃、ドパミンアゴニストが 1985 年頃とされていますので、愛知県友の会は、まさにパーキンソン病治療の黎明期に発足し、治療法の発展の歴史とともに歩んでみえたとの思いを強くしている次第です。

パーキンソン病の運動面に関する治療薬の開発は確実に進歩しています。ここ 5 年でも、2007 年コムタン、2009 年トレリーフ、2011 年ミラペックス、2012 年アポカイン、レキップ CR と、毎年のように良い薬剤が発売されています。エフピー剤も単剤で使えるようになっていますし、レボドパの神経毒性もほぼ否定されました。2013 年にはドパミンアゴニスト貼付剤、アデノシン A2a 受容体拮抗薬の発売予定など、35 年前に比べて非常に優れた多くの薬剤が使用可能です。欧米ではレボドパ徐放製剤やジスキネジア治療薬の開発も進んでいます。

治療薬以外に目を向けますと、脳深部刺激療法の進歩には目を見張ります。Lee Silverman Voice Treatment (LSVT) をはじめとする様々なリハビリテーションの開発と発展にも素晴らしいものがあります。そして、皆様の期待も大きいノーベル賞を受賞された山中伸弥先生による iPS 細胞の開発を通じた研究や、全ての遺伝子を短時間で解読出来る次世代シークエンサーの発展などの画期的研究手法を通じ、これからの 10 年で、治療法の大きなブレイクスルーが期待されると言っても良いか

と思います。

パーキンソン病の非運動機能異常面でも様々な発見がなされています。運動症状が出てくる前に認められる非運動症状が明らかとなり、発症の予防や早期診断、早期治療への研究が展開されています。また長期治療中の患者さんを悩ませる様々な問題に対する治療法の研究も推し進められています。

パーキンソン病をはじめ、神経変性疾患において疾患の進行を止めるような治療薬はまだ開発されておりませんが、パーキンソン病は最も優れた補充療法のある神経変性疾患です。レボドパ開発前と比べて予後は大きく変わっています。どうかご自身に合った治療を受けられて、将来の良い治療法の出現を待っていただきたいと思います。また、治療薬だけではなく、ご本人の“気合い”、“リハビリ”、“割り切り”が極めて重要であることは、多くの先生が仰っていますし、数多くのパーキンソン病の患者さんからも教えて頂いてきました。

名古屋大学神経内科とその関連病院は、祖父江教授を中心に、パーキンソン病患者さんの今を、そして未来を少しでも良く出来るよう、研究と診療を推し進めており、当方もその中において、色々な臨床研究、画像研究、プロジェクトなどにかかわらせていただいています。

2 年前の日本神経学会学術大会では、大会事務局として、当科の田中言語聴覚士をはじめ、様々な方々と一緒に LSVT 講習会を開催させていただく機会があり、チーム医療の大切さを再認識いたしました。この講習会では友の会の皆様にも多大なるご協力をいただきました。また市民公開講座にお呼びしたマイケル・J・フォックスパーキンソン病リサーチ財団の担当者と話をする機会もあり、アメリカにおける患者会の力強さを感じるとともに、日本における友の会のサポートをしっかりしなくてはいけないとの意を強くしたことを覚えています。

友の会は、患者さん同士が体験や思いを共有し、支え合う力を得る非常に重要な場と認識しています。今後も、友の会のお役に立つことが出来るよう、より良い治療を皆様に提供出来るよう、微力ながら努力を重ねていく所存です。足らない点も多々あると思いますが、何卒宜しくお願い申し上げます。

友の会愛知県支部の３５周年に寄せて

東海市　神野久美子

私は数年前、前々会長の丹羽さんより顧問にとのお話をいただきました。市議会議員では役不足だからとお断りしたのですが、いいからと言われ今に至っています。月１回の役員会に出席するのが精一杯で申し訳ないなと思っています。国会請願は私の役目との思いで、できる限り同行させていただいており今年も行かせていただきます。

パーキンソン病友の会愛知県支部との出会いは、私が平成１４年初めての選挙の前に丹羽さんを紹介していただいてからになります。友の会３５年間の歩みを考えますと１１年前からのお付き合いということになります。

丹羽さんは、会報もないので発行しなくてはとか、会員宅の家庭訪問や電話相談など幅広く活動されました。本も自費出版され要望があれば、全国どこへでも出かけて自らの体験を講演されました。また、自宅を事務所にして様々な取り組みをされ発展してきたと感じます。会報の表紙を飾る ATM を合言葉として提唱されたのも丹羽さんです。

会報には毎号、平山正昭先生、渡辺宏久先生に寄稿していただいています。お仕事がお忙しい中本当にありがたいことです。両先生とのつながりをつけてくださったのも丹羽さんです。音楽療法の鵜飼久美子先生も会報への寄稿の他、いろいろなところにおでかけいただき支援をしてくださっています。

友の会の会報ができると丹羽さんの奥様にお届けしています。いつも２時間ほど取り留めもない話を楽しくしています。その中で、亡くなられた丹羽さんが「自分がいなくなったら友の会は、２～３年で存続が難しくなるかもしれない。」と言っていたと伺いました。実は私もそのことを一番心配していましたが、そんなことはありませんでした。毎月、月初めの土曜日の午前１０時３０分から、多いときは２０人ほど集まって役員会をしています。この会は、自分のできることをしていただければいいのです。いつでも役員を募集しています。一度覗いてみませんか。

今回は３５周年ということでまとめの意味で特集号を発行することになりました。今までの歩みとして、丹羽さんが会長になってからのものは残されているのですが、それまでのことがほとんどわかりません。その中で益田会長が努力され、わかることをまとめられました。前事務局長の越澤さんは今回の編集をしていただきました。本当にこの会は皆で支えあって成り立っているのだなあと感じます。

これからも皆で支えあって、パーキンソン病友の会愛知県支部が発展していけるよう微力ではありますが尽力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

友の会とともに歩んで

中部学院大学　　**鵜飼久美子**

今から15年くらい前でしょうか。名古屋市内の某保健所から「神経難病の集い」で音楽療法を担当して欲しいと依頼をうけました。
患者さんは、主にパーキンソン病患者さんとのことでしたが、残念ながら私にはパーキンソン病についての知識は皆無と言っていいほどでした。
ですから、患者さんの様々な症状に対して、どのように音楽を使うことが有効かなどとは考える術もありませんでした。
ところが、1年、2年と経過するうちに、目の前の患者さんが、何を求めておられるのかが少しずつ見えてくるようになりました。
それは、

★パーキンソン病に立ち向かっていこうとする秘かではあるが力強い意思
★パーキンソン病に対する不安を解消したいという思い
★仲間と会って話ができる喜び
★パーキンソン病の情報を得たいという希望
★主治医以外の話を聞いてみたいという要望

等々見えてきました。
そこで、私なりに音楽療法の目標を定めてみました。それは、現在でも継続していることですが、

☆自分の声が相手に届くようにする（発声発話の明瞭度を上げる）
☆リズムによる歩行改善

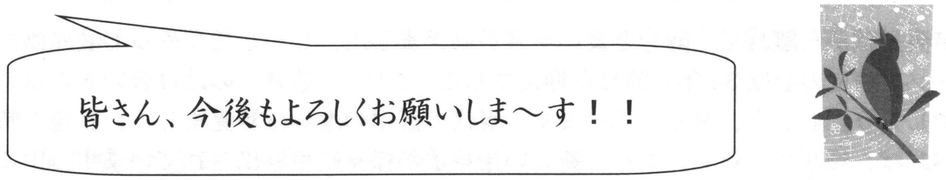
です。このような目標のもとに音楽療法を行っているのですが、一カ月に１回の実施頻度では、どれだけ患者さんの症状改善に繋がっているかについての科学的データはありません。

昨今、よく耳にします“**根拠に基づいた医療**”（EBM:evidence-based medicine）を考えますと、何とか効果を実証できないものかと焦りさえ感じます。
しかし、少しばかり救いもあります。それは、音楽療法実施前後に記入していただきますフ
ェイススケールという評価表を検討しますと、気分が改善されていることが読み取れるのです。

こんなことが記憶に残っています。
２００６年７月のことでした。名大病院の中に、「患者の広場ナディック」が開設され、その記念に医療講演会が開かれました。その時に神経内科の祖父江教授が、“**全人的医療**”ということに触れられて、そこに‘音楽療法もあり’と講演していただきました。

大変勇気づけられた記憶が今でも鮮明に残っています。その全人的医療（comprehensive medicine）とは、(財)国際全人医療研究所　理事長である永田勝太郎氏によると
【いついかなる場合であっても患者さんを、その病んでいる臓器としてだけではなく、あくまでも病をもった人間として包括的に見て行こうという医療本来のあるべき姿です。】
と定義しています。
この観点から考えてみますと、患者さんにとっての治療は、主治医による薬物療法あるいは外科療法などが主体となっていますが、言い換えると、患者さんの症状を改善するということに主眼が置かれています。しかし、患者さんの精神状態は時には不安定なこともあり、治療にはその状態を取り除くことからスタートしなければならないことも考えられます。
それを取り除く際に、音楽を利用することで気分が好転し、治療やリハビリテーションに対して積極的に向かっていく力が湧いてくるのではないかと解釈出来ればよいと思っています。
昨年は、山中伸弥教授の iPS 細胞でのノーベル賞受賞という患者さんにとっては、この上ない朗報がもたらされました。まだ、臨床応用までには、多くの時間を要するようですが、それまでの間、全人的医療という視点で、音楽療法に取り組んでいきたいと思います。

友の会は、これまで多くの会員の皆さまの力で、発展してきました。今年で、３５周年と聞きまして、改めてその歴史に敬服いたします。
振り返れば、私も患者さんとの交流が始まってから友の会を知り、そしていつの間にか、友の会の音楽療法担当の顧問にまで押し上げていただきました。まさしく、友の会とともに歩んで今日に至りました。
今後もこれまで以上に、患者さん同士の絆を強め、患者さんのための友の会でありますように、心から願っています。
そして、私も友の会とともに成長させていただければ最高です。



愛知県パーキンソン病友の会　発足35年記念祝辞

元　愛知県パーキンソン病友の会　会長　**八野健蔵**

知県パーキ愛ンソン病友の会の発足35周年、心よりお喜び申し上げます。　私は、友の会の会長として、その役目を受け継ぎました。　その頃の役員の方をはじめ会員の方々と、協力し助け合って会の運営を行っていたことを、その当時を偲び、懐かしく思い出します。　私が発病したのは、たしか平成7年ごろ。　ちょうど母が亡くなり、私自身も胃がんの手術を受けていた時でした。　その際の医師より、歩き方がおかしいとの指摘を受け、検査の結果パーキンソン病と診断されました。　それからは、治療に専念することとなりました。

パーキンソン病の診断が下るまでは、「自分はどんな病気になったのか」、「なぜ、こんな事になってしまったのか」など、様々な病院に通ったり、資料を見ては、不安に駆られていたことを思い出します。そんな中、新聞で順天堂大学で行われているパーキンソン病治療についての記事を見つけ、取るものもとりあえず、新聞記事だけを頼りに意見を伺いたくて、直接、順天堂医院まで行った事を思い出します。その後、この病気の全国の患者の会合が東京であることを聞き、参加しました。その時、他の参加者から教えて頂いた名古屋にある本町クリニックで受診することにしました。今は自宅近くの医師に診察を続けて頂き、今日まで、18年間この病気と共にあります。現在では、住まいが遠方であり名古屋への通院が難しくなった事から、週1回の訪問リハビリを行いながら、地元で静養をしています。

私自身、皆さんと同じように、この病気と共に歩んだ今までを語りつくせない思いがあります。しかし、私の今があるのは、今まで一番近くで支えてくれた妻と家族のおかげであり、私を担当し治療を行って頂いた医師のおかげであり、助け合い支えあってきた友の会の皆さんであり、私の生活を支援してくれたそれぞれのサービスに携わる方々があってこそだと思っています。この場を借りて、皆さんに感謝を伝えます。「本当にありがとうございました」そして、「これからも、よろしくお願いいたします」。

私が会長職から離れて、随分と長い年月が過ぎました、しかしこうやって愛知県のパーキンソン病友の会は35年の節目を迎えました。これも、皆さんの助け合いとご尽力の結果でしょう。心から、嬉しく思います。現代の医学の進歩は目覚ましく、私達の時代と比べれば、現在では新しい薬や、新しい治療法が様々に生み出されています。中でも昨年ノーベル賞を受賞したｉｐｓ細胞による研究が早く、パーキンソン病の治療技術として確立することを心から祈っています。皆さんも、これからも自分を支えてくれる周りに感謝し、希望を捨てず頑張ってください。

愛知県パーキンソン病友の会35周年記念誌に寄せて

本町クリニック・服部神経内科　理学療法士　**近藤将人**

愛知県パーキンソン病友の会の発足35周年、心よりお慶び申し上げます。　今日まで、友の会が存続し運営されてきたのは、数多くの方々のご尽力と、努力、協力、皆さん一人一人の支えあう力があっての事と存じ上げます。　思い遣るに、ただただ、頭が下がる思いです。

私は、昨年の一年間、縁あって会報にリハビリのご紹介をさせて頂きました。この貴重な経験の中で、あらためて、人に伝えることの難しさと、継続する事の大変さを学ぶことが出来ました。　こういった機会を与えて頂けた事に本当に感謝しています。　私は普段、クリニックでの外来通院リハビリを担当しています。　担当させて頂いている患者さんの、「歩行時のすくみに困っている事」や、「お薬が飲みにくくなっている事」、「声が小さくなって会話でお困りになっている事」、「指先が使いづらく、ボタンの掛け外しにお困りになっている事」、「姿勢が前かがみになり、バランスを取ることが難しく、転ぶ事や骨折に不安を抱えている事」、「ねがえりが出来ない事」、「立ち上がりが上手く行えず尻もちをついてしまう事」、「字が小さくなり書けなくなってしまう事」、等‥、さらに、「それぞれの抱える不安や恐怖、「緊張によっても症状が変化する事」など、皆さまが本当に、様々な困りごとを抱えているということを実感し、あらためて、リハビリを通じ、丁寧な個別対応の必要性を強く感じています。

35年前、私は3歳でした。　写真に残る幼かった自分が、今では、父親そっくりに成人し37歳になりました。　ナゴヤ球場はドームに変わり、携帯電話が普及し今ではスマートフォンに。　さらにパソコンの進化に伴い、今ではネットワークを通じて世界と繋がる事が出来るようになりました。　冷戦が終結し、ベルリンの壁が崩壊し、バブル経済も崩壊し、阪神淡路大震災も、東日本大震災もありました。　大きな世の中の変化と、社会構造の変化の中で、愛知県パーキンソン病友の会は、今日まで「縁」を繋ぎ、「絆」を強くし、今があります。　私も、友の会の今までの歩みを自分の羅針盤とし、皆さんに信頼して頂ける理学療法士を目指し、これからも地に足を付け、毎日を丁寧に積み重ね、今を大切にしながら、少しでも皆さんの力になる事が出来る様、真面目に日々努力を積み重ねて行こうと思います。　皆さん、これからもよろしくご教示お願いいたします。

本当に、愛知県パーキンソン病友の会　35周年。　おめでとうございます。　（＾－＾）

パーキンソン病友の会35周年寄稿

愛知県支部３５周年に寄せて

(有)一　粒　社

代表取締役　**都築延男**

パーキンソン病友の会愛知県支部様の35周年おめでとうございます。
私と愛知県支部様との出会いを回顧してみようと、私の Excel 川柳日記を検索したところ、こんな川柳が書いてありました。

懐かしき元書記長の電話あり　2002.5.12

この句を見て思い出されることは、東海市より元日本碍子知多工場労働組合書記長であった丹羽浩介さんから電話を頂き、会報の見積りをしてほしい内容でした。

丹羽さんとは、私が19歳の時、日本碍子労働組合の議案書印刷の仕事を丹羽書記長より原稿を受け、当時はタイプライターで組版して何回も校正出して仕事をしたお客様でした。その後、当社が会報を受けさせて頂いた時が、２００２年８月６日発行の第６号からと記録にあります。

その１年後、丹羽さんより『もうパーキンソン病と呼ばないで』の出版をさせて頂きました。この本が中日新聞の中部版で紹介され、最初は、２０００部、翌年１０００部と増刷させて頂き、私は、パーキンソン病のことを、この本で理解したことを思い出します。

丹羽さんが東海市から会員の方々と車で原稿を持って来られ、会話の中で、仏教の真理、パーキンソン病とどう付き合うかを聞かせてもらったことが、懐かしく思い起こされます。

その後、丹羽浩介さんは、全国の会長をめざして、愛知県支部のように全国友の会を活性化させたいとのお話も聞きました。その夢半ばで、丹羽さんは、もういませんが、会報は多くの協賛広告が載るようになり、越澤さん、池田さん、現在の原田さん、大津ご夫妻に繋がれ、会報作りを通してパーキンソン病友の会愛知県支部様の３５周年をお祝いいたします。

これからも、ますます会の発展を祈念いたします。

愛知友の会35周年によせて

副会長　**浅井　利一**

私とパーキンソン病の出会いは、平成13年、今から12年前のことです。女房の足が震え出し、整形外科や心療内科などで診てもらいました。やっとのことで内科の病院でパーキンソン病と診断されました。女房58才、私62才。死ぬことはないが一生治らない、しかも難病であるとの強烈な洗礼を受けました。定年退職、これからの人生を気ままに、楽しくという矢先のことでした。

女房の症状は年を経る毎に進んでいきました。そんな平成19年2月、故丹羽会長のお話を聴く機会に接しました。女房は大変な感銘・共感を覚え、その年の4月に愛知友の会に入会しました。女房が友の会に参加する毎に、運転手として付き合うことが縁で会員に、今では新米ですが役員の仲間入りをさせてもらっています。

平成13年まで、パーキンソン病のパの字も知らず、そんな病気とは全く無縁の存在でした。そのうえパーキンソン病友の会があることも知る由もありませんでした。愛知友の会の会が35年前に設立していたことも大変な驚きでした。
1817年、イギリスのパーキンソン医師により発見されたパーキンソン病。日本では江戸。11代将軍徳川家斉の時代です。その病気の古さにも驚きそのものです。

現在、友の会会員は284名。女房が入会した平成19年より50名の増。設立時の94名とは比べものにならぬ多さです。35年もの長きにわたる友の会の着実で地道な活動のたまものです。各地域で開かれる医療講演会は、会員以外の多くの方にも感銘をもたらしています。年6回発行の会報は、会員の悩みを解きほぐします。会員相互の共有感を高め、深めます。その他の活動においても、会員相互の交流を広めています。35年の歴史の長さに、友の会の充実さと会員の会への信頼の重さを感じるばかりです。

時あたかも、愛知友の会35周年の長さを象徴するかのように、山中教授の iPS 細胞研究へのノーベル賞受賞の快挙が飛びこんできました。山中教授は、「臨床研究のうち、最初に手がけたいのは、パーキンソン病、糖尿病、血圧疾患の3つである。」と言っておられました。パーキンソン病が難病でなく、普通に治る病気への期待が大いに膨らんできたではありませんか。

その日を待ちつつ、愛知友の会の合言葉、ATM、明るく、楽しい、毎日を目標に、会員の皆様とは病気と前向きに向き合い突き進んでいくことを願っています。

友の会と共（友）に歩む

副会長　　**大津慶明**

愛知県パーキンソン病友の会が発足して、35 周年を迎えます。これまで築き上げてこられました歴代の会長さん始め、顧問の先生方、そして役員、会員の皆さんの努力と苦労の賜物と存じます。心より感謝と敬意を申し上げます。

私が友の会と出会ったのは、平成 13 年にパーキンソン病と診断されたときです。これからどうしたら良いのか悩み大きなショックを受けている時、家内が心配して色々と調べて愛知県にも友の会があることを知り、当時の会長丹羽さんの所を訪ねたのが最初でした。

丹羽会長さんには色々と教えていただきました、まず病気への取り組む姿勢、受け入れて前向きに生きることなど基本的なことを教わりました。云うまでもなく素晴らしい人でした。お陰さまで大変気が楽になったことを思い出します。
当時はまだ働いていましたので入会はしておりませんでしたが、家内の方が連絡を取っていたようです。

平成 20 年に定年退職を迎えたところで入会し、前会長の大道会長さんからのお誘いもあり役員会にも出席するようになりました。出席して一番びっくりしたことは役員の皆さんの元気の良さと明るさには驚かされました。入会して 5 年ほどになりますが、これまで友の会の行事を通して沢山の人と交流し、いろいろなことを学ぶことが出来ました。これも友の会があったからこそと感謝しております。

友の会は、患者とその家族に勇気と希望を与えてくれます。まだまだ一人で悩み苦しんでいる人がいることと思います、そう言う人たちに入会を勧めたいと思います。友の会は必ずその支えになってくれることと信じています
パーキンソン病もいつかは難病と言われない日が来ると思います。それまで夢と希望を抱いて友の会と共に歩んでいきたいと思っています。
これからも宜しくお願い致します。

友の会との出会い

副会長　**大津邦世**

あたたかい春のひざしが心地よい季節となりました。
友の会と私の出会いは 11 年ほど前になります。

夫が市民病院でパーキンソン病と診断され、私は病名と難病であることしか知らず不安が募りました。ネットで大阪パーキンソン病友の会の元会長さんのことを知り、藁をも掴む気持ちでお電話いたしました。会長さんの奥様とお話しすることができ奥様が「主人はパーキンソン病ですが今は“チャンバラ剣道“をやって楽しんでいますよ～」と。私は奥様の明るいひと言に励まされました。またその際、当時の愛知県パーキンソン病友の会丹羽会長さんをご紹介いただきました。

私は早速丹羽会長さんへお電話をいたしました。「今からここに来られますか」とお誘い頂き丹羽会長さん宅へ伺いました。木漏れ日の中、優しい笑顔で迎えていただき緊張が一気に解れました。丹羽会長さんの “病気を受け入れ前向きで生きて行くように”のお言葉が印象的でした。
以前、丹羽会長さんと副会長の大道さんと 3 人でラーメンを食べに行った時、お二人とも少年みたいな笑顔でジョークが飛び交い、とても楽しかったことを覚えております。懐かしい思い出です。その後、夫が退職して友の会に入会し現在に至っております。

愛知県パーキンソン病友の会が発足して 35 年、立ちあげに携わってこられました方々におかれましては、計り知れないほどの大変なご苦労があったことと存じます。今、多くの恩恵を受けている私達は幸せです。心より敬意と感謝を申し上げます。

友の会のお陰で、諸先生方に医療講演会と会報では病気と薬のことを教えていただいています。音楽療法では笑顔の先生方のご指導で心も和み心地良いひと時を過ごしでいます。またリハビリでは心身共にリフレッシュできています。このように温かいお心で友の会を支えてくださっている諸先生方、ボランティアの方々お多忙の中いつもご尽力いただきましてありがとうございます。
心よりお礼申し上げますと共に感謝の気持ちでいっぱいです。
これからもご指導よろしくお願いいたします。

また友の会は会員同士の心のふれあいの場で私の心の拠りどころです。いつも癒されています。これからも先生方を信頼し明日への希望を持って、病気と上手に付き合っていこうと思っています。諸先輩方が築かれました愛知県パーキンソン病友の会を、自分なりに繋いでいきたいと思っているこの頃です。

35 周年記念　～先輩たちに感謝！～

事務局長　**原田　良實**

「継続は力」と言われますが、高齢のなか、パーキンソン病と闘いながら友の会活動を支え、続けていただいた多くの先輩の方々に心から感謝を申し上げます。

平成 21 年 4 月、中日新聞の「パーキンソン病医療講演会」の記事を見て、総合社会福祉会館に出向き、その場で家内が入会をさせていただきました。その後、何回かの医療講演会、一日交遊会に付添っていましたが、平成 23 年 7 月、家族会員として入会し、役員会に参加させていただいています。また、昨年の 3 月からは、越澤事務局長さんの後を引き継ぐことになりました。越澤さんから原稿を書くようにお電話をいただき、事務を引き継ぎ、今しばらくは継続しなければならない者として、改めて 35 年の時を思い、先輩たちの努力に敬意と感謝の気持でパソコンに向かっています。

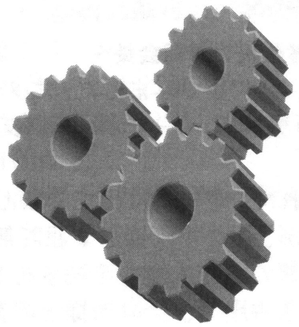
記念誌として、35 周年と言うのは半端な気もしますが、一つには、本部（一般社団法人全国パーキンソン病友の会）の「35 年のあゆみ」（平成 24 年 12 月発行）にあわせたものであり、また、今回出さないと資料が散逸して分からなくなってしまう、という恐れを感じたからだと思います。記念誌で紹介できたものは、35 年のうち、近々の 10 数年の活動についてです。会創設時の熱気ある熱心だったろう活動や、取り組みの記録が残っていなくて、今いる会員の記憶の中にも残っていないのは、大変に残念なことです。

会には毎年 30 数名の方が入会されますが、同じくらいの方が退会されます。高齢者が多く、270 名たらずの会員では、10 数年すれば入れ替わってしまいます。こうした状況の中で、会の活動を引き継いで、形として残していくというのは容易ならざることです。

今回、35 周年記念誌の発行が可能になったのは、歴代の会長さんを始めとして、役員として活動された皆さんや会員の方のお力によるものですが、特に、平成 12 年 11 月創刊された会報の発行を軌道に乗せ、年 6 回（隔月）発行を進められた池田幸夫さん、越澤博さん、会の事務局を一身に背負われ運営されてきた越澤さん、会の役員として運営に尽力され、蔭で、会活動の記録を丹念にまとめてくださっていた現会長の益田利彦さんの三人が、ほぼ同じ時期に活動され、今もいていただいたからだと思います。心からの感謝を申し上げます。

会が発足した昭和 53 年 3 月の頃は、パーキンソン病は特定疾患治療研究事業の対象になっておらず、高額な医療費負担の中で公費助成の決定を待ち望まれ、運動されたことでしょう。平成 18 年には、「特定疾患はずし」の雰囲気が強くなり、街頭での反対署名活動に盛り上がり、各支部の力を結集し、全国の活動として阻止をしました。今また、難病対策の抜本的な見直しの中で、「人口の 0.1%程度を上回る」は残れるのか、残れないのか。医療費給付水準の見直しで、今後の自己負担はいくらになるのか、など気になる課題が沢山あります。

事務局として、先輩たちが培ってこられた歩みを大切に、皆様とともに会活動を続けて行きたいと思います。よろしくお願いいたします。35 周年おめでとうございます。



祝・友の会発足 35 年周年

丹羽会長と友の会と会報と私

緑区　池田幸夫

愛知県パーキンソン病友の会が発足 35 年周年を迎えられて、誠におめでとうございます。一つの事を 35 年も続けるということは、並大抵の力で出来るものではありません。会員の皆様と会を運営する役員の方々のたゆまぬ努力があってこそ、到達できた金字塔だと思います。
短い期間でしたが、家内と私も友の会の一員として会に参加出来たことを光栄に思います。残念ながら私は病気で体調を崩し、途中でリタイアせざるを得なくなりましたが、この良き機会に思い出にひたってみたいと思います。

～全国大会で患者代表の丹羽会長～

62 才で退職して今後の事を考えていたときに、名古屋にいる娘夫婦から「同居しないか？」との申し出がありました。家内はパーキンソン病と言われて 7 年目のときです。このときは手が振るえ、動きが鈍る程度でしたが、先行きの事を考えて申し出を受けることを決心。平成 18 年 12 月に滋賀県から引越して来て、晴れて愛知の人となりました。

緑区の保健所で「特定疾患患者と家族の会」の案内を貰い、出席してみました。この席で山尾さんご夫妻と木村さんご夫妻に出会えたことで、「愛知県パーキンソン病友の会」のことを教えられたのです。

山尾さんに連れられて、定例会に出てみました。日頃は気にして外に出ることも少なくなっていましたが、ここでは皆さま屈託無く笑顔で談笑しておられる。その雰囲気に飲み込まれて、その場で入会の手続きをしたと家内は申していました。
西も東も分からぬ名古屋で、会の皆様との交流がどれだけ心の安らぎだったことか。一人ではない、すぐ傍に仲間がいるという安心感から、二人とも知らぬ地での不安などは一切感じることなく、愛知での生活に入っていくことが出来ました。

私が定例会に出席とはいうものの、家内の運転手が主な仕事です。場に出ても会報送付の手伝いや進行をじっと聞いたりする程度でした。そういう時に、「第 31 回全国パーキンソン病友の会全国総会・大会」が名古屋で開催されることになりました。このときは、目標に向かって突っ走る迫力と活気がありましたね。
私の役目は、全国から約 300 名の会員を受け入れるための宿の手配です。このことが、会員から「丹羽さん！　丹羽さん！」と言って慕われていた丹羽会長に私をぐっと近づけるチャンスになったのです。

懇親会、全国総会、医療シンポジュームと行事は順調に進み、懇親会では他県の会員をして「愛知の人になりた～い！」と言われた大会も、大盛況のうちに無事終了。
終ると今度は会報の編集の手伝いをすることになり、このときに丹羽会長から友の会への思いや目的、規約、考え方について薫陶を受けました。
丹羽さんの心を支えた「友の会の理念」は、会長に就任（60 才）する前から心にあった「**みんなを助ける**」ということにあります。

1、パーキンソン病友の会は患者のための会であり、患者が中心になって協議し、実行することに意義がある
2、友の会を手伝うということはボランティアであり、リハビリである。一人でも元気にしたいし、助けたい。

この時に、「会員に会って直接話をし、皆を助けたい」という丹羽さんの話を聞いたのです。特に、“みんなを助けたい”という意識は強烈で、会員と直接会って声を聞くことに努めておられました。
「病で苦しいと聞けばすぐ飛んで行き、医者の説明がよく分からないと言われれば病室まで出かけて行く。6 年間で約 120 名の会員に会うことができたが、全員には会えなかった」と平成 20 年 3 月の口述筆記（37 号）で残念がっておられました。
丹羽さんが今でも多くの会員に慕われているのは、ここに理由があったのですね。このとき丹羽さんをここまで突き動かす熱意と行動力に、私は感動したのです。
会報編集と一口に言っても、自分に出来るかどうか不安でしたが、この話を聞いて私は私なりに出来るところまでやってみようと吹っ切れました。

次いで丹羽さんの特筆すべき大きな功績に、「**会報の創刊**」があります。58 才のときに当時の八野会長に請われ、会長補佐としてパーキンソン病友の会に入会。このときに「友の会」と「会員」をつなぐものが何も無いことに気づき、そのためにはどうしたら良いか？と考えられたことが、今日の会報を創刊することでした。
会報は会の活動を補完するもので，その目的は；
①会員を元気付けること　②会員に情報を流すこと　③共に行動すること　です。

私は「電話で話し合う」ことに挑戦してみました。原稿を出して貰い、その元気を皆に届けるという狙いです。電話という気楽さから効果はてきめんで、長い人は 2 時間も話をしていたことがあります。声を出すことで、ストレスを発散できるということを実感しました。留守の方もありましたが、それでも名簿で 4 巡までいきました。

会報の記事で平山先生と渡辺先生の医療記事はパーキンソン病を主テーマにした会報の双璧で、これは他に類を見ません。これと会員の生の声とで構成された非常にユニークな会報で、他県でも多くのファンに読まれています。
こういういきさつで、私は丹羽会長に多くの感化を受けました。最近は山中伸弥教授がノーベル賞を受賞されて、不治の病と言われたパーキンソン病も「**治る**」という希望が見えてきました。しばらく時間がかかりそうですが、ゴールはもうすぐですよ。

それまで皆で励まし合って、元気でいることに努めましょう！

友の会に入会して

東海市　肥後　ひとみ

35 周年おめでとうございます。先人達のご努力と会員さま方の協力によってここまで来たと思います。先人達と会員の皆さん方に感謝いたします。またその中に少しでも参加させて頂き、これからも頑張って会員さんにとって良い友の会でありたいと思います。よろしくお願い致します。

愛知県支部は３５年ですが私が入会して１３年です。役員をやりだして 11 年になります.時の流れは早いものですね。１３年の間色々な事はありました。印象深いものを取り上げてみました。

私が入会するキッカケとなったのは保健所主催の「難病患者とその家族の集い」でその当時の役員の方がいらして「若年性の方も見えるから入会しない」と勧められそれならと入会しました。その時故丹羽支部長に初めてお会いし支部長になられる時に丁度集まりがありそこで丹羽さんに「会報の編集手伝って貰えないだろうか」「パソコンは入力できるか」と問われパソコンを買ったばかりで「勉強中です」と返答し役員になりそのまま現在に至っています。長い様で短い１３年でした。会報の編集をやりだして文章を書く難しさを痛感しました。それまでも文章を書くのが大の苦手だったのですが・・・書いては直され、書いては直されしながら何枚も書き「自分の言葉で書きなさい」「です」「ます」口調はダメ。その時の風景・天候などは書かないなどいろいろと言われ、それからはどうしても、です、ます、口調になりますが自分の言葉で書くようになり楽に書けるようになりなりました。
役員になった総会の時に丹羽支部長から体験発表するか、会報に書くかどちらか選択しろと言われ即座に発表と言ったぐらい書くのが苦手だった私が書くことが苦痛ではなくなっただけでも友の会で役員をやらせて頂いた甲斐があったと思います。
そして全国大会に出席させていただき全国にたくさんの友人が出来ました同じ病で苦しんでいる仲間がこんなにも居ると言う心強さを実感し一人ではない仲間がいると言う事を何時も心に起き毎年年一回の総会で会えるのを唯一の楽しみにしています。もし役員になっていなかったらこんなに全国に友人は出来なかっただろうしましてや病気になっていなかったならこんなに全国に友人は出来なかったでしょう！病気に感謝しましょう！！たまにはいい事もあるものですよ（笑）

１１年も役員をやり、顔ぶれがだいぶ変わりました亡くなられた方も大勢いらっしゃいます。私の恩人でもあり先生でもあった丹羽支部長・元同じサービス業だった大道支部長・同じ東海市の鈴木たか子さん・同じ関西からこられた加藤基夫さん・欄を栽培していた加藤登さん etc・etc 書き出すとキリがありません。お疲れ様でした。安らかにお眠りください
若い者が年上の者を見送るのが努めとは言いますがやはり辛いですよね、毎年何人かの

方がお亡くなりになりますが寂しい限りです。（涙）

友の会に入会した年に全国誌の破壊手術を受けた若年性の方の記事を読み、興味を持っていた所主治医から手術を勧められ最初家の者が反対しましたが本人が納得しているならと手術しました。私にとってこの手術は症状は良くなるし気持ちも明るくなりました、それまで落ち込んでいたのが入院してほかの患者さんを見て自分はまだ軽い方なんだと自覚でき、こんな事で落ち込んでいてはいけないと思い直し積極的に友の会の行事などへ参加させて頂くようになりました。

家の中ばかり居るとどうしても悪いことばかり考えてしまいます、少しでも外へ出ていると緊張しているから薬も効くし悪いことなど思いません。みんなでワイワイ楽しく過ごせれば幸せじゃないですか。
丹羽支部長が言われた　A（明るく）T（楽しい）M（毎日を）で過ごせれば良いですよね。
IPS 細胞がもう少しで解明され治療薬として確率されるのもそう遠くないことでしょう。それまで今の状態を出来るだけ保つように一人ひとり心がけましょう！！

私は友の会に入会して本当に良かったと思います。もし友の会のことを知らなくて過ごしていたら今の状態ではいないと思います、多分手術はしていないでろうしこんなに前向きに生活していないだろうと思います。
友の会の仲間がいるからみんなに助けられ今日このようにして前向きに生活出来ていると実感しています。
ですから役員を 12 年もやっていますが身体が続く限り・皆さんが必要としている限り続けて行こうと思っています。それがお世話になった友の会への恩返しだと思うからです。

今まで友の会を支えて下さった役員の方々ごくろうさまでした。
そしてそれについて来て頂いた会員の皆様方ありがとうございます
これからも会員の皆様が少しでも楽しいひと時を過ごせるような行事や患者・介護人のためになる会報を作って行きたいと思います。

A　・　T　・　M
明るく　　楽しい　　毎日を
をモットーに前向きに行きましょう
明るい未来はもうすぐそこに！！

ひまわりの会との四年間

肥後　ひとみ

愛知県支部35周年おめでとうございます。35年の一部に参加させて頂けた事に心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

4年前より手芸教室「ひまわりの会」を毎月第３木曜日に熱田図書館で行っていました。行うきっかけになったのは山尾さんの「何か会員の皆さんと楽しくお話しながらリハビリなど出来ないものかしら」の一言でした。
その一言で手芸教室が始まったのですが安易な気持ちで始めたものだから教える人がいなく、役員の中で手芸ができる者がその都度教えるという形になりました。
最初は会員さんも参加されていたのですが世話人の段取りが悪くだんだん参加者が減って行きました。

2年目からはヘルパーさんの小林良枝さんが参加されるようになり新しい参加者も増えたのですが小林さんの仕事の時間が合わなくなりどうしても調整出来ないと言う事で辞められました.
小林さんにはいろんな事を教えて頂きました。中でもトイレットペーパーの芯で作ったバーベルを使って行う体操は皆さん楽しそうに身体を動かしていました。
その後はまた元に戻り役員で行っていましたが山尾さんの入院や参加者が役員だけの時が多く
なりこれではやっている意味がないと言う事になり会をやめる事にしました。
段取りをする時にもう少し具体的に決めて始めればよかったと今反省しています。
今後また何か会員さん方と楽しく一日を過ごせるような企画を考えて提案して行きたいと思います。その時はこの教訓を忘れずやれたらと思っています。
短い間でしたが参加頂いた会員並び付き添いの皆様方ありがとうございました。
そして役員の方々お疲れ様でした協力ありがとうございました。

4年間毎月何を教材にするか迷いに迷いましたが今となれば良い思い出です。
やっている時は大変だったけれどその反面作る楽しさもありました。毎回見本を作り、作り方図を作成し材料を調達し当日持っていく。大きな荷物になる時もあったし雨が降る時もあったしクスリが効れてヨタヨタしながら電車に乗って行く時もありました。その繰り返しだったけれどそれが今なくなり楽にはなったけれど何か物足りない・・・また何かきっとやろうと思っております。

皆さんも何かこんなことがやりたいと言う事があればどしどし言って下さい。役員会で検討し決定しますので宜しくお願いします。

３５年ですって

益田　緑

ある時、会のお仕事を皆で手分けしてやりましょうと言うことになり、私は一泊旅行を担当することになったのです。今までは自分のことばかりを優先していたので調子が悪くなったらどうしよう、動けなくなったらどうしようと心配になりました。でも少しは役に立ちたいと思うこともあって、出来るだけやってみようと「主人を当てにして」引き受けました。失敗もありました。其のたびにしかられたり怒られたりもありますが、我が家の暗黙のきまりで、なにをしても、成功は、主人のせい、失敗は私が原因、私の失敗の原因はみーんなパーキンソンのせいですので済みません。と誤ることになるのです。旅行の日取りが決まっていざ取り掛かってみると色々とあって、それまでは越澤さんが、たんたんとこなしてみえたことが、大変だったんだなーと分かりました。ビラ、マリーンでの交流会は、もう９回めになるそうです。内容はまずメインは、平山先生との懇談です。その後製薬会社の方のプロなみのマジックをみせて頂いたことも何回かありました。クイズをしたり歌をみんなで歌ってもみました。そして昨年は山田先生にお願いしてヨガの手ほどきをして頂きました。
今年も一泊旅行は予定されております。昨年は４７名参加して頂きました。いつもの人がいつものように出席されると本当にうれしいですし新しい方が増えるのもお会いするのが楽しみです。何かいい案がありましたらお聞かせ頂くといいと思います。
それにしても友の会が出来て３５年経ったとのことです。私は入会して１０年位になります。其の頃病気が進んできて仕事にも行けなくなって目標をなくしたような気になっていました。そんな時一度事務所に来て見なさいと丹羽会長からお電話を頂き、おそるおそる出掛けたのです。そこで丹羽さんや先輩役員の方達に色々お話を聞いたりするうちに自分の出来きることをすればいいと言われ、迷いつつ事務所へ行くようになったのです。丹羽さんの友の会に対する熱意に感心したことや、山尾さんからお手紙やら電話をたびたび頂いたこともつづいた原因です。それから４年ほどたちました、其の間には丹羽会長、大道会長、を始め何人かの方との悲しいお別れもありまし

た。会の行事で初めの頃にであった方も少しずつ病状が進んでくるのかデイサービスにでも行かれるせいか、いつの間にか来られなくなっています。そうかと思うと初めてお会いしてからもあまり変わられず元気そうな人もみえます。３５年も前の方は今のようにお薬も種類がなかったと聞きますし、私達よりもっともっと大変な毎日だったのでしょうね。私は入会して出会った人達に色々教えられました。友達も出来ました。この友の会を立ち上げてくださった方がたに感謝したい気持ちです。今生きている私達で先輩達の作られた友の会をこの病気で苦しむ人がいなくなる其の日までみんなの為と自分の為に続けることが必要だと思います。今回そんなことを考えました。

３５周年　おめでとうございます

北区　冨板　邦夫

「 ゆったり 」でいこう！　（その７）

皆様、その後お元気ですか、今冬は本当に寒くて暖かな春を待ちかねてましたね～
友の会設立３５周年のお祝いの年を迎えられましたこと心よりお慶びを申し上げます。

今日あるのは初代会長故丹羽浩介様２代目会長故大道忠弘様の、お力の賜であることは明白です。丹羽様に直接お目にかかったことはないので、お人柄等詳しくは存じ上げませんが平成１６年全国友の会副会長の要職につかれて活躍されたとお聞きしています。
私の入会時の会長は、今は亡き大道忠弘様ですが、最初にお会いした時に直節に声をかけて頂き、熱心に入会を勧めて下さいましたことが今でも思い出されます・・　合　掌　・・

そして、現会長の益田利彦様を筆頭として歴代の顧問・副会長や役員の方々のご尽力のお陰であることは言うまでもありません。心より感謝申し上げる次第であります。
毎年の総会を、始めとして年間行事の役員会・音楽療法・一日交流会・ひまわりの会・医療講演会・一泊旅行・国会請願・全国大会など、そして会報の発行とスケジュールを守るべく、日夜取り組んでおられるボランティア精神に心から敬服を致しております。

今後とも、友の会の発展のために幾多の困難をも乗り越えられて支部会員３００余名を始めとして、全国の難病と戦っている方々のお力になって頂きますように、３５周年の記念誌投稿に当たりまして、お祝いの言葉に添えましてお願いを申し上げます。
私のパーキンソン病との闘病につきましては、会報５１号「平成２２年度・総会・体験発表」で掲載させて頂きましたので、ここでは略しますが、初診は脳神経外科のＣＴ受診及びＭＲＩ撮影後に、神経内科の受診を勧められました。受診後に「Ｐ病」との診断告知に「ガックリ」と来た事がつい最近のことと思い出されます。
私の場合は病名診断の結果が早くに告知された為に、専門医本町クリックによる早期治療が始めることができ、今でも病状の進行を遅らせる事が出来ていることは幸であります。

その後に、友の会の存在を知り一日交流会に参加をした後に入会させて頂きましたが、平成２１年３月入会から５年の歳月が達ちましたが、この間には色々な方々との出会いがあり、又数々の教えを受ける事ができました。本当にありがとうございました。

６５歳で発病して後、多くの友達にこの病気の内容を説明することは、当時はまだまだ一般の方に知られていなくて、理解を得るには多大な労力と時間を要したのです。私は

皆様に病気を知って頂きながら病気予防又は万一にも罹病後に速やかに治療が専門医により受ける事が出来ればとの思いで、罹病経過説明資料Ａ４版２ページにて作成し参考までにと、小中高校・大学同窓会と職場ＯＢ会において、平成２１年に配布したのです。文末にこの資料を添付しました。内容は少々古いですが、ご容赦下さい。

その結果が出たのです。今年の高校新年会の席上で同級生が昨年末に足運びが少しつらい文字が書きづらいなどの症状が感じられたた時に、この文書を保存していたことを思い出し、早速に取り出して読み直しをした後に覚悟を決めて、大病院の神経内科において自ら積極的に依頼してＭＲＩ等での診断を得た後に、メネシット錠の調剤・服用し症状の改善を確認後、２回目の診断で「パーキンソン病」と告げられたとの報告です。
「冨さんの文書がとても役に立ち又精神的にも力強く助けられた」と、この文書配布をすごく感謝されました。
私としてはこのことは「嬉しいやら悲しいやらの気持ち」で、やはり予防には繋がらないと残念に感じたのです。同級生は告知のショックから立ち直りかけた時期ですので、色々の良い情報を入手ができる「友の会」を説明しまして入会を勧めています。

近年、音楽療法が神経を患った方へ効果があると、しばしば報道されております。この音楽療法を早くから取り入れられた役員の皆様や鵜飼久美子先生のご尽力と先見の明に感じいるばかりです。月１回の名大病院内ナディックで開催されています音楽療法は、本当に和やかであり家庭的な雰囲気を持ち、歌うことにより心を癒してくれますので、付き添ってくれています家内も大喜びで情報交換のおしゃべりも何よりのストレス発散になると、主客転倒と言われながらも毎月の音楽療法を楽しみに出席しています。

毎年開催されます「クリスマスコンサート」これがまた非常に楽しい行事なのです。夏から歌の練習を始めてますが、選曲が鵜飼先生の真骨頂でして、毎年どんな選曲なのかとドキドキ楽しみです。ちなみに過去では「ビリーブ」や「ありがとう」等でした。昨年は、ＮＨＫ・ロンドンオリンピックテーマ曲「風が吹いている」でして、とってもむつかしい曲で、練習始めは皆様コンサートに間に合わないかとの、懸念を持っていましたが、流石は鵜飼・鈴木先生のご指導よろしくて、当日は皆様の気持ちがぴったりと合って見事な合唱となり、１００名を超える観衆の胸に響く歌声となりました。我々もこれだけ歌えるものだとは、思ってなくて歌った後の充実感は高く、暫し病気のことを忘れてしまい「音楽って素晴らしいな～」と感じ入ったものです。どうぞ、会員の方で、ご参加まだの方は一度ナディックを訪ねて見て下さい。本当に楽しいですよ・・・

今後は会の発展のため行事に夫婦揃って「ゆったり」参加して参りますので、よろしく御指導をお願い致しまして、お祝いの言葉とします。３５周年おめでとうございます。

私　パーキンソン病に　なっちゃいました・・・おとみ・・

ご参考までに　冨板　邦夫
平成21年7月（作成）・9月（加筆）

１：パーキンソン病とは、どんな病気なのか？

脳内中心部の中脳にある黒質部分の神経細胞がなんらの原因（不明）ですくなくなる。
身体を動かすために、神経を送るドーパミンという物質が、約２０％以下に減少・不足することにより、さまざまな運動障害が発症すると考えられています。

症状は、「振戦」手足のふるえ　・「筋固縮」筋肉のこわばり　・「無動」動作が遅くなる
・「反射障害」姿勢保持困難などの４大症状がでる。

ほかに、小刻み歩行・すり足・すくみ足・首下がり等の歩行障害、声が小さくなる・出にくい、食べ物を飲み込みにくくなる、よだれがでる、幻視・幻覚、車いす使用、寝たきり体力。

２：どうして、黒質の神経細胞が減るのか？

減る原因は完全にわかっていません。しかし、少しづつ解明されつつあります。
現在は、厚生労働省の難病指定されている１２３疾患のうちの１つです。

例　・重症筋無力症　・スモン　・潰瘍性大腸炎　・悪性関節リウマチ　など

近年、新薬開発などにより生命保持に関しては、平均寿命を全う出来るようになった。
この病は、命をおびやかす病気ではないが、進行すると転倒による頭部・大たい骨・腕の骨折により寝たきり・嚥下障害による肺炎・窒息などによる合併症よる危険性が大である。

３：どんな人に多いのか？

発症年齢のピークは、５０歳代後半から６０歳台です。比較的高齢者に多いといえる。
日本では、人口１，０００人に約１人と言われている。１９９６年調査で１３万人である。

60歳代で300人に1人・70歳代で150人に1人と言われていて。
特に、高齢の80歳代では、130人に1人で糖尿病の患者と同数の有病率である。

ライフスタイルの調査によると、お酒を飲まない・たばこを吸わない・仕事第一中心生活・実直で几帳面・頑固・くよくよして反省度が大きい等がみられる。　また、高学歴・管理職・運動量少ないなどの傾向があり、まじめな性格な人に多く罹患が見受けられる。

中年以降に発症する場合は、遺伝性はないが40歳以下の若年性罹患は家族間も注意が必要。

４：どんな経過なのか？

初発症については、人さまざまであるが、わたしの場合を思い起こせば、4−5年前から、やや身体の柔軟性・前屈が劣りズボンを履く時などに、上げた足がズボンに引掛かかったりした。

また、車の運転中もバックする時など、後ろを見る時の首の回しがつらいので、サイドミラーを主にしてバックしていた。また、お風呂で、背中に手がうまく廻らないのでブラシを使った。また、会話しているときの発声に、舌の回転がなんとなく鈍く、自分で舌足らずに感じていた。

そのうち、ギックリ腰になり整形外科で治療・マッサージ治療していたが、完治しないまま、歩行姿勢が傾いている、また、足を引きずる、小幅で歩くなど症状が出て、娘や家内がおかしいと言い出して、本人も自覚し「家庭の医学」の本にて研究し、65歳時に受診する気になった。
NO．2／2
名城病院の脳外科に飛び込み受診して、ＣＴ／ＭＲＩ検査したが、脳には異常が見つからないので、神経内科の受診を薦められ、2回の診察で「パーキンソン病症候群？」と診断された。運よく名大病院派遣医師で、この病気の専門医だったので早めに服薬したので、進行を緩やかに遅らすことができた。今は、本町クリニックにて「パーキンソン病」と診断・治療しています。

なかには、病名が分からずに１－２年ほど遠回りしてからの、治療・服薬となり病状が進んでしまい、車いすや寝たきりの人が多いので注意が必要です。腰痛・痴ほう症など注意。
統計上から初発症状は、手先・指先の振戦（ふるえ）が多く、つぎに動作の拙劣（のろい）・歩く姿勢が前傾、カラオケが歌いづらい・字が書きにくいなどが続く。
四十肩と思って治療していたら、他の症状が出てパーキンソン病と診断された例もある。

５：よく似た病気は？

ほかの原因で、神経経路が障害を受けた場合にも、いろいろな運動障害が現れるが、それらは「パーキンソン症候群」と呼んで区別される。　主な病気は、脳動脈硬化症・脳梗塞・脳腫瘍・脊髄小脳変性症などですが、なかには、脊柱管狭窄症との同時進行の例もあります。

６：どのような、治療法があるのか？

治療の基本は、薬物療法でさまざまな薬を組み合わせて服薬します。
現在は、どの薬も根本的に治療する「原因治療薬」ではなくて不足するドーパミンを補うことで症状を緩和する「補充療法薬」である。現在は新薬の研究が多くされ成果が期待できる。
したがって、常時間隔を明けながら服薬していることが症状を抑えることとなる。
現在のところ、パーキンソン病の進行を抑えることが出来る薬は開発されていない。
あくまで、病状の進行を緩やかにする効果を期待した薬の組み合わせによる治療である。

もうひとつは対処療法の手術療法ある。
経頭蓋的磁気刺激法と言い、磁気刺激装置で、頭皮の上から頭蓋を連続的に刺激する治療法である。また、外科的治療としては、「深部脳刺激療法」と言って、脳の深部に微小な電極、前胸部にパルス発生器（ペースメーカー）を植え込み、持続的に電気刺激を与えていく治療ですが、電池の不具合が発生する。健康保険の適用となり主流となりつつある。

７：どのような、リハビリがあるのか？

１）薬物療法と併用。　　２）動かさないと衰えるので、リハビリ・軽い筋トレ。
３）転倒防止の筋肉・関節の運動。　４）人・刺激との触れ合いを主に神経・音楽療法。

８：り患した著名人は？

（敬称略）

・昭和　天皇　　・夏目　漱石　　・三浦　綾子
・岡本　太郎　　・アドルフ・ヒトラー　　・キャサリン・ヘプバーン
・ヨハネ・パウロ２世　　・モハメド・アリ　　・ＥＨエリック　　・森　光子

＊この病は、早期に発見して、進行を抑えるくすりを服用することにより、症状が進まない内に、進行を最小限にすることが重大である。

ＡＴＭ　　明(A)るく楽(T)しい毎(M)日を！！

「全国パーキンソン病友の会」愛知県支部キャッチフレーズ

＊皆様のご参考になればとまとめました。日々健康に注意して、お暮らし下さい。　　以　上

交遊会に思うこと

後藤サヨ子

2007年友の会に入会して交遊会にも参加するようになりました。この病気になってから外出も遠くまでは出来ずにあきらめていました。また、どのように進行していくのかもわからずに悩んでいました。交遊会も家人の送迎つきで参加していました。

会員さんの参加が多く、車椅子や付き添い必用な方杖のいる方、など私よりも進行していると思われる方が元気に電車バスで参加さされているのを見て私も地下鉄で参加するようになりました。これが結構楽しくて自信にもなりました。

2009年ごろから担当役委員として開催の準備などするようになりました。会報に案内を載せてから参加の返事が届くまでの間ドキドキするような気持ちになり大勢参加してもらえるだろうか、当日天気はいいだろうか，喜んでいただけるだろうか、参加された方たちは充分にお話しができるだろうか、そんなことを考えながらたのしい時間を過ごしていました。当日終ってから，きてよかったという言葉がいただけたときはやってきてよかったと思いました。

会員の方が安心して出かけれる場所として,会員同士が交流を出来る場所としてリハビリや♪療法の受けれる場所としての交遊会,ですがこれからも発展していけますようにますます楽しい会になります様にと摂に思います。

みなさんも参加して見てください、自分の体に自信をつけて下さい暖かくなると体調もよくなると思います意外と行動できる自分を見つけられるかもしれませんよ。

35周年を迎えて

春日井市　　森　久子

近くのしだれ梅がちらほら咲き始め、日ごとに暖かくなりもうすぐ春本番となりますね。友の会も35周年を迎えます。私が入会した時に、前通っていた病院が家から遠く車で2 時間ほどかかり一日仕事で疲れてしまうので、今の病院を紹介していただき変わることにしました。パーキンソン病になって7年になります。

還暦祝いの時に、息子、娘夫婦と孫4人総勢10人で大阪のユニバーサル・スタジオ・ジャパンへ一泊2日で2台の車に分乗して出かけました。そのころはまだ体の不自由さは苦にならなかったので、子供たちと一緒に行動できとても楽しい思い出になりました。

友の会は今35周年を迎えましたが、私は入会してまだ7年程です。会を立ち上げられた方々のご苦労は大変なものだったと思います。入会した頃の思い出として丹羽前会長が体の具合いはあまり良くなかったと思いますが、全然そんな素振りも見せず精力的に動き回っておられたのが印象強く残っております。

大田川の事務所に月の初めの土曜日に役員の方が集まっていました。入会して間もなくの頃、役員会に出席させて頂いた時、事務所から車で５分ぐらいの所にある公園で皆さんとバーベキューを楽しんだことが思い出されます。その時前会長は「ある人は自分から進んで仕事を探して率先して働いている」と非常にほめて見えました。私は何もしておらず、とても恥ずかしく思いました。前会長は良く見ておられると思いました。私は病人だと甘えて無駄に時間を過ごし、またお役にたつことができていないと“反省”。もっと患者同士互いに助け合い、励ましあいながら「ＡＴＭ」(明るく・楽しい・毎日を)で過ごせるように、また一日３人以上の方とお話が出来ればもっと素晴らしい毎日が過ごせると信じています。

名古屋で有名な「ぎんさん」の子供たち４姉妹もおしゃべりが健康維持にとても効果があると言われています。　会報が私たちの日常生活の向上に役立つよう報告しあえる場になると良いですね。ノーベル賞を受賞された山中教授の研究の実用化が進み、早期に私たちの病気　　の治療にも効果的に利用されるようになることを願っております。

ある日ある時

昭和区　奥田冨美江

お正月に、家族でハワイに行きました。ニューヨークにいる娘夫婦と２年ぶりにハワイで合流することになっていました。

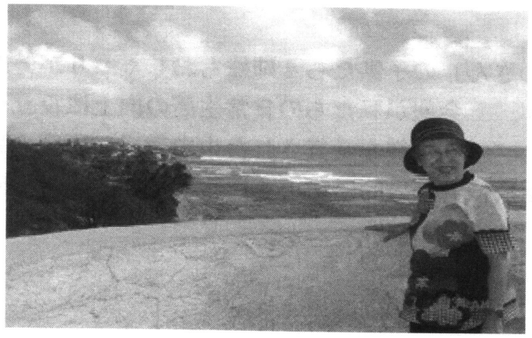
夜２２:００出発、同日の朝９：５５ホノルル着の飛行機に乗りました。搭乗する前に、私の差し歯が １ 本抜けてしまい、嫌な予感がありましたが、飛行機は快適でした。

一眠りしたら、ホノルルへ到着です。出迎えてくれた娘たちと、リムジンでホテルに入りました。虹のかかった青空と、きれいな町並みを眺め、これがハワイかと感動しました。

１日目はフラダンスショーへ、２日目は娘の知り合いの会館へ、３日目は島巡りとショッピングと、病気を忘れて歩き回りました。印象に残ったのは、海の色のきれいなこと、平和公園の戦没者の墓地、見渡す限りの青い芝生のなかに眠っておられる戦没者の人々、思わず両手を合わせました。

私は、全然英語が話せませんが、身振り手振りで通じるものなんですね。リムジン（普通のタクシーと同じ料金）で、ショッピングにも出かけました。ハワイって、世界中の人が集まるところです。その２０％が日本人です。皆ビキニスタイルで、ワイキキの砂浜で、日光浴です。

こうして、３泊５日の旅は終わりましたが、帰りの飛行機の長かったこと･･･帰るのが残念で、又行きたいなぁと今でも思っています。



パワー全開

南区　山田　良知

１月 17 日～3 月 8 日まで私はリハビリの施設のある所で生活している。パーキンソン病で足が動かず大変こまっている。
交互式歩行器で動くものの薬（ネオドパストンとコムタンで不自由を乗り切っている。）

今回利用している所は、リハビリと館内レクレーションが組み合わされていて、けっこう和気あいあいの生活です。
趣味にするお絵かきと館内スタッフの似顔絵を描き、よろこんでもらっている。
又、桜の木の下で大宴会というテーマで貼り絵を 3 月中に完成予定です。
（仕上がったらケアの募集する作品展に出すそうです。）

ディケアが週 1～週 4 になり忙しい毎日を送っている。
2014 年に予定していた個展の計画も断念し、館内ではけっこう人気者でスタッフと仲良くなりリハビリと体力保全に全力でとり組んでいる。

名大での音楽療法でまた元気に歌うことを目標にしている。ア～ア～ア～も忘れずに、鵜飼先生と鈴木先生によろしくおねがいします。先生も体調をくずされない様にして下さい。先生にはお世話になりっぱなしです。ありがとうございます。

歴史は現代に語る　　越澤　博

１．会報

友の会３５周年を迎えましたが発足当時からの記録が見当たらず、創刊号が発行されたのは平成１２年１２月です。当時の担当者は「長年の懸案だった会報ができ、心からよろこんでおります」と述べています。会長は八野健蔵さん、会長補佐は丹羽浩介さん、会報担当は加藤登さんでした。

編集方針は　①　会員を勇気づける明るい紙面であること。②　医学的情報が一つでも多く記載されもの。③　会員同士の連帯を促す共通の話題の掲載。④　話題に富んだ自由な投稿。今も引き継がれています。

３号に丹羽浩介さんの「服部先生　こんにちは」というインタビューが載っています。創刊号発行の年に本町クリニック服部神経内科も開業していました。友の会では顧問をお願いして大変お世話になっております。

記録に残るはじめての、友の会主催・医療講演会は名古屋大学の平山正昭先生でした。後に先生にも友の会顧問をお願いし何かと相談・ご指導をいただいております。

平成１４年から丹羽浩介さんが会長になられました。私が編集を引き受けたのは１８号(平成１７年)からです。年６回の発行にし、目玉は１９号から平山先生に「薬の話」を連載していただきました。ずーと今日まで続いています。一度３８号で「薬の話」を纏めて発行しました。３５号から池田幸夫さんに編集をお願いしました。このころ、丹羽会長は名大病院に入院されていました。また、３６号から入院中の丹羽会長の依頼で、名古屋大学の渡辺宏久先生に「ＥＢＭとオーダーメード治療」と題して連載をいただくことになりました。現在、両先生の連載で会報の価値が上がっています。５７号～５９号、池田さんが体調を崩され越澤がかわりましたが、６０号から大津慶明さんにお願いし現在に至っております。

２．役員会

毎月第１土曜日に東海市の丹羽浩介宅にて開催しております。丹羽さん亡きあとも奥様のご厚意により無料で使用させていただいております。事務局長の司会によって会議は進行します。何時も１５～２０名ほどの出席で、なごやかに話し合っております。友の会運営の顧問である、東海市の議員である神野久美子さんも出席されてご指導くださっております。特に国会請願のときなど便宜をはかっていただいております。すべてボランテア精神を発揮して無報酬です。

３．総会

年に一度、４月に開催しております。会場は東海市の「しあわせ村」「東別院会館」などの会議室を借りていましたが平成１７年度から北区の名古屋市総合社会福祉会館で開催しております。理由は交通の便利と使用料金・無料ということです。現在も借りております。

午前、会計報告、活動経過報告、本年度の活動方針などをお諮りし、つづいて会員の体験発表をお願いしております。午後は医療講演会です。この形は現在も踏襲されております。

４．国会請願

例年、４月１１日にパーキンソン医師の誕生日を記念して国会請願をやってきました。このごろは日にちがまちまちですが請願はつづいております。その準備として１２月・１月・２月と寒い時期に署名をお願いしております。同時に運動資金として募金もお願いしています。毎年のことで恐縮ですが、私たちの生活を社会に知ってもらうためです。平成１９年１２月には名鉄百貨店前で街頭署名運動・募金活動を実施しました。

毎年５-８名ほど請願に行ってもらっていますが、みなさんも参加希望がありましたら申し出てください。旅費は友の会で負担します。顧問の神野先生、地元選出の荒木清寛先生には毎回お世話になっております。

５．全国総会・大会

毎年６月、夏至のころ、各県もちまわりで開催しております。愛知県では平成９年第２１回、平成１９年第３１回と２回開催しております。

第３１回のときは名鉄ニューグランドホテルを会場として開催しました。参加者が多く、名鉄グランドホテルの応援を受けました。３００名に近い会員の交流会は見事でした。また、翌日のシンポジウムは名大教授の祖父江元先生の司会で、平山正昭先生、渡辺宏久先生、梅村淳先生、服部優子先生、丹羽浩介会長、５名による討論でした。

他の県主催のときも数名参加しております。近県の時はバスを使って２０～２５名参加しておりますので、希望者は申しでてください。２５年度は6月１９・２０日静岡です。

６．医療講演会

毎年度、総会のあとの午後、開催しております。その他、年に１～２回実施しておりましたが、２１年度から平山正昭先生のご厚意により、年４回開催しております。総会のときは名古屋市で、あと３回は県下をまわっております。今まで岡崎市、春日井市、一宮市、豊橋市、刈谷市、津島市、半田市、豊田市、瀬戸市で開催してきました。つぎは小牧市を予定しております。毎回１００名前後の参加があり、熱心に質疑応答が交わされています。

私は平成１４年４月の東海市・しあわせ村で開催された総会・講演会から、病妻と共に参加してきました。このときは服部達哉先生、服部優子先生の講演でした。
その後、ほぼ毎回、参加してきました。印象深い講演会は

① １５年４月、中小企業センターで開催された、司会・名大教授祖父江元先生、順天堂大・水野美邦先生の講演、丹羽浩介会長の体験談。
② １９年６月、名鉄ニューグランドホテルで開催された全国大会。
③ ２０年１２月、吹上ホールでの中日新聞主催・市民公開講座。祖父江元先生司会平山正昭先生、渡辺宏久先生、服部達哉先生　お三方の講演。
④ ２３年５月、名古屋国際会議場でのＬＳＶＴ。

７．一日交遊会

記録に残っている平成１３年から、愛知健康の森、東山動物園、名古屋港水族館、中部国際空港セントレア、などで開催していましたが平成１８年度から名古屋港ワイルドフラワーガーデン（ブルーボネット）で行っています。最初は本町クリニックの服部達哉先生の講演、優子先生の音楽療法、スタッフ５名を加えて集団作業療法と楽しく過ごしました。２０年度から現在のように春夏秋冬・年４回実施しています。春はブルーボネットで、あとは名古屋市北生涯学習センターで行っています。音楽療法士の鵜飼久美子先生、作業療法士の埜口義広先生に今日までご指導いただいております。

８．一泊旅行

創刊号に一泊研修会開催の記録があります。参加者２２名、内医師２名(服部医師ご夫妻)講演と音楽療法、夕食後はカラオケに興じ意義ある一泊研修のようでした。その後、一色温泉、あいち健康プラザ・健康の森、等で行い、平成１６年度から現在のビラ・マリーン南知多で行っております。

１９年度から平山正昭先生、神野久美子・東海市議員が同行され夕食後、お話を伺い、懇談しております。翌２０年度から平山先生の奥様も同行され、一段と楽しくなりました。２１・２２年度には、日本ベーリンガーインゲルハイムの山田和弘さんがお得意の手品を見せてくださいました。２５年度は１０回目になります。

９．手芸教室・ひまわりの会

平成２１年度から名古屋市熱田図書館・集会室で始めました。会員の山田良知さんの指導で「ちぎり絵、絵ハガキ」などを作りました。交通の便がよく、集まりもよく、手を使いながらおしゃべりも楽しみました。

２４年１０月、担当者が体調を崩し、残念ながらしばらく休むことになりました。新しい構想のもとに再出発する予定です。

１０．音楽療法

本町クリニックでは平成１３年ごろから、昭和保健所で鵜飼久美子先生にお会いしたのは１７年ごろ、現在、名古屋大学付属病院・ナデックでの音楽療法は１９年８月からと記憶しております。

音楽療法につて、鵜飼先生が会報２３号(平成１８年)から３３号にわたって解説されています。そして、３５号にナデックで音楽療法はじめますと宣言され、今日まで月一回つづけられています。平成２０年からお友達の音楽療法士・鈴木千春さんが参加されました。

月々の成果を発表する場として、クリスマス・コンサートをはじめました。昨年末で５回を数えました。

１１、「もうパーキンソン病と呼ばないで」

平成１５年、丹羽浩介会長が出版されました。順天堂大学・水野美邦教授が書評を寄せています。

丹羽氏は４５歳で発病され、なかなか診断がつかず、その間いろいろの症状に対する疑問や葛藤、苦悩を経て心の平和を得て、多忙な毎日の仕事を平穏にこなしてゆかれるようになるまでの道のり、平成１３年から友の会での活動を通じて知り合った方々との交流を綴ったものである。

とにかく素晴らしいほんである。患者さん、ご家族はもとより、医療従事者、一般社会の方々にも広く読んでいただきたい本である。(会報１０号に搭載)
人類の難敵パーキンソン病に立ち向かうぞという気分が湧いてくる。(丹羽さん言)

記 録 写 真

一般社団法人 全国パーキンソン病友の会 愛知県支部
（愛知県パーキンソン病友の会）

35周年記念誌 原稿目次

項　目		ページ内容	頁数	備考
[35周年の記録写真]				
1	役員会	1-1 ～ 1-2	2	
2	総会	2	1	
3	国会請願	3	1	
4	全国総会・大会	4	1	
5	医療講演会	5 ～ 5-2	2	
6	一日交遊会	6	1	
7	一泊旅行	7	1	
8	手芸教室（ひまわりの会）	8	1	
9	音楽療法	9	1	
10	街頭署名活動	10	1	
11	その他の行事	11	1	
12	集会所・駐車場	12	1	
		合計	14 ページ	

1. 役員会

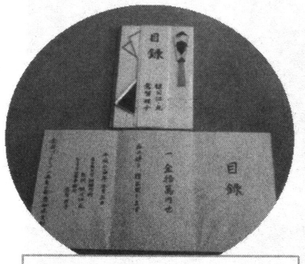
新役員　丹羽会長、大石事務局長、久保田・奥田・中野副会長、他
東海市 しあわせ村 総会にて　H.14.4.14.

丹羽会長・大道副会長・越澤事務局長　他体制　H.18.4.1.

関さんから西瓜差し入れ

関家のハスを観賞　H.19.7.7.

神野顧問・大道会長・越澤事務局長・鵜飼顧問・他役員　H.20.6.7.



授与された謝礼の目録
H.24.3.3.

会報の発送作業

益田会長、越澤事務局長、山尾・山尾・池田・浅井副会長、他役員　H.23.10.1.

名大の名代　田中先生から
目録を授かる

神経学会・LSVT協力の謝礼を祖父江教授・LSVT事務局から授与された
田中康博先生・越澤事務局長・益田会長・神野顧問・他役員　H.24.3.3.

2. 総会

東別院会館　　H.15.4.27.

名古屋市総合社会福祉会館　　H.22.5.1.

体験発表　佐々木義祐さん　H.24.4.14.

体験発表　増田民子さん　H.23.4.30.

手芸教室の作品発

福祉用具の展示・説明 近藤将人先生　H.24.4.14.

平成24年度総会　名古屋市総合社会福祉会館　H.24.4.14.

3. 国会請願

パーキンソンデー
国会請願集会に参加

H.15.4.11.

国会請願集会　衆議院第二議員会館にて　H.20.4.11.

参議院議員荒木清寛先生に、議長宛て
請願書仲介依頼　　H.20.4.11.

H.21.4.14.

4. 全国総会・大会

【全国パーキンソン病友の会総会・大会】を愛知県支部が主催
① 第21回（愛知県大会）蒲郡市・ホテル明山荘　H.9.5.24-25.
② 第31回（名古屋大会）名古屋・名鉄ﾆｭｰｸﾞﾗﾝﾄﾞﾎﾃﾙ　H.19.6.21-22.

名大 祖父江元先生	名市大 梅村淳先生	本町ｸﾘﾆｯｸ 服部優子先生	名大 平山正昭先生	名大 渡辺宏久先生	患者 丹羽浩介会長

体験発表　丹羽会長

交流会　丹羽支部長・齋藤本部会長

第33回富山大会の帰り 白川郷にて H.21.6.19.

第32回神戸大会の帰り
明石海峡大橋にて　H.20.6.25.

5. 医療講演会

パーキンソン病市民公開講座 共催　東建ホール・丸の内　H.24.6.9.

水野美邦先生

名大
梶田泰一先生

本町クリニック
服部達哉・服部優子先生

瀬戸蔵　H.24.1.28.

名大 平山正昭先生　H.23.10.22.

豊田産業文化センター　　H.23.10.22.

瀬戸市 瀬戸蔵　　H.24.1.28.

平山正昭先生

半田市 市民交流センター・ホール

6. 一日交遊会

あいち健康プラザ　H.14.6.9.

風船バレー　ﾌﾞﾙｰﾎﾞﾈｯﾄ

埜口先生のリハビリ指導

ボッチャー　北生涯学習センター

鵜飼先生の音楽療法　ﾌﾞﾙｰﾎﾞﾈｯﾄ

音楽療法　北生涯学習センター

7. 一泊旅行

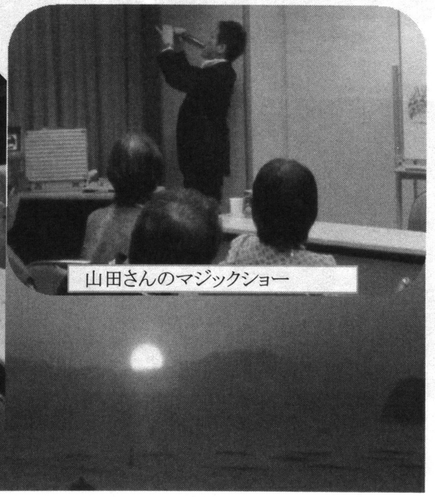
懇談会　ビラマリーン南知多

三河リゾートリンクス　H.14.10.17-18

平山正昭 先生

ビラマリーン南知多　H.24.11.18

山田順子先生の指導でヨガ

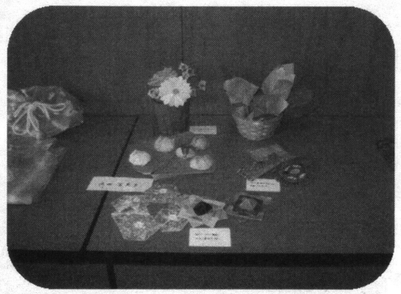

山田さんのマジックショー

8. 手芸教室（ひまわりの会）

名古屋市 熱田図書館 会議室　毎月1回

総会に作品展示

小林先生の指導で柔軟体操

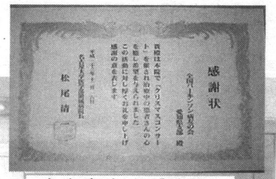


お詫び:「ひまわりの会」は都合により平成25年1月から、暫くお休みしています。

9. 音楽療法

名古屋大学　患者の広場 ナディックで 毎月第二火曜日
午後2時15分～3時30分

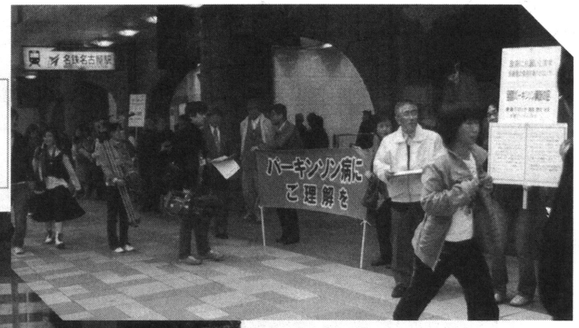
鈴木千春先生　鵜飼久美子先生



名大病院より感謝状

名古屋大学 新春コンサート（音楽療法発表会） H.22.1.15

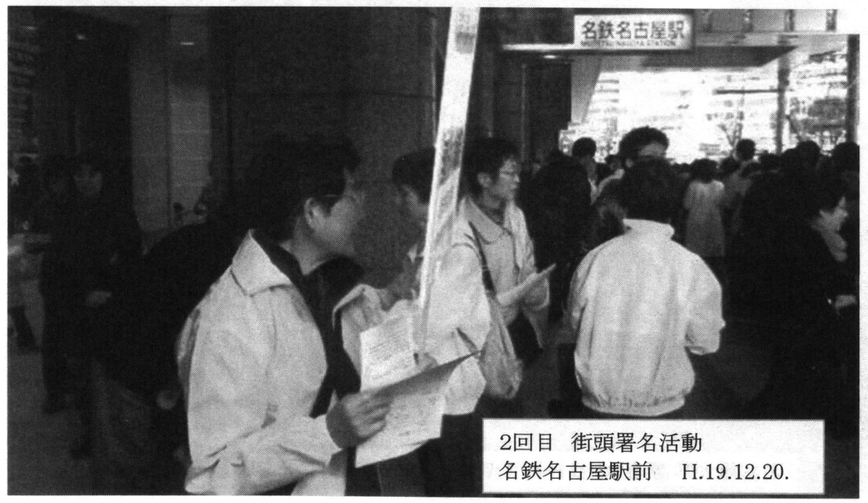
10. 街頭署名活動



医療費助成外し反対の街頭署名活動
名鉄名古屋駅前　H.18.11.12.

NHKのインタビューを受ける、
丹羽会長

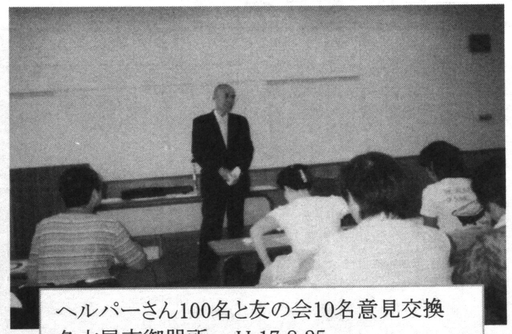
NHKのインタビュー　H.18.11.12.



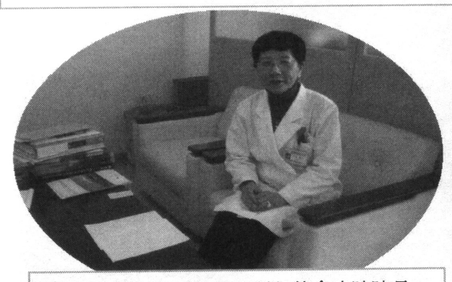
2回目　街頭署名活動
名鉄名古屋駅前　H.19.12.20.

11. その他の行事

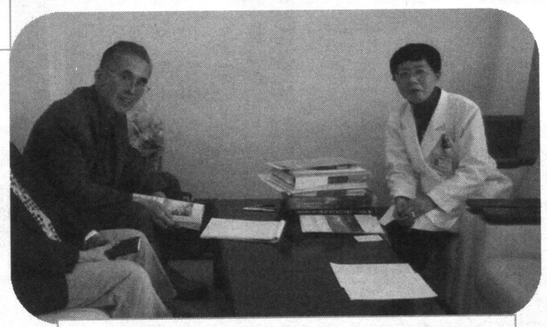
アジア太平洋パーキンソン病シンポジウム 参加
韓国・ソウル　丹羽・則竹・中島、H.15.10.3-6.



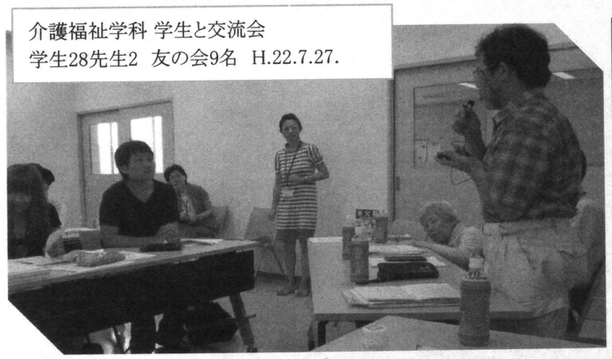
ヘルパーさん100名と友の会10名意見交換
名古屋市御器所　H.17.8.25.



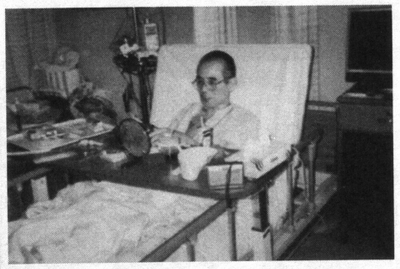
藤田保険衛生大学・坂文種報徳會病院院長

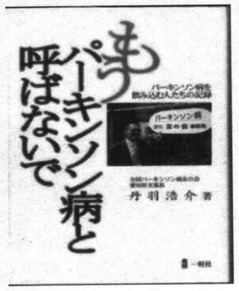


山本纁子教授に聞く　丹羽会長　H.19.12.7.



介護福祉学科 学生と交流会
学生28先生2　友の会9名　H.22.7.27.





学生との懇談会に出席者
名古屋文理大学短期大学部
H.22.7.27.

12. 集会所・駐車場

集会所　東海市　丹羽さん旧宅

雨尾幼稚園

駐車場 幼稚園オーナーの都度使用承諾

駐車場オーナー　観福寺

行 事 記 録

一般社団法人 全国パーキンソン病友の会 愛知県支部
（愛知県パーキンソン病友の会）

35周年記念誌 原稿目次

項　目		ページ内容	頁数	備考
[35周年の記録]				
1	愛知県パーキンソン病友の会の記録	1-1 ～ 1-13	13	
2	全国パーキンソン病友の会会報 愛知県版	2-1 ～ 2-2	2	
3	医療講演会の記録	3-1 ～ 3-2	2	
4	一日交遊会の記録	4	1	
5	一泊旅行の記録	5	1	
6	手芸教室「ひまわりの会」の記録	6	1	
7	名大「広場ナディック」の音楽療法の記録	7-1 ～ 7-2	2	
8	その他の行事	8	1	
9	平山正昭先生の会報投稿目録	9	1	
10	渡辺宏久先生の会報投稿目録	10	1	
11	全国総会報告の愛知県支部事務所・役員等	11-1 ～ 11-3	3	
12	全国総会報告の愛知県支部活動状況	12-1 ～ 12-4	4	
		合計	32	ページ

愛知県パーキンソン病友の会の記録

1817	文化14	英国の医師Jams Parkinson が「An Essay on Shaklng Palsy」(震戦麻痺)について論文を発表した。この本には6名の患者の症状が記されていた。[ジェームズ・パーキンソン]：1775.4.11.イギリスのロンドンで生まれ医師として活躍した。
1888年	明治21	フランスの神経学者 J･M･Charcot によって再評価され、[ジャン＝マルタン・シャルコー] 彼の提唱により、本疾患はパーキンソン病と呼ばれるようになった。
1919	大正8	C･Tretiakoff がパーキンソン病の病巣が黒質であることを発表。
1947	昭和22	ｼｭﾋﾞｰｹﾞﾙとﾜｲｽによって始めて定位脳手術が行われる。
1948	昭和23	楢林博太郎先生により淡蒼球の破壊手術が行われる。 後視床下核ににに変わる。
1960年代	昭和35年代	L-ドーパによる治療が開始される。
1972	昭和47.10.	厚生省に「難病対策要綱」が出来る。
1973	昭和48	「愛媛県パーキンソン病友の会」結成 （会員 4名）
1976	**昭和51.11.23.**	**「全国パーキンソン病友の会」結成** （愛媛県・東京都・神奈川県 3県）
1978	**昭和53.03.25.** **昭和53.04.01.**	**「愛知県パーキンソン病友の会」結成** **全国パーキンソン病友の会 愛知県支部 加入**
1978	昭和53.10.01.	パーキンソン病が特定疾患治療研究事業の対象に指定され、公費助成が決まる。
1987	昭和62	DBS(脳深部刺激療法)がフランスの脳外科医 Benabid により開発。
2000	平成12	DBS(脳深部刺激療法)が日本で始められる。

1978.3. - ･････		
･････ . -1998.3.	H.････ -10.3.	会長：林 三郎、 副会長：伊藤 加津子
1998.4. -2000.3.	H.10.4. -12.3.	会長：八野 健蔵、副会長：大石 郁子
2000.4. -2001.3.	H.12.4. -13.3.	会長：八野 健蔵、副会長：加藤 登 （八野健蔵:本部幹事）
2001.4. -2002.3.	H.13.4. -14.3.	会長：八野 健蔵、事務局長：丹羽 浩介 （八野健蔵:本部幹事）
2002.4. -2004.3.	H.14.4. -16.3.	会長：丹羽 浩介、事務局長：大石 郁子 （丹羽浩介:本部幹事）
2004.4. -2006.3.	H.16.4. -18.3.	会長：丹羽 浩介、事務局長：越澤 博 （丹羽浩介:本部副会長･愛難連会長)･(則竹昌常:本部幹事）
2006.4. -2008.3.	H.18.4. -20.3.	会長：丹羽 浩介、事務局長：越澤 博 （大道忠弘:本部幹事）
2008.5. -2010.3.	H.20.5. -22.3.	会長：大道 忠弘、事務局長：越澤 博
2010.4. -2012.3.	H.22.4. -24.3.	会長：益田 利彦、事務局長：越澤 博
2012.4. -	H.24.4. -	会長：益田 利彦、事務局長：原田 良實

年月日	行 事	明 細	備 考
[1996]			
H.08.04.18.	平成8年度総会	名大(鶴友会館) 平成9年度の全国大会 出来るか再度確認	
H.08.06.02-3.	春の研修旅行	(一泊旅行) (県リハビリ･センター「木曽川荘」 中止)	
H.08.11.	秋の研修旅行(1泊2日) 第21回全国大会準備等事務	サンシテイ豊川 ① 参加7人	
[1997]			
H.09.05.24-25	**第21回全国大会(愛知大会)開催** 午前:全国総会報告 午後:医療相談会	**ホテル明山荘 (蒲郡市三谷温泉)** 国立療養所中部病院 名誉院長 安藤一也先生 「パーキンソン病の治療これまでとこれから」 国立療養所中部病院 理学療法科 主任 外山治人先生 「パーキンソン病のリハビリテーション」 体験発表 伊藤 加津子(患者)、森 英雄(家族)	

H.09.12.01-2.	秋の研修会(1泊2日	ビラマりーン南知多 (愛知県南知多老人福祉館) ① 新入会員(八野健蔵以下5人)の紹介 講演: 半田保険所美浜支所長 丸山晋二 「パーキンソン病の日常生活」 半田保健所地域保健課 技師 相場悦代 「パーキンソン病とリハビリについて」
	難病対策(街頭活動)	名古屋・金山総合駅で難病対策の早期確立要望する議定書 署名運動・ビラ配り 役員・会員による
[1998] H.10.	春の研修会 総会 医師の講演会	午前 (場所不明) 午後
H.10.	秋の研修会(1泊2日)	(場所不明) 1日目 医師の講演 座談会 2日目 リハビリ体操 座談会
	ストレッチ体操ビデオ作成して会員に配布 愛難連の行事に参加	定期総会・新年交流会・保険医協会の懇談会
[1999] H.11.	春の研修会 総会 医師の講演会	(場所不明)
H.11.	秋の研修会 医師の講演会	(場所不明) 医師の講演と懇談会
	「リハビリ体操」ビデオ(介助編)作成 地域保健所との交流会 愛難連の行事に参加	
[2000] H.12.	春の研修会 総会と、体験発表、音楽療法 医師の講演会	(場所不明)
H.12.11.16-17	秋の1泊研修会	医師の講演と音楽療法、 参加者22名 内医師2名 南知多町・「ビラ・マリーン南知多」(愛知県南知多老人福祉館)② 講師:本町クリニック お話 服部達哉院長・音楽療法 服部優子副院長
	愛難連の行事に参加 役員会7回開催	
H.12.11.22.	会報(全国パーキンソン病友の会 愛知県支部だより) 創刊号発行	
[2001]		
H.13.02.03.	名古屋市民講座	(名古屋市主催) 名古屋市科学館サイエンスホール 遺伝子研究がひらく難病治療 ～ここまでわかったパーキンソン病～ 講師:永津俊治医師 藤田保健衛生大学医科学研究所 所長 水野美邦医師 順天堂大学医学部脳神経内科 教授
H.13.05.27.	平成13年度総会 PM・医療講演会	東海市・しあわせ村 講師:ひろせ善清先生 ひろせクリニック院長 一般参加者 30人
H.13.08.26.	医療講演会	蒲郡市 一般参加者 30人
H.13.10.20.	医療講演会	ウイルあいち(愛知県女性総合センター) 350人 講師:祖父江 元 名大神経内科教授 平山 正昭 名大神経内科先生 服部 信孝 順天堂大学医学部脳神経内科先生
H.13.10.21.	行楽的集い(一日交遊会)	参加者 30人 あいち健康の森公園 (大府市・東浦町)

[2002]		
H.14.04.14	平成14年度総会 10.30-12.00.	東海市・しあわせ村 3F会議室 (新役員:会長 丹羽浩介・事務局長 大石郁子) 総会・体験発表
	・医療講演会 13.00-15.00.	医療講演会 講師; 本町クリニック・服部神経内科 院長;服部 達哉 医師 服部 優子 医師
H.14.05.17-18	第26回全国総会・大会	千葉県木更津市「かずさアカデミアセンター」 新役員; 清水 昇勝 会長 丹羽 浩介 幹事
H.14.06.09.	一日交遊会	参加者 35人 東浦町 あいち健康プラザ (あいち健康の森健康科学総合センター) 名古屋市教育委員会 中島先生を迎え
H.14.	会歌作成	「愛知の友を得て」 作詞・作曲 都築妙子、編曲 林和泉、 CD有
H.14.10.12.	医療講演会	参加者 約350人 一宮市 ・アイプラザ一宮 「一宮勤労福祉会館」 名古屋大学神経内科・共催 講師; 名大 祖父江 元 教授 講師; 香川県立中央病院 山本 光年 医師 個別相談医師; 服部神経内科 服部院長・服部副院長
H.14.10.17-18.	一泊旅行	参加者総数 36人 幡豆郡吉良町・「三河湾リゾートリンクス」① 17日 交流会、 18日 座談会、 服部医師夫妻・服部神経内科の職員・ボランテア。
[2003]		
H.15.04.01.	会費の改定	(平成16年度のアンケート結果に基づき現行4,000円を改定) 年会費一括払い 5,000円、分割払い 前記3,000円・後期2,000円
H.15.04.11-12.	全国パーキンソンデー 国会請願集会参加	丹羽、中島、肥後、伊藤、奥田、(5名)
H.15.04.27.	平成15年度総会 10-12	名古屋市・東別院会館 2F 蓮・橘の間 規約改正 参加者 125名 規約改正 体験発表; 加藤 紀章, 下村高史(非会員)
	・医療講演会 13-15	講師; 服部 優子医師 (個人相談; 服部夫妻)
H.15.06.04.	一日交遊会	東山動植物園 30名 レクチャールーム 職員から映画・動植物のお話し、座談会。
H.15.06.06.	[もうパーキンソン病と呼ばないで] 丹羽さん出版	(15.4.7.発行の 会報・別冊増刊号に掲載) (会歌CD100枚)
H.15.06.07-8	第27回全国総会・大会に参加	石川県・金沢ニューグランドホテル 丹羽、加藤、肥後、伊藤、 (4人)
H.15.10.03-6.	第4回アジア・太平洋パーキンソン病シンポジウム	韓国・ソウル 丹羽、則竹、中島 3名参加 (全国33名)
H.15.10.25.	医療講演会	500名参加 VHS有 名古屋駅前 愛知県中小企業センター 体験発表; 丹羽 浩介 全国パーキンソン病友の会愛知県支部長 医療講演; 水野 美邦 順天堂大学脳神経内科教授 総合司会; 祖父江 元 名古屋大学神経内科教授
[2004]		
H.16.01.31 -02.07	アメリカ医療関係施設視察団に 丹羽氏参加	アメリカ・サンフランシスコ周辺、日本製薬工業会の招きで

H.16.04.01.	[丹羽 浩介会長　愛知県難病団体連合会(愛難連)会長に就任] (H.18.03退任)	
H.16.04.17.	平成16年度総会 ・医療講演会	名古屋・東別院会館 2F 蓮・橘の間 10-12総会 ・13-15講演会 講師;　佐橋 功　　愛知医科大学教授
H.16.05.27.	一日交遊会	名古屋港水族館　　参加者 25名
H.16.06.19-20.	第28回全国総会・大会　参加	福岡市・　総会;シティホテル、大会;福岡国際会議場 丹羽、則竹、肥後、伊藤、　(4人)
H.16.09.07-8.	本部会報編集委員長として活躍の丹羽氏	合宿して本部会報100号を編集中写真
H.16.10.23-24.	一泊旅行	知多郡南知多町・「ビラ・マリーン南知多」③ (愛知県南知多老人福祉館)　　参加者　13名
[2005]		
H.17.04.02.	医療講演会	(名大主催 第一回)　名大病院　基礎棟3F第一会議室 講師:祖父江元教授・平山正昭先生・渡辺宏久先生
H.17.04.11.	全国パーキンソンデー　国会請願集会参加	
H.17.04.23.	平成17年度総会 ・医療講演会	名古屋市総合社会福祉会館 10-12総会 ・13-15講演会　　参加者 200名 体験講座;　丹羽会長 講師; 名大脳神経外科医学博士　梶田 泰一 先生 本町クリニック　服部 達哉 先生・優子先生
H.17.06.10.	一日交遊会	中部国際空港　セントレア　　参加者 25名
H.17.06.16.-17. (木-金)	第29回全国総会・分科会　参加	東京・国立オリンピック記念青少年総合センター 丹羽、肥後、鈴木　(3人)
H.17.08.20.	役員会	
H.17.08.25.	なごやかスタッフ種別研修会　(ヘルパーと患者の意見交換会)	名古屋市・御器所ステーションビル5F (高齢者就業支援センター) ヘルパー100名、友の会会員10名
H.17.10.20-21.	一泊旅行	あいち健康プラザ(あいち健康の森健康科学総合センター)　宿泊① 国立病院機構・東名古屋病院長　松岡幸彦 先生 参加者30名 内泊 22名
H.17.10.29.	医療講演会	豊橋市・中部地区市民館　　参加者 50名 講師;　名大神経内科　平山 正昭 先生、渡邉 宏久 先生
[2006] H.18.03.26.	医療講演会	半田市福祉文化会館「雁宿ホール」　　参加者 60名 講師;　名大神経内科　平山 正昭　医師
H.18.04.01.	(事務所で」役員写真)	
H.18.04.	(この人に聞く)　(本部会報　18.5.20.　№105)	水野 美邦 医師　聞き手; 丹羽浩介
H.18.04.11-12	全国パーキンソンデー　国会請願集会参加	丹羽、越澤、大道、河嶋、　(4名)
H.18.05.06.	平成18年度総会 ・医療講演会	名古屋市総合社会福祉会館　　MD2枚 10-12総会 ・13-15講演会　　MD有 講師:　丹羽浩介会長　(元気になろう) 講師;　名古屋市立大学　脳神経外科　梅村 淳 医師 本町クリニック 院長 服部直哉様・服部優子様に感謝状を贈る

H.18.06.15.	一日交遊会	ブルーボネット(名古屋港ワイルドフラワーガーデン・ブルーボネット) ① 本町クリニック　院長 服部達哉・服部優子医師・ 看護師4・作業療法士1　　計 7人 役員14人、会員15人、　　合計 36人
H.18.06.21-22.	第30回全国総会・大会　参加　(丹羽本部副会長)	東京・江東区公会堂 丹羽、大道、山尾2、益田2、　(6人参加)
H.18.06.30.	東海ブロック会議	熱田図書館 愛知7(丹羽・大道・越澤・山尾2・益田2)、静岡1(紅林) 岐阜3(小澤・長谷川・森)、三重3(河合・桝田・松原)、合計14名
H.18.070.8(土)	医療講演会	(名大主催 第2回)　　13時ー15時30分 名大病院　広場ナディック 講師:(名大)祖父江元教授・平山正昭先生・渡辺宏久先生・ 中條看護師、(中部学院大)鵜飼久美子先生
H.18.11.04-5	一泊旅行	大府市　　愛知健康プラザ「健康の森」② 講師;　国立長寿医療センター　　新畑 豊 医師
H.18.11.11.	医療講演会	豊田市・とよた市民活動センター(豊田松坂屋9F) 参加者 61人 講師;　安田 武 医師　(トヨタ記念病院) 鷲見 幸彦 医師　(長寿医療研究センター)
H.18.11.12.	街頭署名活動 10時～11時	特定疾患外し反対署名 名古屋・名鉄名古屋駅前　　VHS有 愛知県支部と岐阜県支部と共催 (愛知11 岐阜5 他　計30人)
H.18.11.26.	実践論理壮年の集い　　丹羽さんの紹介	名古屋国際センチェリーホール
H.18.12.19.	会員訪問	東海市・知多市・常滑市丹羽・神野・益田
H.18.12.24.	カラオケ	ハニー
[2007]		
H.19.03.27	医療講演	名古屋市 瑞穂保健所主催　　MD有 パーキンソン病の話 講師:平山正昭医師　名大神経内科
H.19.04.11.	全国パーキンソンデー　国会請願集会参加	丹羽、山尾、池田2　(4人)
H.19.04.22.(日)	岐阜県支部 主催 ・医療講演会	美濃加茂市　医療講演会 13時-15時 に愛知県支部から 2名出席 講師:岐阜大学院　保作 功教授
H.19.05.12.	平成19年度総会 ・医療講演会	名古屋市総合社会福祉会館 10-12総会 ・13-15講演会 講師;　藤田保健衛生大学・坂文種報徳會病院院長 山本 纐子 教授
H.19.06.07.	一日交遊会	ブルーボネット② 講師;　埜口 義広 先生　　碧南市民病院 リハビリテーション作業療法士
H.19.06.21-22	**第31回全国総会・大会(名古屋大会主催)**	名古屋・名鉄ニューグランドホテル(7F)、500名、NHK・中日新聞 報道
6/21	9.00-11.00	(本部役員会)　大道幹事　　MD2枚　MD有
	13.00-17.00	総会　大道幹事　代議員:　丹羽、益田　　MD1枚　CT有
	18.00-20.30	交流会　(出席者290名)　　MD2枚
6/22	9.00-11.00	体験発表　(全国11人、内愛知県;丹羽、山尾、肥後)　MD1枚
	13.00-15.00	シンポジウム　　MD1枚 ・CT2本 名大・　祖父江元教授、平山正昭医師、渡邉宏久医師 本町クリニック・服部優子医師 名市大・梅村淳医師　　患者代表・丹羽浩介

H.19.07.07.	関家のハス鑑賞会 （役員会の後）	
H.19.10.27-28	一泊旅行	知多郡南知多町・「ビラ・マリーン南知多」④ （愛知県南知多老人福祉館） 30+2=32人 名大・平山正昭先生 東海市議・神野久美子先生
H.19.10.30.	医療講演会	名古屋市総合社会福祉会館 講師； 国立病院機構・東名古屋病院神経内科 饗場郁子 医師 山根碧看護師、嵯峨守人理学療法士
H.19.11.03.	焼肉会	東海市公園 28人
H.19.11.08.	三役会議(7名)	街頭署名を決める
H.19.12.07.	山本纊子医師に聞く（丹羽会長最後のお仕事となる）	
		講師； 藤田保健衛生大学・坂文種報徳會病院院長 山本纊子 教授 聞手； 丹羽浩介 補助(益田・池田) 場所； 院長室
H.19.12.10.	（丹羽会長 名大病院に検査入院）	
H.19.12.16.	街頭署名活動 10時～11時	（丹羽会長 欠席） 名古屋・名鉄名古屋駅前 参加者 20名
[2008] H.20.02.14.	東海ブロック会議	熱田図書館 愛知3(大道・越澤・益田)、静岡3(磐本・紅林・中西) 岐阜2(小澤・長谷川)、三重2(桝田・松原)、 合計10名
H.20.2.24.	（丹羽会長口述筆記 名大病院にて）	
H.20.2.27.	一日交遊会	（丹羽会長欠席） （35名） 名古屋市北生涯学習センター・視聴覚室 ① 講師； 音楽療法 鵜飼久美子 先生 体操・リハビリテーション 埜口義広 先生
H.20.02.28.	（丹羽会長 ホスピスに転院）	
H.20.03.03.	丹羽会長 見舞い	決算報告 越澤・益田・池田、
H.20.04.05.(土)	役員会後 東海市文化センターへ子供の00展・大池公園へ桜鑑賞 17名	
H.20.04.09.(水)	（丹羽会長 永眠 朝5時40分）	
H.20.04.11.(金)	全国パーキンソンデー 国会請願集会参加 衆議院第二議員会館	
		大道・益田2・後藤サ・大橋 （5人） (大道は前日から) (荒木議員訪問)
H.20.04.23.	ﾌﾞﾙｰﾎﾞﾈｯﾄ下見	池田2 益田2
H.20.05.03(土)	役員会	新役員決定
H.20.05.10.(土)	平成20年度総会 ・医療講演会	名古屋市総合社会福祉会館 10-12総会 ・13-15講演会 大道会長承認 体験発表： 風岡初代・杉山初江・則竹和子・益田緑 講師； 名大 平山正昭 先生
H.20.06.07.(土)	役員会・丹羽前会長を偲ぶ会	
H.20.06.24-25 （火・水）	第32回全国総会・大会 （神戸市北区）しあわせの村	
		大道忠弘:本部、 益田利彦・三宅和男:代議員 バス:13名 参加合計16名
H.20.07.04.(金)	一日交遊会	ブルーボネット③ 43名+幼児1 講師； 鵜飼久美子先生 音楽療法 講師； 埜口 義広 先生 リハビリテーション 名大 平山正昭先生・神野久美子先生特別参加

H.20.08.02.(土)	役員会	関さん家の蓮花観賞・会費会食 (鵜飼久美子・神野久美子先生・大道さんの奥さん参加)
H.20.09.06.(土)	役員会	平山正昭先生 初出席 柿の葉すしで昼食
H.20.09.21.(日)	三重県支部主催 ・医療講演会	三重県津庁舎6F 13時-15時 愛知県支部から 6名参加 講師:水野美邦先生
H.20.10.22.(水)	一日交遊会	名古屋市北生涯学習ｾﾝﾀｰ ② 40人参加 音楽療法:鵜飼久美子先生・リハビリー埜口義広先生
H.20.10.31.(金)	医療講演会	名古屋市総合社会福祉会館 参加62人 講師;阿部祐士 医師(ﾅﾄﾞｯｸ健康ｸﾘﾆｯｸ神経内科部長)
H.20.11.06.(木)	役員会	公明党山本保さん神野さんと挨拶 東海市事務所
H.20.11.22-23 （土・日）	一泊旅行	知多郡南知多町・「ビラ・マリーン南知多」⑤ （愛知県南知多老人福祉館） 38+2=40人 名大・平山正昭先生ご夫妻
H.20.12.07.	中日新聞主催 医療講演会	吹上ホール (DVD有) DVD有 講師:名大祖父江元教授(司会)・本町ｸﾘﾆｯｸ服部達哉院長 ・名大平山正昭医師・渡辺宏久医師
H.20.12.19.	名大病院 クリスマスコンサート①	150人参加有 ｱﾝｻﾝﾌﾞﾙ・ｸﾘｻﾞﾝﾃﾑとパーキンソン病友の会(30人) 共演 名大病院中央診療棟2Fリハビリ広場 2.30-3.30
[2009]		
H.21.02.08.(日)	愛難連 新春のつどい	老人保健施設・わかばの里 13.30-15.00 落語:トンボ亭 ・ﾊﾟﾝﾄﾞ:ハートホスピタル P会7名参加
H.21.02.25.(水)	東海ブロック会議	熱田図書館 愛知4(大道・山尾2・益田)、 静岡1(紅林) 岐阜3(小澤・長谷川・森)、三重2(桝田・松原)、合計10名
H.21.02.27.(金)	一日交遊会	名古屋市北生涯学習ｾﾝﾀｰ ③ 41+2=43人参加 音楽療法:鵜飼久美子先生・リハビリー近藤将人先生
H.21.04.04.(土)	役員会と丹羽前会長2回忌追悼会	
		柿の葉寿司で皆で話す。
H.21.04.08.(水)	東海郵便局へ第3種郵便物の交渉 （益田・池田）	
H.21.04.14.(火)	全国パーキンソンデー 国会請願集会参加	
		衆議院第二議員会館 第1会議室 大道・神野・山尾2・益田2・鷹羽2 （8人） 参院 荒木清寛議員訪問、 国会議事堂(参議院)見学(秘書案内)
H.21.04.18.(土)	岐阜県支部(総会) ・医療講演会	瑞穂市総合ｾﾝﾀｰ 医療講演会 13時00-15時00 講師:名大平山正昭先生 愛知県支部 5名出席
H.21.04.23.(水)	平成21年度総会 ・医療講演会	名古屋市総合社会福祉会館 10-12総会、13-15講演会 体験発表:神谷みよ子・三宅和男・山田良知・後藤サヨ子・関和子 5名 講師;本町ｸﾘﾆｯｸ 服部達哉 院長 「パーキンソン病と言われた後で」 ;本町ｸﾘﾆｯｸ 服部優子 副院長「パーキンソン病の介護を考える」
H.21.05.30.(土)	一日交遊会	ブルーボネット ④ 41名＋先生2=43 講師； 鵜飼久美子先生 音楽療法 講師； 埜口 義広 先生 リハビリテーション ｶﾞｰﾃﾞﾝコンサートを聴く
H.21.06.06.(土)	役員会 会報45号発送	郵便番号別 仕分け 初めて行う

H.21.06.18-19 （木-金）	第33回全国総会・大会　（富山大会）　　カナルパークホテル富山	代議員：池田・肥後 バス：17名　＋代議員2　　愛知 参加合計19名
H.21.06.27.（土）	医療講演会	岡崎げんき館　13-15.30 講師；名大平山正昭先生　　「パーキンソン病の病態と治療」 ；本町ｸﾘﾆｯｸ 理学療法士近藤将人先生　「リハビリ体操」
H.21.08.26.（水）	一日交遊会	名古屋市西生涯学習ｾﾝﾀｰ　①　25人参加 音楽療法：鵜飼久美子先生 リハビリー：埜口義広先生　ボッチャー
H.21.10.09.（金）	医療講演会	小牧市総合福祉ふれあいセンター　出席2名 春日井保健所主催　（ひなたの会会長　舩橋勝敏さん案内） 講師：東名古屋病院 第二神経内科 医長　斎藤由扶子先生
H.21.10.31.（土）	医療講演会	グリーンパレス春日井　13-15　166名参加 講師；名大平山正昭先生　　「パーキンソン病の病態と治療」
H.21.11.09.（月）	一日交遊会	名古屋市北生涯学習ｾﾝﾀｰ　④　40＋2人参加 音楽療法：鵜飼久美子先生　　（11-15時） リハビリー：埜口義広先生　風船バレー
H.21.11.28-29 （土-日）	一泊旅行	知多郡南知多町・「ビラ・マリーン南知多」　⑥　40名 （愛知県南知多老人福祉館） 名大・平山正昭先生ご夫妻　・神野久美子さん ・マジシャン　山田和宏さん（日本ﾍﾞｰﾘﾝｶﾞｰｲﾝｹﾞﾙﾊｲﾑ）
［2010］		
H.22.01.15.（金）	名大病院 新春コンサート②　　150人参加有	名大病院中央診療棟2Fリハビリ広場　3.-4.時 中部学院大学・短期大学ﾊﾝﾄﾞﾍﾞﾙｸﾜｲﾔの学生15人と パーキンソン病友の会患者30人と共演 司会：平山正昭先生・鵜飼先生・鈴木先生・東谷さん
H.22.02.05.（金）	東海ブロック会議	熱田図書館 愛知4（大道・山尾ｻ・益田・池田）、　静岡3（磐本・紅林・海野） 岐阜1（長谷川）、　三重3（桝田・松原・OO）、　合計11名
H.22.02.14.（日）	愛難連　新春のつどい	老人保健施設・わかばの里　13.30-15.00　P会 6名参加
H.22.02.19（金）	浅井志津子個展　岡崎市	
H.22.02.20.（土）	医療講演会	一宮スポーツ文化センター　13.-15.時 講師；名大平山正昭先生　　「パーキンソン病の病態と治療」 会員40、一般99、計139人　他ボランテア 5人
H.22.02.25.（木）	一日交遊会	名古屋市北生涯学習ｾﾝﾀｰ　⑤　2F 第二会議室 10.30-15.00　　40＋2人参加 音楽療法：鵜飼久美子先生 リハビリー：埜口義広先生　　ボッチャー
H.22.04.13.（火）	全国パーキンソンデー・国会請願集会参加	衆議院第二議員会館　第1会議室 神野・益田・後藤・神原・山田（5人） 衆議院 坂口力・参議院 荒木清寛 両議員事務所訪問（秘書応対）

H.22.05.01.（土）	平成22年度総会 ・医療講演会 総会： 講演会： ATMの歌：	名古屋市総合社会福祉会館　　参加者 160名（平山正昭先生挨拶） （10-12総会、13-15医療講演会） 体験発表：森久子、山口豊、冨板邦夫、中野朝子、 4名 講師；「EBMとオーダーメード治療」 渡辺宏久先生　名大神経内科講師 発声障害を対象のリハビリ特訓； （言語聴覚士による「りー・シルバーマン法」LSVT） 辰巳　寛　先生　愛知学院大学 心身科学部 健康科学科 田中 康博 先生　名古屋大学病院 神経内科 立花 弘明 先生　豊田地域医療センター リハビリ科 榊原千香子先生　宇野病院（岡崎市）リハビリ科 小島由紀子先生　宇野病院（岡崎市）リハビリ科 青木 良太 先生　森之宮病院（大阪市）リハビリテーション部言語療法科 田中 誠也 先生　名古屋第二赤十字病院 鵜飼久美子先生　中部学院大学
H.22.05.29.（土）	一日交遊会	ブルーボネット⑤　　34名＋先生2=36名 講師；鵜飼久美子先生　音楽療法 講師；埜口 義広 先生　　リハビリテーション
H.22.06.14-15. （月-火）	第34回全国総会・大会　（大阪大会）　　ホテルニューオータニ大阪	代議員：益田・池田 バス：13名　＋代議員2　　愛知 参加合計15名
H.22.07.27.（火）	介護福祉学科学生と交流会　　9:30～11:30	名古屋文理大学 短期大学部 介護福祉科　会議室 学校側：小倉千恵子教授・林雅美講師　2年生学生28名　合計30名 友の会：益田夫妻・山尾夫妻・山田・神原・鷹羽・大津・肥後　合計9名
H.22.08.20.（金）	一日交遊会	名古屋市北生涯学習ｾﾝﾀｰ　⑥　2F 視聴覚室 10.30-15.30　　24＋2人=26名参加 音楽療法：鵜飼久美子先生 リハビリー：埜口義広先生　　風船バレー
H.22.08.28（土）	医療講演会 豊橋市と共催	豊橋市保健所（ほいっぷ）講堂　13.30～15.30　130名参加 講師：平山正昭 先生　名大病院・神経内科 演題：パーキンソン病の病態と治療 ・マジシャン　山田和宏さん（日本ﾍﾞｰﾘﾝｶﾞｰｲﾝｹﾞﾙﾊｲﾑ） 豊橋市保健所健康増進課 課長補佐　今泉英子 氏挨拶他2名協力
H.22.09.09-10 （木-金）	第34期支部代表者・本部役員合同会議	東京　南青山会館　　益田出席
H.22.10.13.（水）	「一般社団法人全国パーキンソン病友の会」発足・同会愛知県支部と名称変更。　　法人化	
H.22.10.17.（日）	「第7回HOPE講演会in名古屋」 後援　　13.30～17.00	後援 名古屋市立大学病院 3階大ホール 主催；HOPE（代表；橋爪鈴男） 後援；全国パーキンソン病友の会愛知県支部・愛知県難病団体連合会 座長；久野貞子先生（京都四条病院パーキンソン病・神経難病ｾﾝﾀｰ長） 講演；服部優子先生（本町クリニック服部神経内科） 講演；梅村淳先生（名古屋市立大学医学部脳神経外科学） P友の会出席者約30人
H.22.10.28（木）	山田 良知　個展 名古屋市栄 ｷﾞｬﾗﾘｰﾀﾏﾐｼﾞｱﾑ	
H.22.11.03（日）	*愛難連第38回大会*	*愛知県医師会館 9F　13-15.40* *P友の会出席者　9人*
H.22.11.13.（土）	医療講演会	刈谷市産業振興センター　13.00～15.00. 講師：平山正昭 先生　名大保健学科 准教授 演題：パーキンソン病の病態と治療 参加者；会員30　一般25　ﾎﾞﾗﾝﾃｱ5　計60名

H.22.11.20-21 （土・日）	一泊旅行	知多郡南知多町・「ビラ・マリーン南知多」⑦　36名 （愛知県南知多老人福祉館） 名大・平山正昭先生ご夫妻　・神野久美子さん ・マジシャン山田和宏さん（日本ベーリンガーインゲルハイム）
H.22.11.29.(月)	一日交遊会	名古屋市北生涯学習センター　⑦　2F 視聴覚室 10.00-15.30　35＋2人=37名参加 音楽療法：鵜飼久美子先生 リハビリー：埜口義広先生　ボッチャー
H.22.12.05(日)	第4回日本音楽医療研修会　学術集会　（聴講；益田）	愛知県医師会館 9階大講堂　10.30～15.30 共催；名大医学部 後援；愛知県医師会・名古屋医師会・名古屋市中保健所・愛知県医師会 交響楽団 大会長；服部優子 シンポジウム；名古屋大学におけるパーキンソン病友の会での音楽療法 医師 平山正昭（名古屋大学医学部保健学科 准教授） 音楽療法士 鵜飼久美子（中部学院大学人間福祉学部 准教授） 全国から医療・音楽関係者　役300人参加
H.22.12.21.(火)	名大病院 クリスマスコンサート ③　150人参加有	名大病院中央診療棟2Fリハビリ広場　3.-4.時 パーキンソン病友の会患者 30人（ありがとう・他） ソプラノ歌手 鈴木信子・ピアノ伴奏 池原陽子さん（ある晴れた日に・他） 司会：平山正昭先生・鵜飼先生・鈴木先生・東谷さん
[2011]		
H.23.02.05.(土)	医療講演会	津島市文化会館　13.30～15.30. 講師：平山正昭 先生　名大保健学科 准教授 演題：パーキンソン病の病態と治療 参加者；会員23　一般40　ﾎﾞﾗﾝﾃｱ5　計68名
H.23.03.18.(金)	一日交遊会	名古屋市北生涯学習センター　⑧　2F 視聴覚室 10.00-15.30　38＋3人=41名参加 音楽療法：鵜飼久美子先生・鈴木千春先生 リハビリー：埜口義広先生　ボッチャー
H.23.04.30.(土)	平成23年度総会 ・医療講演会 総会： 講演会：	名古屋市総合社会福祉会館　参加者 午前69名・午後129名 （10-12総会、13-15医療講演会） 体験発表：松尾昌冶、奥田冨美枝、増田民子、鳥飼精一、 4名 講師；名古屋大学医学部 脳神経外科 准教授　梶田泰一 先生 演題：DBS治療10年をふりかえり、次世代DBS治療に夢をつなぐ 応援：名古屋大学 保健学科　平山正昭 先生
H.23.05.18-21.	《 第52回日本神経学会学術大会と市民公開講座 》	
H.23.05.19.(木)	① なごや神経内科ウィーク公開講座	（5/18-5/20 のうち5月19日(木)　15:00～17:30 ミッドランドホール・ミッドランドスクエア 5F テーマ：「パーキンソン病を予防し、治療し、よりよく生きる」 講師：田代邦雄 先生 北祐会神経内科病院 顧問・北海道大学 名誉教授 （総合司会） 平山正昭 先生 名古屋大学保険学科 准教授 水野美邦 先生 北里大学神経再生医療学 特任教授 阿部利夫 先生 大阪保険医療大学 保険医療学部 教授 久野貞子 先生 京都四条病院 パーキンソン病・神経難病センター長

H.23.05.20.(金)	②リーシルバーマン（LSVT）の音声治療の実技ボランテア　12:30～14:30	名古屋国際会議場 1階　211(2A)・212(2B) 講師：Ramig 先生 & Fox先生 他 実技者：言語聴覚士　150名 ボランテア：パーキンソン病友の会 会員 35名 応援参加
H.23.05.21.(土)	③市民公開講座	13:00～16:00 名古屋国際会議場 センチュリーホール テーマ：「脳を知る、脳を護る」 講師：祖父江元 先生　名古屋大学医学部神経内科 教授（総合司会） 岡野栄之 先生　慶応義塾大学医学部生理学 Mark Frasigr　マイケル・J・フォックス財団 柳澤勝彦 先生　国立長寿医療研究センター研究所 葛原茂樹 先生　鈴鹿医療科学大学
H.23.05.28.(土)	一日交遊会	ブルーボネット ⑥　36名＋先生3=39名 講師；鵜飼久美子先生・鈴木千春 先生　音楽療法 講師；埜口 義広 先生　リハビリテーション
H.23.06.20-21. （月-火）	第35回全国総会・大会　（東京大会）　タワーホール船堀	代議員：益田・肥後　2名参加
H.23.07.16.(土)	医療講演会	半田市市民交流センター・ホール　13:00～15:00 講師：平山正昭 先生　名大保健学科 准教授 演題：パーキンソン病の病態と治療 参加者；会員 40、一般 58、ﾎﾞﾗﾝﾃｱ 4、講師 1、計 103名
H.23.08.26.(金)	一日交遊会	名古屋市北生涯学習センター　⑨　3F 視聴覚室 10.00-15.00　38＋3人=41名参加 講師；鵜飼久美子先生・鈴木千春 先生 音楽療法 埜口義広先生　リハビリテーション
H.23.10.22.(土)	医療講演会	豊田産業文化センター・大会議室 講師：平山正昭 先生　名大保健学科 准教授 演題：パーキンソン病の病態と治療 参加者；会員 37、一般 54、ﾎﾞﾗﾝﾃｱ 8、講師 1、 計 100名
H.23.11.19-20 （土・日）	一泊旅行	南知多町・「ビラ・マリーン南知多」　⑧　39名 （愛知県南知多老人福祉館） 名大・平山正昭先生ご夫妻
H.23.11.28-29 （月-火）	2011年度 支部代表者・本部役員合同会議（東京 南青山会館）　益田出席	28日13時～　合同会議 29日10時～　厚労省・政党などへ要請行動 要請行動集会　衆議院第二議員会館
H.23.12.16.(金)	名大病院 クリスマスコンサート ④　150人参加有	名大病院中央診療棟2Fリハビリ広場　3.-4.時 パーキンソン病友の会患者 32人（また君に恋してる・他3曲） 松山純子さんのトランペット、 鈴木先生親子のピアノ連弾、鵜飼先生のピアノ独奏。 司会：平山正昭先生・鵜飼先生・鈴木先生・東谷さん
[2012]		
H.24.01.28.(土)	医療講演会	瀬戸市　瀬戸蔵 多目的ホール　13.00～15.00 講師：平山正昭 先生　名大保健学科 准教授 演題：パーキンソン病の病態と治療 参加者；会員 40、一般 58、ﾎﾞﾗﾝﾃｱ 6、講師 1、 計 105名
H.24.02.20.(月)	一日交遊会	名古屋市北生涯学習センター ⑩　3F 視聴覚室　10.00～15.00 講師；鵜飼久美子・鈴木千春 先生　音楽療法 講師；埜口 義広 先生　リハビリテーション　33＋3＝37名

H.24.04.14.(土)	平成24年度総会 ・医療講演会 総会: 講演会:	名古屋市総合社会福祉会館　　参加者 午前69名・午後129名 (10-12総会、13-15講演会) 体験発表: 稲熊英俊・青柳保夫・浅井志津子・佐々木義祐 (4名) ATMの歌: 鵜飼久美子先生　中部学院大学 福祉器具の説明: 近藤将人先生　本町クリニック 講師; 名古屋大学医学部 保健学科 准教授　平山正昭 先生 演題: パーキンソン病薬剤治療の変換
H.24.04.19(木)	パーキンソンデー・国会請願集会参加　　神野・益田・浅井・浅井・大津 (5人) 交流会:	参議院議員会館　101会議室　12.00-14.00 議員訪問: 14.00-15.00　衆議院議員 坂口力・参議院議員 荒木清寛 両議員事務所訪問(荒木事務所は秘書対応) 交流会:　南青山会館　16時-18時　益田・大津 (2名)
H.24.04.20(金)	勉強会:	勉強会:　〃　10時-12時　益田・大津 (2名)
H.24.06.09(土)	パーキンソン病市民公開講座　13:00～15　東建ホール・丸の内　参加者400人 共催: 一般社団法人全国パーキンソン病友の会 愛知県支部／ノバルティスファーマ株式会社	①開会のごあいさつ 司会:祖父江 元先生　名大神経内科 教授 ②パーキンソン病 初期の症状と治療について 座長:祖父江 元先生 演者:長谷川 康博先生 名古屋第二日赤病院神経内科部長 ③パーキンソン病 進行期の症状と治療について 座長:真野 和夫先生　名古屋第一日赤病院副院長 演者:渡辺 宏久先生　名大神経内科 講師 ④パーキンソン病 リハビリテーション療法 座長:道勇　学先生　愛知医科大学 神経内科 教授 演者:平山 正昭先生　名大保険学科 准教授 ⑤質問コーナー 司会:祖父江 元 パネラー:長谷川康博・平山 正昭・渡辺 宏久 ⑥挨拶 :益田 利彦　友の会愛知県支部長
H.24.06.16(土)	一日交遊会	ブルーボネット ⑦　　36名＋先生3=39名 講師;　鵜飼久美子先生・鈴木千春 先生　音楽療法 講師;　埜口 義広 先生　リハビリテーション
H.24.06.18-19. (月-火)	第36回全国総会・広島大会　　グランドプリンスホテル広島	代議員: 浅井利一・大津慶明　2名 一般: 益田・益田・浅井・関・肥後、 合計 7名参加
H.24.08.25.(土)	一日交遊会	名古屋市北生涯学習センター ⑪ 3F 視聴覚室　会員33＋先生3＝36名 講師;　鵜飼久美子・鈴木千春 先生　音楽療法　AM 講師;　埜口 義広 先生　リハビリテーション PM
H.24.10.25.(木)	医療講演会	一宮スポーツ文化センター②　　13:30-15:30 講師;　服部達哉 院長・服部優子 副院長・看護師 (本町クリニック) 講師;　後藤啓五 院長 (ごとう内科クリニック) 会員50、一般41、講師4人、ボランテア8人、不明24人、合計127人、
H.24.11.01-02 (木・金)	全国支部長会議	南青山会館　　益田利彦 出席 1日13時～　特別講演1 厚労省健康局疾病対策課　山本尚子　課長 特別講演2 東京都難病相談支援センター 田村智英子先生 2日10時～　各ブロック報告・山中先生寄付金の取り扱い
H.24.11.14.(水)	「卸勤務薬剤師 東海ブロック合同研修会」に 講演　13:30～	場所 : 名古屋銀行協会　5階大ホール 講師 : 愛知県パーキンソン病友の会　肥後 ひとみ　(益田参加) 講師 : 愛知県腎臓病協議会　理事　安田 明義

H.24.11.17.-18 (土-日)	一泊旅行	知多郡南知多町・「ビラ・マリーン南知多」 ⑨　45＋2＝47名 講師: 平山先生のiPS細胞のお話、 山田順子さんヨガの指導 名大・平山正昭先生ご夫妻
H.24.11.24.(土)	一日交遊会	なごや福祉用具プラザ　①　参加者:30＋1＝31名 名古屋市昭和区　御器所ステーションビル3F 講師;　用具プラザの 職員2名　福祉用具の説明　AM 講師;　埜口 義広 先生　リハビリテーション　PM
H.24.12.14.(金)	名大病院 クリスマスコンサート ⑤　　43人参加有　観客100人	名大病院中央診療棟 2Fリハビリ広場　3:30-4:30 パーキンソン病友の会患者 00人(風が吹いている・他3曲) 濱島秀行さんヴァイオリン独奏、内田有紀さん ピアノ伴奏 司会:平山正昭先生・鵜飼先生・鈴木先生・東谷さん
[2013]		
H.25.01.27.(日)	医療講演会 (豊橋市後援)	豊橋市保健所(ほいっぷ)　講堂　13.30～15.30　160名参加 講師: 平山正昭 先生　名大・保険学科 「パーキンソン病の病態と最近の治療」 豊橋市保健所健康増進課 課長補佐 渡會弘子氏挨拶 保健師 鹿野香さん協力
H.25.03.16.(土)	一日交遊会	名古屋市北生涯学習センター ⑫　3F 視聴覚室　会員44＋先生3＝47名 講師;　鵜飼久美子・鈴木千春 先生　音楽療法　AM 講師;　埜口 義広 先生　リハビリテーション PM

SSKA 全国パーキンソン病友の会会報 愛知県版

発行人： 特定非営利活動法人 障害者団体定期刊行物協会
加入者： 一般社団法人 全国パーキンソン病友の会 愛知県支部

全国パーキンソン病友の会 愛知県支部 （愛知県パーキンソン病友の会） 発足
1978年 3月25日 昭和53年

通券増刊 号	第 号	発行日	（年号）	編集人	頁数	サイズ	備 考
SSKA 全国パーキンソン病友の会 愛知県支部だより							
増刊 3719	1	2000年 11月22日	平成12年	加藤 登	20	B5版	発行人八野健蔵
増刊 3778	2	2001年 2月27日	平成13年	八野健蔵	24	B5版	
増刊 3904	3	2001年 6月26日	平成13年	八野健蔵	24	B5版	
増刊 4061	4	2001年 12月9日	平成13年	八野健蔵	28	B5版	
増刊 4179	5	2002年 4月25日	平成14年	丹羽浩介	36	A4版	
通巻 4170	6	2002年 8月 6日	平成14年	丹羽浩介	40	A4版	
通巻 4379	7	2002年12月26日	平成14年	丹羽浩介	44	A4版	（会則）
増刊 4440	8	2003年 2月15日	平成15年	丹羽浩介	44	A4版	
増刊 4473	9	2003年 3月20日	平成15年	丹羽浩介	16	A4版	総会資料
増刊 4491	別冊増刊	2003年 4月 7日	平成15年	丹羽浩介	56	青表紙	別冊増刊
	もうパーキンソン病とは呼ばないで 愛知県支部長 丹羽浩介					A4版	
増刊 4538	10	2003年 5月24日	平成15年	丹羽浩介	44	A4版	
通巻 4611	11	2003年 8月21日	平成15年	丹羽浩介	44	A4版	
増刊 4704	12	2003年11月22日	平成15年	中島陽太郎	44	A4版	
増刊 4750	13	2004年 1月 7日	平成16年	中島陽太郎	32	A4版	
SSKA 全国パーキンソン病友の会会報 愛知県版							名称変更
増刊 4792	総会資料	2004年 2月28日	平成16年		16	A4版	総会資料
増刊 4857	14	2004年 5月 3日	平成16年	中島陽太郎	48	A4版	
通巻 4937	15	2004年 8月 1日	平成16年	中島陽太郎	48	A4版	
通巻 5030	16	2004年11月 9日	平成16年	中島陽太郎	24	A4版	
通巻 5096	17	2005年 1月19日	平成17年	中島陽太郎	20	A4版	
通巻 5134	18	2005年 3月 9日	平成17年	越澤 博	16	A4版	
増刊 5204	19	2005年 5月18日	平成17年	越澤 博	20	A4版	
通巻 5263	20	2005年 7月16日	平成17年	越澤 博	24	A4版	
通巻 5325	21	2005年 9月16日	平成17年	越澤 博	24	A4版	
増刊 5390	東海版 創刊号	2005年11月29日	平成17年	越澤 博	32	A4版	東海版
増刊 5395	22	2005年12月 4日	平成17年	越澤 博	20	A4版	
増刊 5439	23	2006年 1月25日	平成18年	越澤 博	20	A4版	
増刊 5492	24	2006年 3月25日	平成18年	越澤 博	16	A4版	
	わたしの幸福論 パーキンソン病23年のあゆみ （会長 丹羽浩介）					カラー表紙	わたしの幸福論
		2006年 5月 2日	平成18年	越澤 博	54	A4版	
増刊 5555	25	2006年 5月27日	平成18年	越澤 博	32	A4版	
増刊 5598	26	2006年 7月14日	平成18年	越澤 博	32	A4版	
増刊 5661	27	2006年 9月19日	平成18年	越澤 博	28	A4版	
増刊 5724	28	2005年11月24日	平成18年	越澤 博	20	A4版	
増刊 5728	東海版 第2号	2006年11月28日	平成18年	越澤 博	32	A4版	東海版
増刊 5778	29	2007年 1月28日	平成19年	越澤 博	24	A4版	
増刊 5831	30	2007年 3月27日	平成19年	越澤 博	48	A4版	
増刊 2975	グラフで見るパーキンソン病患者の実態調査報告				66	A4版	全国友の会結成30周年記念行事
		2007年 5月18日	平成19年	（本部）			
増刊 5884	31	2007年 5月20日	平成19年	越澤 博	20	A4版	
	第31回全国総会・大会 体験発表作品集				30	A4版	体験発表
		2007年 6月22日	平成19年	愛知県支部			
増刊 5960	32	2007年 8月 4日	平成19年	越澤 博	44	A4版	
増刊 6010	33	2007年 9月23日	平成19年	丹羽浩介	36	A4版	

通券増刊 号	第 号	発行日	（年号）	編集人	頁数	備考	
増刊 6004	第31回全国総会 シンポジウムの記録 医師による討論				44	B5版	全国大会・シンポジウム
	34	2007年 9月17日	平成19年	越澤 博			
増刊 6072	35	2007年11月26日	平成19年	池田幸夫	44	A4版	
増刊 6125	36	2008年 1月22日	平成20年	池田幸夫	40	A4版	
増刊 6182	37	2008年 3月24日	平成20年	池田幸夫	44	A4版	
増刊 3155	薬の話 名古屋大学神経内科 平山正昭				64	緑表紙	薬の話特集
	38	2008年 3月27日	平成20年	越澤 博		A4版	
増刊 6256	39	2008年 6月 6日	平成20年	池田幸夫	52	A4版	
増刊 6312	40	2008年 8月 1日	平成20年	越澤 博	64	A4版	
増刊 6367	41	2008年 9月25日	平成20年	越澤 博	48	A4版	
増刊 6430	42	2008年12月 7日	平成20年	池田幸夫	56	A4版	
増刊 6477	43	2009年 1月26日	平成21年	池田幸夫	52	A4版	
増刊 6536	44	2009年 4月 4日	平成21年	池田幸夫	56	A4版	
増刊 6598	45	2009年 6月 5日	平成21年	池田幸夫	64	A4版	
増刊 6655	46	2009年 8月 3日	平成21年	池田幸夫	56	A4版	
増刊 6700	47	2009年 9月22日	平成21年	池田幸夫	64	A4版	
増刊 6755	48	2009年12月 1日	平成21年	池田幸夫	60	A4版	
増刊 6811	49	2010年 1月31日	平成22年	池田幸夫	52	A4版	
増刊 6863	50	2010年 4月 3日	平成22年	池田幸夫	60	A4版	
通巻 6928	51	2010年 6月 6日	平成22年	池田幸夫	60	A4版	
通巻 6989	52	2010年 8月 6日	平成22年	池田幸夫	68	A4版	
増刊 7037	53	2010年 9月23日	平成22年	池田幸夫	56	A4版	
一般社団法人 全国パーキンソン病友の会 定款（原文）				（本部）	18	A4版	全国定款（原文）
〃 （修正版）		2010年10月13日	平成22年	（支部で修正）	14	A4版	〃 （修正版）
	SSKA 一般社団法人 全国パーキンソン病友の会会報 愛知県版						法人化 名称変更
通巻 7093	54	2010年11月26日	平成22年	池田幸夫	52	A4版	
増刊 7160	55	2011年2月3日	平成23年	池田幸夫	64	A4版	
増刊 3786	DBSを受けた患者に関するアンケート調査報告書				24	A4版	DBSアンケート結果
	しおりNo..20	2011年3月11日	平成23年	（本部）			
増刊 7208	56	2011年3月28日	平成23年	池田幸夫	60	A4版	
増刊 7274	57	2011年6月2日	平成23年	池田幸夫	60	A4版	
増刊 7328	58	2011年7月28日	平成23年	池田幸夫	56	A4版	
増刊 7379	59	2011年9月24日	平成23年	池田幸夫	44	A4版	
増刊 7440	60	2011年11月30日	平成23年	大津慶明	56	A4版	
増刊 7493	61	2012年1月24日	平成24年	大津慶明	60	A4版	
増刊 7539	62	2012年3月25日	平成24年	大津慶明	64	A4版	（愛知県支部 会則）
増刊 7606	63	2012年5月31日	平成24年	大津慶明	56	A4版	
増刊 7661	64	2012年7月25日	平成24年	大津慶明	68	A4版	
増刊 7712	65	2012年9月29日	平成24年	大津慶明	64	A4版	
増刊 7771	66	2012年12月3日	平成24年	大津慶明	52	A4版	
増刊 7823	67	2013年1月29日	平成25年	大津慶明	48	A4版	

医療講演会の記録

一般社団法人 全国パーキンソン病友の会 愛知県支部

回	年	実施日	市町村	会　場	講　師	参加	備　考
1	1997	09.05.25	蒲郡市	ホテル 明山荘 (第21回全国 愛知大会)	安藤一也:国立療養所中部病院 外山治人:国立療養所中部病院		院長 理学療法科主任
2	1998	10.春					
3	1999	11.春					
4	2000	12.春					
5	2001	13.02.03.	名古屋	名古屋市科学館ｻｲｴﾝｽﾎｰﾙ	水野美邦:順天堂大 永津俊治:藤田保険大		
6	〃	13.05.27	東海市	しあわせ村	ひろせ善清:ひろせｸﾘ	30	(午前:総会)
7	〃	13.08.26	蒲郡市			30	
8	〃	13.10.20	名古屋	ウイルあいち	祖父江元・平山正昭:名大 服部信孝:順天堂大	350	
9	2002	14.04.14	東海市	しあわせ村	服部達哉・優子:本町ｸﾘ		(午前:総会)
10	〃	14.10.12.	一宮市	アイプラザー一宮	祖父江元:名大 山本光年:香川県立中央病院 服部達哉・優子:本町ｸﾘ	300	名大神経内科と共催
11	2003	15.04.27.	名古屋	東別院会館	服部優子・達哉:本町ｸﾘ		(午前:総会)
12	〃	15.10.25.	名古屋	中小企業センター	祖父江元:名大 水野美邦:順天堂大 丹羽浩介体験:友の会	500	VHS有
13	2004	16.04.17.	名古屋	東別院会館	佐橋功:愛知医科大		(午前:総会)
14	2005	17.04.02.	名古屋	名大病院 基礎棟3F 第一会議室	祖父江元・平山正昭・渡辺宏久:名大		名大主催 第1回
15	〃	17.04.23.	名古屋	名古屋市総合社会福祉会館	梶田泰一:名大脳神経外科 服部達哉・優子:本町ｸﾘ 丹羽浩介:友の会	200	(午前:総会)
16	〃	17.10.29.	豊橋市	中部地区市民会館	平山正昭・渡辺宏久:名大	50	
17	2006	18.03.26.	半田市	半田市福祉文化会館(雁宿ﾎｰﾙ)	平山正昭:名大	60	
18	〃	18.05.06.	名古屋	名古屋市総合社会福祉会館	梅村淳:名市大 服部達哉・優子:本町ｸﾘ 丹羽浩介:友の会		(午前:総会) MD 有
19	〃	18.07.08.	名古屋	名大病院 広場ナディック	祖父江元・平山正昭・渡辺 宏久・中條看護師:名大 鵜飼久美子:中部学院大		名大主催 第2回
20	〃	18.11.11.	豊田市	豊田市民活動センター	安田武:ﾄﾖﾀ記念病院 鷲見幸彦:長寿医療研究ｾﾝﾀｰ	61	
21	2007	19.05.12.	名古屋	名古屋市総合社会福祉会館	山本紘子:藤田・坂文種病院		(午前:総会)
22	〃	19.06.22.	名古屋	名鉄ニューグランドホテル (第31回全国 名古屋大会)	祖父江元・平山正昭・渡辺宏久:名大 服部優子:本町ｸﾘﾆｯｸ 梅村淳:名市大	500	全国大会 シンポジウム MD ・CT有
23	〃	19.10.30.		名古屋市総合社会福祉会館	餐場郁子・山根碧看護師 ・嵯峨守人理学:東名古屋		
24	2008	20.05.10.	名古屋	名古屋市総合社会福祉会館	平山正昭:名大		
25	〃	20.10.31.	名古屋	名古屋市総合社会福祉会館	阿部祐士:ﾅﾄﾞｯｸ健康ｸﾘ	62	
26	〃	20.12.07.	名古屋	吹上ホール	祖父江元・平山正昭・渡辺 宏久;名大 服部達哉:本町ｸﾘ		中日新聞主催 DVD 有

回	年	実施日	市町村	会　場	講　師	参加	備　考
27	2009	21.04.23.	名古屋	名古屋市総合社会福祉会館	服部優子・達哉:本町ｸﾘ		(午前:総会)
28	〃	21.06.27.	岡崎市	岡崎げんき館	平山正昭:名大 近藤将人:本町ｸﾘ		
29	〃	21.10.31.	春日井市	グリーンパレス春日井	平山正昭:名大	166	
30	2010	22.02.20.	一宮市	一宮スポーツ文化センター	平山正昭:名大	144	
31	〃	22.05.01.	名古屋	名古屋市総合社会福祉会館	渡辺宏久・田中康博:名大 辰己寛:愛知学院大、 立花弘明:豊田地域医療ｾﾝ 榊原千賀子・小島由紀子:宇野病院(岡崎) 青木良太:森ノ宮病院(大阪) 田中誠也:名古屋第二赤十字 鵜飼久美子:中部学院大	160	(午前:総会)
32	〃	22.08.28.	豊橋市	豊橋市保険所(ほいっぷ)	平山正昭:名大	130	豊橋市と共催
33	〃	22.10.17.	名古屋	名市大3階大ホール	久野貞子:京都四条病院 服部優子:本町ｸﾘ 梅村淳:名市大 槁爪鈴男:HOPE代表		主催:HOPE 後援:P会愛知県支部 ・愛難連
34	〃	22.11.13.	刈谷市	刈谷市産業振興センター	平山正昭:名大	60	
35	2011	23.02.05.	津島市	津島市文化会館	平山正昭:名大	68	
36	〃	23.04.30.	名古屋	名古屋市総合社会福祉会館	梶田泰一:名大脳神経外科 (応援)平山正昭:名大		(午前:総会)
37	〃	23.05.19.	名古屋	ミッドランドホール ミッドランドスクエア 5F	田代邦雄:北海道大 平山正昭:名大 水野美邦:北里大 阿部利夫:大阪保険医療大 久野貞子:京都四条病院		第52回日本神経学会 神経学会 公開講座
38	〃	23.05.20.	名古屋市	名古屋国際会議場 1F	Ramig・Fox・他 実技者:言語聴覚士 150名 ﾎﾞﾗﾝﾃｱ:P友の会35名協力参加	35	第52回日本神経学会 〃 LSVTの音楽療法
39	〃	23.05.21.	名古屋市	名古屋国際会議場 センチュリーホール	祖父江元:名大 岡野栄之:慶応義塾大 Mark Frasig :ﾏｲｹﾙ・j・ﾌｫｯｸｽ財団 柳澤勝彦:国立長寿医療研究ｾﾝﾀｰ 葛原茂樹:鈴鹿医療科学大		第52回日本神経学会 〃 市民公開講座
40	〃	23.07.16.	半田市	半田市市民交流センター	平山正昭:名大	103	
41	〃	23.10.22.	豊田市	豊田産業文化センター	平山正昭:名大	100	
42	2012	24.01.28.	瀬戸市	瀬戸蔵 多目的ﾎｰﾙ	平山正昭:名大	150	
43	〃	24.04.14.	名古屋	名古屋市総合社会福祉会館	平山正昭:名大	129	(午前:総会)
44	〃	24.06.09.	名古屋	東建ホール・丸の内	祖父江元・平山正昭・渡辺宏久:名大 真野和夫:名古屋第一日赤 長谷川康博:名古屋第二日赤 道勇学:愛知医科大	400	市民公開講座(共催) ﾉﾊﾞﾙﾃｨｽﾌｧｰﾏ(株)と P会愛知県支部 共催
45	〃	24.10.25.	一宮市	一宮スポーツ文化センター	服部達哉:本町ｸﾘ 服部優子・他1:本町ｸﾘ 後藤啓五:ごとう内科ｸﾘ	127	
46	2013	25.01.27.	豊橋市	豊橋市保険所(ほいっぷ)	平山正昭:名大	160	豊橋市後援

一日交遊会の記録

回	年	実施年月日	場　所	講　師	参加者	備　考
1	2001	13.10.21.	あいち健康の森公園		30	行楽的集
2	2002	14.06.09.	あいち健康ﾌﾟﾗｻﾞ	名古屋市教育委員会 中島先生	35	
3	2003	15.06.04.	東山動植物園	ﾚｸﾁｬｰﾙｰﾑ職員の映画・お話	30	
4	2004	16.05.27.	名古屋港水族館		25	
5	2005	17.06.10.	中部国際空港 セントレア		25	
6	2006	18.06.15.	ブルーボネット ① (名古屋港ﾜｲﾙﾄﾞﾌﾗﾜｰｶﾞｰﾃﾞﾝ)	本町ｸﾘﾆｯｸ:服部達哉・優子 看護師4・作業療法士1　計7名	36	
7	2007	19.06.07.	ブルーボネット ②	埜口義広:碧南市民病院		
8	2008	20.02.27.	名古屋市北生涯学習ｾﾝﾀｰ①	鵜飼久美子:音楽療法 埜口義広:リハビリテーション	35	
9	〃	20.07.04.(金)	ブルーボネット ③	鵜飼久美子:音楽療法 埜口義広:リハビリテーション 平山正昭・神野久美子先生特別参加	43	
10	〃	20.10.22.(水)	名古屋市北生涯学習ｾﾝﾀｰ②	鵜飼久美子:音楽療法 埜口義広:リハビリテーション	40	
11	2009	21.02.27.(金)	名古屋市北生涯学習ｾﾝﾀｰ③	鵜飼久美子:音楽療法 近藤将人:リハビリテーション(本町クリ)	43	
12	〃	21.05.30.(土)	ブルーボネット ④	鵜飼久美子:音楽療法 埜口義広:リハビリテーション	43	
13	〃	21.08.26.(水)	名古屋市西生涯学習ｾﾝﾀｰ①	鵜飼久美子:音楽療法 埜口義広:リハビリテーション	25	
14	〃	21.11.09.(月)	名古屋市北生涯学習ｾﾝﾀｰ④	鵜飼久美子:音楽療法 埜口義広:リハビリテーション	42	
15	2010	22.02.25.(木)	名古屋市北生涯学習ｾﾝﾀｰ⑤	鵜飼久美子:音楽療法 埜口義広:リハビリテーション	42	
16	〃	22.05.29.(土)	ブルーボネット ⑤	鵜飼久美子:音楽療法 埜口義広:リハビリテーション	36	
17	〃	22.08.20.(金)	名古屋市北生涯学習ｾﾝﾀｰ⑥	鵜飼久美子:音楽療法 埜口義広:リハビリテーション	26	
18	〃	22.11.29.(月)	名古屋市北生涯学習ｾﾝﾀｰ⑦	鵜飼久美子:音楽療法 埜口義広:リハビリテーション	37	
19	2011	23.03.18.(金)	名古屋市北生涯学習ｾﾝﾀｰ⑧	鵜飼久美子・鈴木千春:音楽療法 埜口義広:リハビリテーション	41	
20	〃	23.05.28.(土)	ブルーボネット ⑥	鵜飼久美子・鈴木千春:音楽療法 埜口義広:リハビリテーション	39	
21	〃	23.08.26.(金)	名古屋市北生涯学習ｾﾝﾀｰ⑨	鵜飼久美子・鈴木千春:音楽療法 埜口義広:リハビリテーション	41	
22	2012	24.02.20.(月)	名古屋市北生涯学習ｾﾝﾀｰ⑩	鵜飼久美子・鈴木千春:音楽療法 埜口義広:リハビリテーション	37	
23	〃	24.06.16.(土)	ブルーボネット ⑦	鵜飼久美子・鈴木千春:音楽療法 埜口義広:リハビリテーション	39	
24	〃	24.08.25.(土)	名古屋市北生涯学習ｾﾝﾀｰ⑪	鵜飼久美子・鈴木千春:音楽療法 埜口義広:リハビリテーション	36	
25	〃	24.11.24.(土)	なごや福祉用具プラザ ①	AM,福祉用具プラザ:福祉用具説明 PM,埜口義広:リハビリテーション	31	プラザと共催
26	〃	25.03.16(土)	名古屋市北生涯学習ｾﾝﾀｰ⑫	鵜飼久美子・鈴木千春:音楽療法 埜口義広:リハビリテーション	47	

一泊旅行の記録

回	年	実施年月日	場　所	講　師	参加者	備　考
1	1996	08.11.00.-00	秋の研修旅行 サンシテイ豊川	第21回全国大会準備事務	7	一泊研修
2	1997	09.12.01-02	ビラ・マリーン南知多 ① (愛知県南知多老人福祉館)	講師:半田保険所美浜支所長 丸山晋二 地域保健課技師 相場悦		一泊研修
2	1998	10.00.00-00	(場所不明)	1日目、医師の講演・座談会 1日目、リハビリ体操・座談会		一泊研修
3	2000	12.11.16-17	ビラ・マリーン南知多 ② (愛知県南知多老人福祉館)	服部達哉・優子:本町ｸﾘﾆｯｸ院長・副	22	一泊研修
4	2002	14.10.17-18	三河湾リゾートリンクス ①	服部達哉・優子:本町ｸﾘﾆｯｸ院長・副 病院職員:ボランテア	36	一泊旅行
5	2004	16.10.23-24	ビラ・マリーン南知多 ③ (愛知県南知多老人福祉館)		13	一泊旅行
6	2005	17.10.20-21	あいち健康プラザ 泊① (あいち健康の森)	松岡幸彦:東名古屋病院院長	30 泊22	一泊旅行
7	2006	18.11.04-05	あいち健康プラザ ②	新畑豊:国立長寿医療ｾﾝﾀｰ		一泊旅行
8	2007	19.10.27-28	ビラ・マリーン南知多 ④	平山正昭:名大、神野久美子:東海市議	32	一泊旅行
9	2008	20.11.22-23 (土・日)	ビラ・マリーン南知多 ⑤	平山正昭ご夫妻:名大	40	一泊旅行
10	2009	21.11.28-29 (土・日)	ビラ・マリーン南知多 ⑥	平山正昭:名大、神野久美子:東海市議 山田和宏:日本ﾍﾞｰﾘﾝｶﾞｰｲﾝｹﾞﾙﾊｲﾑ ﾏｼﾞｼｬﾝ	40	一泊旅行
11	2010	22.11.20-21 (土・日)	ビラ・マリーン南知多 ⑦	平山正昭:名大、神野久美子:東海市議 山田和宏:日本ﾍﾞｰﾘﾝｶﾞｰｲﾝｹﾞﾙﾊｲﾑ ﾏｼﾞｼｬﾝ	36	一泊旅行
12	2011	23.11.19-20 (土・日)	ビラ・マリーン南知多 ⑧	平山正昭ご夫妻:名大	39	一泊旅行
13	2012	24.11.17-18 (土・日)	ビラ・マリーン南知多 ⑨	平山正昭ご夫妻:名大	47	一泊旅行

手芸教室「ひまわりの会」の記録

場所　名古屋市熱田図書館　集会所
時間　13:00 ～ 16:00
担当　山尾佐知子・肥後ひとみ

回数	実施日	テーマ	指導者	参加人数	備考
[2009] 平成21年					
1	2101.15.(木)	ビーズでストラップ			
2	21.02.19.(木)	〃			
3	21.03.19.(木)	ちぎり絵	山田良知 先生		
4	21.04.16.(木)	ちぎり絵	山田良知 先生		
5	21.05.21.(木)	絵手紙	山田良知 先生		
6	21.07.16.(木)	絵手紙	山田良知 先生		
7	21.09.17.(木)	小物アクセサリー			
8	21.11.19.(木)	版画	山田良知 先生		
9	21.12.17.(木)	タオルでウサギさん			6・8・10月休み
[2010] 平成22年					
10	22.01.21.(木)	丸子雛			
11	22.02.18.(木)	押し絵(おひなさま)		7	
12	22.03.18.(木)	石鹸でブーケ			
13	22.04.15.(木)	押し絵(こいのぼり)			
14	22.05.20.(木)	ちりめん鏡			
15	22.07.15.(木)	刺し子のコースター			
16	22.09.16.(木)	フェルトのマスコット(枝豆・バナナ・いちご)			
17	22.10.14.(木)	牛乳パックの貯金箱		12	
18	22.11.11.(木)	トイレットペーパーでバーベル	小林良枝 先生		
19	22.12.16.(木)	フェルトのストラップ		7	6・8月休み
[2011] 平成23年					
20	23.01.20.(木)	リハビリ体操	小林良枝 先生	12	
21	23.02.17.(木)	ちぎり絵			
22	23.03.17.(木)	チラシで爪楊枝入れ		8	
23	23.04.21.(木)	フイルムケースのお雛さま	小林良枝 先生	11	
24	23.05.12.(木)	ビーズでアクセサリー			
25	23.06.16.(木)	菜箸で笹の葉			
26	23.07.21.(木)	チラシで箸ふくろ			
27	23.09.15.(木)	ビーズのストラップ		7	
28	23.10.20.(木)	〃		10	
29	23.12.15(木)	ビーズで小物		9	8・11月休み
[2012] 平成24年					
30	24.01.19.(木)	余り布で鍋敷き		8	
31	24.02.21.(木)	〃		7	
32	24.03.20.(木)	チラシで袋		8	
33	24.04.17.(火)	折り紙		7	
34	24.05.24.(木)	CDケースで写真立て		10	
35	24.06.27.(木)	〃		4	
36	24.09.06.(木)	小物入れ		5	
37	24.10.23.(火)	新聞紙で作るコサージュ		10	7・8月休み
					暫く休会する

名大「広場ナディック」の音楽療法の記録

音楽療法士：　鵜飼久美子先生・鈴木千春先生

回数	実施日	実施内容	講　師	場　所	時　間	参加者		
						患者	付添	計
[2006] 平成18年								
	18.07.08.(土)	名大主催(第2回)医療講宴会 【患者の「広場ナディック」開設】 名古屋大学:祖父江元教授・平山正昭先生・渡辺宏久先生・中條看護師、 中部学院大学:鵜飼久美子先生 医療講演とナディックの開設及び鵜飼先生の紹介						
[2007] 平成19年								
1	19.08.08.(水)	音楽療法研究の集い	鵜飼先生	広場ﾅﾃﾞｨｯｸ	14:30-15:45			
2	19.08.28.(火)	〃	〃	〃	〃			
3	19.09.28.(金)	〃	〃	〃	〃			
4	19.10.26.(金)	〃	〃	〃	〃			
[2008] 平成20年								
1	20.02.05.(火)	音楽療法	鵜飼・鈴木先生	広場ﾅﾃﾞｨｯｸ	14:30-15:30	15	6	21
2	20.03.04.(火)	〃	〃	〃	〃	15	6	21
3	20.04.08.(火)	〃	〃	〃	〃	14	6	20
4	20.05.13.(火)	〃	〃	〃	〃	15	6	21
5	20.06.17.(火)	〃	〃	〃	〃	13	7	20
6	20.07.08.(火)	〃	〃	〃	〃	13	6	19
7	20.08.12.(火)	〃	〃	〃	〃	16	7	23
8	20.09.02.(火)	〃	〃	〃	〃	19	5	24
9	20.10.07.(火)	〃	〃	〃	〃	26	10	36
10	20.11.11.(火)	〃	〃	〃	〃	21	7	28
11	20.12.16.(火)	〃	〃	〃	〃	21	7	28
①	20.12.19.(金)	クリスマスコンサート 星に願いを・他	共演(アンサンブル・クリザンテム弦楽四重奏) 平山・鵜飼・鈴木・東谷先生	リハビリ広場	15:00-16:00	21	7	28
[2009] 平成21年								
12	21.01.20.(火)	音楽療法	鵜飼・鈴木先生	広場ﾅﾃﾞｨｯｸ	14:30-15:30	23	8	31
13	21.02.17.(火)	〃	〃	〃	〃	22	6	28
14	21.03.17(火)	〃	〃	〃	〃	22	8	30
15	21.04.14.(火)	〃	〃	〃	〃	22	7	29
16	21.05.12.(火)	〃	〃	〃	〃	24	10	34
17	21.06.09.(火)	〃	〃	〃	〃	23	9	32
18	21.07.14.(火)	〃	〃	〃	14:00-15:30	26	10	36
19	21.08.11.(火)	〃	〃	〃	14:15-15:30	23	9	32
20	21.09.15.(火)	〃	〃	〃	〃	26	12	38
21	21.10.06.(火)	〃	〃	〃	〃	28	10	38
22	21.11.17.(火)	〃	〃	〃	〃	20	8	28
23	21.12.08.(火)	〃	〃	〃	〃	26	12	38
[2010] 平成22年								
24	22.01.12.(火)	〃	〃	〃	14:15-15:30	27	9	36
②	22.01.15.(金)	新春コンサート 共演 ビリーブ・他、	共演(中部学院大生・短大生ハンドベルワイヤ) 平山・鵜飼・鈴木・東谷先生	リハビリ広場	15:00-16:00	25	12	37
25	22.02.09.(火)	音楽療法	鵜飼・鈴木先生	広場ﾅﾃﾞｨｯｸ	14:15-15:30	23	9	32
26	22.03.02.(火)	〃	〃	〃	〃	22	8	30

回数	実施日	実施内容	講 師	場 所	時 間	患者	付添	計
27	22.04.13.(火)	音楽療法	鵜飼・鈴木先生	広場ﾅﾃﾞｨｯｸ	14:15-15:30	18	8	26
28	22.05.11.(火)	〃	〃	〃	〃	20	7	27
29	22.06.08.(火)	〃	〃	〃	〃	21	8	29
30	22.07.13.(火)	〃	〃	〃	〃	18	5	23
31	22.08.10.(火)	〃	〃	〃	〃	17	7	24
32	22.09.07.(火)	〃	〃	〃	〃	16	6	22
33	22.10.12.(火)	〃	〃	〃	〃	25	9	34
34	22.11.02.(火)	〃	〃	〃	〃	21	7	28
35	22.12.07.(火)	〃	〃	〃	〃	21	9	30
③	22.12.21.(火)	クリスマスコンサート ありがとう・他、	共演（鈴木信子ソプラノ独奏） 平山・鵜飼・鈴木・東谷先生	リハビリ広場	15:00-16:00	23	11	34
[2011] 平成23年								
36	23.01.11.(火)	音楽療法	鵜飼・鈴木先生	広場ﾅﾃﾞｨｯｸ	14:15-15:30	19	7	26
37	23.02.08.(火)	〃	〃	〃	〃	20	9	29
38	23.03.15.(火)	〃	〃	〃	〃	19	9	28
39	23.04.12.(火)	〃	〃	〃	〃	22	11	33
40	23.05.10.(火)	〃	〃	〃	〃	20	8	28
41	23.06.14.(火)	〃	〃	〃	〃	23	10	33
	23.07.19.(火)	〃	（台風のため中止）					
42	23.08.09.(火)	〃	〃	〃	〃	20	8	28
43	23.09.06.(火)	〃	〃	〃	〃	22	8	30
44	23.10.11.(火)	〃	〃	〃	〃	26	11	37
45	23.11.08.(火)	〃	〃	〃	〃	28	12	40
46	23.12.13.(火)	〃	〃	〃	〃	26	11	37
④	23.12.16.(金)	クリスマスコンサート また君に恋してる・他	共演（松山純子ﾄﾗﾝﾍﾟｯﾄ独奏） 平山・鵜飼・鈴木・東谷先生	リハビリ広場	15:00-16:00	23	10	33
[2012] 平成24年								
47	24.01.10.(火)	音楽療法	鵜飼・鈴木先生	広場ﾅﾃﾞｨｯｸ	14:15-15:30	21	8	29
48	24.02.14.(火)	〃	〃	〃	〃	19	5	24
49	24.03.19.(月)	〃	〃	〃	〃	18	7	25
50	24.04.10.(火)	〃	〃	〃	〃	24	8	32
51	24.05.08.(火)	〃	〃	〃	〃	18	7	25
52	24.06.12.(火)	〃	〃	〃	〃	23	10	33
53	24.07.10.(火)	〃	〃	〃	〃	23	15	38
54	24.08.07.(火)	〃	〃	〃	〃	21	11	32
55	24.09.11.(火)	〃	〃	〃	〃	21	15	36
56	24.10.16.(火)	〃	〃	〃	〃	24	12	36
57	24.11.13.(火)	〃	〃	〃	〃	22	13	35
58	24.12.04.(火)	〃	〃	〃	〃	20	12	32
⑤	24.12.14.(金)	クリスマスコンサート 風が吹いている・他	共演（濱島秀行：ヴァイオリン 内田有紀：ピアノ） 平山・鵜飼・鈴木・東谷先生	リハビリ広場	15:30-16:30	22	14	36
[2013] 平成25年								
59	25.01.15.(火)	音楽療法	鵜飼先生	広場ﾅﾃﾞｨｯｸ	14:15-15:30	15	11	26
60	25.02.12.(火)	〃	鵜飼・鈴木先生	〃	〃	23	10	33
61	25.03.05.(火)	〃	〃	〃	〃	16	9	25

その他の行事

番号	年	年月日	行事名	場所・内容	参加	備考
1	1997	H.09.	難病対策（街頭活動）	名古屋・金山駅 難病対策の早期確立要望する議定書 署名運動・ビラ配り　役員・会員による		
2	2005	17.08.25.	なごやかスタッフ種別研修会 （ﾍﾙﾊﾟｰと患者の意見交換会）	高齢者就業支援センター 名古屋市・御器所 ｽﾃｰｼｮﾝﾋﾞﾙ 5F ヘルパー100名、友の会会員10名	10	
3	2006	18.11.12.	街頭署名活動　10時～11時 特定疾患外し反対署名運動	名古屋・名鉄名古屋駅前 愛知県支部・岐阜県支部と共催	20	
4	2007	19.12.07.	山本紘子医師に聞く	藤田保険衛生大学・坂文種報徳會病院 ・院長 山本紘子 教授にインタビュー 聞き手：丹羽浩介会長・補助2名	3	
5	2007	19.12.16.	街頭署名活動　10時～11時 特定疾患外し反対署名運動	名古屋・名鉄名古屋駅前 愛知県支部・岐阜県支部と共催	20	
6	2010	22.07.27.	介護福祉学科 学生と交流会	名古屋文理大学 短期大学部 介護福祉科　会議室 学校側：教授・講師・学生28　計30名 友の会：役員　計9名	30 9	
7	2011	23.05.20.	第52回日本神経学会学術大会 ﾘｰｼﾙﾊﾞｰﾏﾝ（LSVT）の音声治療 の実技ボランテア　応援参加	名古屋国際会議場　1F 講師：Ramig & Fox 先生 実技者：言語聴覚士150人の相手会員 35名	35	

平山正昭先生の 会報投稿目録

（薬の話）　　名古屋大学　平山 正昭　先生

回	発行年月日	号	頁	記　事	備 考
1	2005.05.18	19	8-11	皆さんの知っているﾊﾟｰｷﾝｿﾝ病を患った人達	
2	2005.07.16	20	10-11	L･ドーパの話し	
3	2005.09.16	21	4- 6	ドーパミンアゴニスト	
4	2005.11.29	東海	9-10	パーキンソン病診療について	
5	2005.12.04	22	4- 5	薬の話（非麦角系アゴニスト）	
6	2006.01.25	23	4- 6	薬の話（MAO-B阻害剤）	
7	2006.03.25	24	8- 9	薬の話（シンメトレルの話）	
	2006.05.02			*（わたしの幸福論　　会長 丹羽浩介）*	
8	2006.05.27	25	9-12	薬の話　エクセグラン（ゾニサミド）	
9	2006.07.14	26	5- 8	薬の話（COMT阻害剤）	
10	2006.09.19	27	13-14	薬の話（アーテン）	
11	2005.11.24	28	6- 7	薬の話（まとめ）	
12	2006.11.28	東海2	11-14	パーキンソン病の非運動障害	
13	2007.01.28	29	10-11	ロピニロールについて	
14	2007.03.27	30	30-33	薬の話（ﾘﾊﾋﾞﾘとCOMT阻害薬について）	
15	2007.05.20	31	17-18	薬の話（ビ･シフロールの話）	
	2007.06.22			*第31回全国総会･大会　体験発表作品集*	
16	2007.08.04	32	35-37	薬の話（麦角系のﾄﾞｰﾊﾟﾐﾝｱｺﾞﾆｽﾄは悪者か？）	
17	2007.09.23	33	16-19	薬の話（薬以外によいこと）	
	2007.09.17	34	16-22	全国大会 ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ 医師による討論（薬物療法を中心に） （名大:祖父江元･平山正昭･渡辺宏久、本町クリニック:服部優子、名市大:梅村淳）	[B5版]
18	2007.11.26	35	8-10	薬の話（遺伝子治療について）	
19	2008.01.22	36	4- 8	薬の話（定位脳手術について）	
20	2008.03.24	37	14-17	薬の話　‥‥ゾニサミド（エクセグラン）‥‥	
21	2008.03.27	38	1-63	薬の話 特集　　（平山正昭　先生）	特集
22	2008.06.06	39	13-17	薬の話（ジェネリック薬品）	
23	2008.08.01	40	14-16	丹羽さんの思いで	
24	2008.09.25	41	14-17	薬の話（タバコについて）	
25	2008.12.07	42	6- 9	薬の話（日本で売られてない薬）	
26	2009.01.26	43	15-17	薬の話（便秘薬）	
27	2009.04.04	44	14-17	薬の話（どのように薬をのめばいいか）	
28	2009.06.04	45	14-18	薬の話（トレリーフ）	
29	2009.08.03	46	4- 7	薬の話（老化について）	
30	2009.09.22	47	5- 9	薬の話（幻覚）	
31	2009.12.01	48	5- 9	薬の話（治験etc）	
32	2010.01.31	49	4- 9	薬の話（パーキンソン病の自律神経障害）	
33	2010.04.03	50	8-12	薬の話（立ちくらみ）	
34	2010.06.06	51	6- 7	薬の話（新聞の記事について）	
35	2010.08.06	52	7-11	薬の話:パーキンソン病治療について	
36	2010.09.23	53	6-12	薬の話:〈代替医療について〉	
37	2010.11.26	54	6- 9	薬の話:〈研究結果について〉	
38	2011.02.03	55	6- 9	薬の話:〈いつから薬を始めるか〉	
39	2011.03.28	56	6- 8	薬の話:〈環境要因〉	
40	2011.06.02	57	8-11	薬の話:（レストレスレッグ症候群）	
41	2011.07.28	58	6-11	薬の話:（これから出る薬及び第15回MDS15th International Congress）	
42	2011.09.24	59	6- 9	薬の話:（講演用解説書その1）	
43	2011.11.30	60	6- 9	薬の話:（講演用解説書その2）	
44	2012.01.24	61	8-13	薬の話:（今回は新しい研究施設にすいて）	
45	2012.03.25	62	12-15	薬の話	
46	2012.05.31	63	4- 7	薬の話:（リハビリの話）	
47	2012.07.25	64	6-10	薬の話:（いい加減な報道について）	
48	2012.09.29	65	4- 7	医療のこぼれ話	
49	2012.12.03	66	4- 8	医療のこぼれ話	
50	2013.01.29	67	6-11	医療のこぼればなし　薬は毒なのか	

渡辺宏久先生の 会報投稿目録

（運動機能以外の症状を中心に）名古屋大学神経内科　渡辺 宏久 先生

回	発行年月日	号	頁	記　事	備 考
	2007.09.17	34	16-22	全国大会 ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ 医師による討論（薬物療法を中心に） （名大:祖父江元･平山正昭･渡辺宏久、本町クリニック:服部優子、名市大:梅村淳）	[B5版]
	2007.11.26	35			
1	2008.01.22	36	9-12	EBM とオーダーメード治療　第1回:EBMって何ですか？	
2	2008.03.24	37	18-20	〃　第2回:パーキンソン病と嚥下障害	
	2008.03.27	38		（薬の話 特集　平山正昭　先生）	
3	2008.06.06	39	18-20	〃　第3回:ﾊﾟｰｷﾝｿﾝ病と日中の予期せぬ睡眠	
	2008.08.01	40			
4	2008.09.25	41	18-21	〃　第4回:パーキンソン病と心臓弁膜症	
5	2008.12.07	42	10-21	〃　第5回:腰曲がり	
6	2009.01.26	43	18-21	〃　第6回:排尿障害	
7	2009.04.04	44	18-21	〃　第7回:流涎（よだれ）	
8	2009.06.04	45	20-22	〃　第8回:うつ（1）	
9	2009.08.03	46	8-21	〃　第9回:うつ（2）	
10	2009.09.22	47	10-13	〃　第10回:幻視(1)	
11	2009.12.01	48	10-13	〃　第11回:幻視(2)	
12	2010.01.31	49	10-13	〃　第12回:脳深部刺激療法と構音障害	
13	2010.04.03	50	14-17	〃　第13回:パーキンソン病と認知症(1)	
14	2010.06.06	51	8-11	〃　第14回:パーキンソン病と認知症(2)	
15	2010.08.06	52	12-15	〃　第15回:アンヘドニア	
16	2010.09.23	53	14-17	〃　第16回:アパシー	
17	2010.11.26	54	10-13	〃　第17回:反復常同行動（punding）	
18	2011.02.03	55	10-13	〃　番外編　第52回日本神経学会学術大会のご紹介	
19	2011.03.28	56	9-12	〃　番外編2 第52回日本神経学会学術大会のご紹介	
20	2011.06.02	57	12-15	〃　ドパミン調整異常症候群	
21	2011.07.28	58	12-15	〃　衝動制御障害	
22	2011.09.24	59	10-13	〃　ブレインバンク	
23	2011.11.30	60	10-13	〃　第23回　ﾊﾟｰｷﾝｿﾝ病治療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ　-治療総論-	
24	2012.01.24	61	18-21	〃　第24回　ﾊﾟｰｷﾝｿﾝ病治療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ　-治療総論(2)-	
25	2012.03.25	62	16-19	〃　第25回　ﾊﾟｰｷﾝｿﾝ病治療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ　-運動症状の薬物治療一	
26	2012.05.31	63	8-11	〃　第26回　ﾊﾟｰｷﾝｿﾝ病治療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ　-運動症状の薬物治療(2)-	
27	2012.07.25	64	12-15	〃　第27回　ﾊﾟｰｷﾝｿﾝ病治療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ　-運動症状の薬物治療(3)-	
28	2012.09.29	65	12-15	〃　第28回　ﾊﾟｰｷﾝｿﾝ病治療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ　-運動症状の非薬物治療-	
29	2012.12.03	66	10-13	〃　第29回　ブレインバンク	
30	2013.01.29.	67	12-15	〃　第30回　ﾊﾟｰｷﾝｿﾝ病治療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ　-非運動症状の治療(1)-	

全国総会報告の 愛知県支部事務所・役員等

全国総会場所と 支部事務所等				支部役員			
	第15回 全国総会						
開催日	1991.06.22.	(平成3年)					
場所	東京	日本青年館					
	第21回 全国総会		大会				
開催日	1997.05.24.	(平成9年)	1997.05.25.	支部長	林　三郎		
場所	愛知県蒲郡市	ホテル 明山荘　(三谷温泉)		副会長	伊藤 加津子		
名称	愛知県パーキンソン病友の会		(S.53.04.01.)	副会長	浦山 信子		
代表者	林　三郎	豊川市国府町向河原3番地の3		副会長	岩本 須美子		
事務所	〒442	豊川市国府町向河原3番地の3		監査	久野 重治		
年会費	4,000 円	(入会金なし)		監査	山本 静子		
会員数	103 名						
	第22回 全国総会		大会				
開催日	1998.06.06.	(平成10年)	1998.06.07.	会長　◇	八野 健蔵	顧問	林　三郎
場所	埼玉県大宮市	大宮ソニックシティ市民ホール		副会長	大石 郁子	監査	岩本 須美子
名称	愛知県パーキンソン病友の会		(S.53.04.13.)	〃	伊藤 加津子	〃	辻　正和
代表者	八野　健蔵	愛知県額田郡幸田町大草字北前田28-1		〃	久保田 秀子		
事務所	〒444-0103	愛知県額田郡幸田町大草字北前田28-1		〃	兵後 美恵子		
年会費	4,000 円	(入会金なし)		幹事	黒田 ます己		
会員数	110 名			〃	岩本 相七		
	第23回 総会		大会				
開催日	1999.10.05	(平成11年)	1999.10.06	会長　◇	八野 健蔵	顧問	林　三郎
場所	千葉県 浦安市	東京ベイホテル		副会長	大石 郁子	〃	岩本 須美子
名称	愛知県パーキンソン病友の会		(S.53.03.25.)	〃	伊藤 加津子	監査	久野 重治
代表者	八野　健蔵	愛知県額田郡幸田町大草字北前田28-1		〃	久保田 秀子	〃	辻　正和
事務所	〒444-0103	愛知県額田郡幸田町大草字北前田28-1		幹事	兵後 美恵子		
年会費	4,000 円	(入会金なし)		〃	黒田 ます己		
会員数	92 名			〃	岩本 相七		
	第24回 全国総会		大会				
開催日	2000.06.22	(平成12年)	2000.06.23.	会長　★	八野 健蔵	幹事	奥田 富美江
場所	新潟市			副会長	加藤　登	監査	林　三郎
名称	愛知県パーキンソン病友の会		(S.53.03.25.)	〃	大石 郁子	〃	辻　正和
代表者	八野　健蔵	愛知県額田郡幸田町大草字北前田28-1		〃	久保田 秀子		
事務所	〒444-0103	愛知県額田郡幸田町大草字北前田28-1		幹事	畔柳　鍒		
年会費	4,000 円	(入会金なし)		〃	丸山 克彦	本部幹事	八野 健蔵
会員数	105 名			〃	伊藤日出子		
	第25回 全国総会		大会				
開催日	2001.05.21.	(平成13年)	2001.05.22.	支部長　★	八野 健蔵	事務局長	丹羽 浩介
場所	和歌山県	白浜市		副支部長	加藤　登	監査	林　三郎
名称	全国パーキンソン病友の会 愛知県支部 (S.53.03.25.)			〃	大石 郁子	〃	辻　正和
代表者	八野　健蔵	愛知県額田郡幸田町大草字北前田28-1		〃	久保田 秀子		
事務所	〒447-0031	東海市大田町上浜田6-4		幹事	畔柳　鍒		
		宝マンション615号　丹羽 浩介 方		〃	丸山 克彦	本部幹事	八野 健蔵
年会費	4,000 円	(入会金なし)		〃	伊藤日出子		
会員数	125 名			〃	奥田 富美江		

［凡例］ ★：本部役員　☆：本部代議員　◆：愛難連会長　◇：愛難連担当

	第26回 全国総会		大会	支部長☆★	丹羽 浩介	監査	加藤　登
開催日	2002.05.17.	(平成14年)	2002.05.18.	最高顧問★	八野 健蔵	〃	間鍋　和
場所	千葉県木更津市　かずさアカデミアセンター			事務局長	大石 郁子	常任ボランテア	
名称	全国パーキンソン病友の会 愛知県支部 (S.53.03.25.)			副支部長	久保田 秀子		篤永 章子
代表者	丹羽　浩介	東海市大田町上浜田6-4-615		〃	奥田 冨美江	〃	小山 克巳
事務所	〒447-0031	東海市大田町上浜田6-4-615		〃	中野 博光	〃	水野 貞子
連絡責任		支部長　丹羽 浩介		幹事	小山 美智子	本部 幹事	八野 健蔵
年会費	4,000 円	(入会金なし)		〃	政年　愃	(2002.05.17.退任)	
会員数	175 名			〃	肥後 ひとみ	本部幹事	丹羽 浩介
						(2002.05.17.新任)	
	第27回 全国総会		大会	支部長　★	丹羽 浩介	監査	加藤　登
開催日	2003.06.07.	(平成15年)	2003.06.08.	事務局長	丹羽 浩介	〃	中島 陽太郎
場所	金沢市	金沢ニューグランドホテル	石川県文京会館	副支部長	奥田 冨美江		
名称	全国パーキンソン病友の会 愛知県支部 (S.53.03.25.)			〃	則竹 昌常		
代表者	丹羽　浩介	東海市大田町上浜田6-4-615		幹事	小山 美智子		
事務所	〒447-0031	東海市大田町上浜田6-4-615		〃　☆	肥後 ひとみ	本部幹事	丹羽 浩介
連絡責任		支部長　丹羽 浩介		〃	伊藤 つぐみ		
年会費	5,000 円	(入会金なし)　(H.15.04.01.付改訂)		〃　☆	加藤 基雄		
会員数	180 名			〃	越澤　博		
	第28回 全国総会		大会	会長　◆★	丹羽 浩介	幹事	山尾 佐知子
開催日	2004.06.19.	(平成16年)	2004.06.19.	会長代行★	則竹 昌常	〃	沼田 隆子
場所	福岡市	シティホテル	福岡国際会議場	副支部長	奥田 冨美江	顧問	加藤　登
名称	全国パーキンソン病友の会 愛知県支部 (S.53.03.25.)			監査	中島 陽太郎		
代表者	丹羽　浩介	東海市大田町上浜田6-4-615		〃	小山 美智子		
事務所	〒447-0031	東海市大田町上浜田6-4-615		幹事	越澤　博	2004.06.19.就任	
連絡責任		支部長　丹羽 浩介		〃　☆	肥後 ひとみ	本部副会長	丹羽 浩介
年会費	5,000 円	(入会金なし)		〃　☆	伊藤 つぐみ	本部幹事	則竹 昌常
会員数	200 名			〃	鈴木 たか子		
	第29回 全国総会		大会	会長　◆★	丹羽 浩介	幹事	山尾 佐知子
開催日	2005.06.16.	(平成17年)	2005.06.17.	会長代行★	則竹 昌常	〃	沼田 隆子
場所	東京都渋谷区	国立オリンピック記念青年総合センター		副支部長	奥田 冨美江	顧問	加藤　登
名称	全国パーキンソン病友の会 愛知県支部 (S.53.03.25.)			監査	中島 陽太郎		
代表者	丹羽　浩介	東海市大田町上浜田6-4-615		〃	小山 美智子		
事務所	〒447-0031	東海市大田町上浜田6-4-615		幹事	越澤　博		
連絡責任		支部長　丹羽 浩介		〃　☆	肥後 ひとみ	本部副会長	丹羽 浩介
年会費	5,000 円	(入会金なし)		〃	伊藤 つぐみ	本部幹事	則竹 昌常
会員数	205 名			〃　☆	鈴木 たか子		
	第30回 全国総会		大会	支部長　★	丹羽 浩介		神原 時彦
開催日	2006.06.21.	(平成18年)	2006.06.22.	顧問　★	則竹 昌常		益田　緑
場所	東京都江東区	テアラこうとう (江東公会堂)		副支部長☆★			関　和子
名称	愛知県パーキンソン病友の会		(S.53.03.25.)		大道 忠弘		
代表者	丹羽　浩介	東海市大田町上浜田6-4-615		事務局	越澤　博	2006.06.21.退任	
事務所	〒447-0031	東海市大田町天神下ノ上1-1		◇☆	山尾　武	本部副会長	丹羽 浩介
連絡責任		丹羽 浩介			山尾 佐知子	本部幹事	則竹 昌常
年会費	5,000 円	(入会金なし)			鈴木 たか子	2006.06.21.新任	
会員数	220 名				川島　徹	本部幹事	大道 忠弘
	第31回 全国総会		大会	支部長　☆	丹羽 浩介		神原 時彦
開催日	2007.06.21.	(平成19年)	2007.06.22.	顧問	則竹 昌常		関　和子
場所	名古屋市	名鉄ニューグランドホテル　A7階		副支部長★	大道 忠弘		池田 富美子
名称	愛知県パーキンソン病友の会		(S.53.03.25.)	事務局	越澤　博		池田 幸夫
代表者	丹羽　浩介	東海市大田町上浜田6-4-615		◇	山尾　武		大橋 美智子
事務所	〒447-0031	東海市大田町天神下ノ上1-1			山尾 佐知子		増田 満夫
連絡責任		支部長　丹羽 浩介			鈴木 たか子		加藤 真智子
年会費	5,000 円	(入会金なし)			益田　緑	本部幹事	大道 忠弘
会員数	230 名			☆	益田 利彦		

	第32回 全国総会		大会	支部長	丹羽 浩介	20.4.9. 永眠,		
開催日	2008.06.24.	(平成20年)	2008.06.25.	副支部長★	大道 忠弘	20.5.1. 会長就任		
場所	神戸市	しあわせの村		事務局長	越澤 博		後藤 サヨ子	
名称	全国パーキンソン病友の会 愛知県支部 (S.53.03.25.)				◇ 山尾 武		関 和子	
代表者	丹羽 浩介	東海市大田町上浜田6-4-615 (20.4.9.永眠)			山尾 佐知子		伊藤 岳枝	
事務所	〒447-0031	東海市大田町天神下ノ上1-1			池田 幸夫		伊藤 フサ子	
代表者	大道 忠弘	尾張旭市庄南町1-3-9 (20.5.1.就任)			池田 冨美子		風岡 初代	
事務所	〒458-0847	名古屋市緑区浦里1-68-508 越澤 博 方			☆ 益田 利彦		森 久子	
集会所	〒447-0031	東海市大田町天神下ノ上1-1			益田 緑		☆ (三宅 和男)	
年会費	5,000 円	(入会金なし)			大橋 美智子	本部幹事	大道 忠弘	
会員数	232 名				神原 時彦	2008.06.24.退任		
	第33回 全国総会		大会	支部長	大道 忠弘	事務局	伊藤 フサ子	
開催日	2009.06.18.	(平成21年)	2009.06.19.	副会長	山尾 佐知子	〃	大津 慶明	
場所	富山市	カナルパークホテル富山		〃	◇ 山尾 武	〃	神原 時彦	
名称	全国パーキンソン病友の会 愛知県支部 (S.53.03.25.)			〃	益田 利彦	〃	後藤 サヨ子	
代表者	大道 忠弘	尾張旭市庄南町1-3-9		事務局長	越澤 博	〃	関 和子	
事務所	〒458-0847	名古屋市緑区浦里1-68-508 越澤 博 方		〃 次長☆	池田 幸夫	〃	鷹羽 勝造	
集会所	〒447-0031	東海市大田町天神下ノ上1-1		事務局	浅井 利一	〃	☆ 肥後 ひとみ	
年会費	5,000 円	(入会金なし)		〃	池田 冨美子	〃	益田 緑	
会員数	240 名			〃	伊藤 岳枝	〃	森 久子	
	第34回 全国総会		大会	支部長 ☆	益田 利彦	理事	神原 時彦	
開催日	2010.06.14.	(平成22年)	2010.06.15.	副会長	山尾 武	〃	後藤 サヨ子	
場所	大阪市	ホテルニューオータニ大阪		〃	山尾 佐知子	〃	関 和子	
名称	全国パーキンソン病友の会 愛知県支部 (S.53.03.25.)			〃 ☆	池田 幸夫	〃	大道 忠弘	
代表者	益田 利彦	春日井市黒鉾町大久手137-5		事務局長	越澤 博	〃	鷹羽 勝造	
事務所	〒458-0847	名古屋市緑区浦里1-68-508 越澤 博 方		理事 ◇	浅井 利一	〃	肥後 ひとみ	
集会所	〒447-0031	東海市大田町天神下ノ上1-1		〃	池田 冨美子	〃	益田 緑	
年会費	5,000 円	(入会金なし)		〃	伊藤 フサ子	〃	森 久子	
会員数	258 名			〃	大津 慶明	〃	山田 良知	
				〃	小川 勝司	〃	山本 芳夫	
				〃	梶田 喜美子			
	(第35回目) 第2回定時社員総会		大会	支部長 ☆	益田 利彦		後藤 サヨ子	
開催日	2011.06.20.	(平成23年)	2011.06.21.	事務局長	越澤 博		関 和子	
場所	東京都江戸川区 タワーホール船堀				山尾 武		高木 進	
名称	全国パーキンソン病友の会 愛知県支部 (S.53.03.25.)				山尾 佐知子		鷹羽 勝造	
代表者	益田 利彦	春日井市黒鉾町大久手137-5			池田 幸夫		☆ 肥後 ひとみ	
事務所	〒458-0847	名古屋市緑区浦里1-68-508 越澤 博 方			◇ 浅井 利一		益田 緑	
集会所	〒447-0031	東海市大田町天神下ノ上1-1			伊藤 フサ子		森 久子	
年会費	5,000 円	(入会金なし)			大津 慶明		山田 良知	
会員数	268 名				大津 邦世		山本 芳夫	
					小川 勝司		山本 妙子	
					神原 時彦			
	(第36回目) 第3回定時社員総会		大会	支部長	益田 利彦	幹事	鷹羽 勝造	
開催日	2012.06.18.	(平成24年)	2012.06.19.	副会長 ☆	浅井 利一	〃	肥後 ひとみ	
場所	広島市	グランドプリンスホテル広島		〃 ☆	大津 慶明	〃	益田 緑	
名称	一般社団法人全国パーキンソン病友の会 愛知県支部			〃	大津 邦世	〃	森 久子	
	(愛知県パーキンソン病友の会) (S.53.03.25.)			事務局長	原田 良實	〃	山尾 佐知子	
代表者	益田 利彦	春日井市黒鉾町大久手137-5		監査	神原 時彦	〃	山尾 武	
事務所	〒458-0821	名古屋市緑区鳴海町尾崎山43-6		幹事 ◇	都築 月子	〃	山田 良知	
		アーバンレフレ鳴海3-407 原田 良實 方		幹事	小川 勝司	〃	山本 芳夫	
集会所	〒447-0031	東海市大田町天神下ノ上1-1		〃	後藤 サヨ子	〃	山本 妙子	
年会費	5,000 円	(入会金なし)		〃	関 和子	相談役	越澤 博	
会員数	276 名			〃	高木 進	〃	池田 幸夫	

全国総会報告の 愛知県支部活動状況

行事年度	行 事	明 細	備 考
[1996年度]	**[1997年 第21回全国総会]**	**(愛知県蒲郡市 ホテル明山荘)**	**1997.05.24-25**
H.08.04.18.	1.平成8年度総会	名大(鶴友会館) (平成9年度の全国大会 出来るか再度確認)	
H.08.06.02-3.	2.春の研修旅行 (1泊2日)	県リハビリ・センター「木曽川荘」 中止	
H.08.11.	3.秋の研修旅行 (1泊2日)	サンシテイ豊川 参加7人	
	4.第21回全国大会準備等事務	後援名義、依頼、新聞、TV,	
[1997年度]	[1998年 第22回全国総会]	(大宮ソニックシティ 市民ホール)	1998.06.06-07
H.09.05.24-25	1.第21回全国大会(愛知大会)開催		
		ホテル 明山荘 (蒲郡市三谷温泉)	
	医療相談会	国立療養所中部病院名誉院長 安藤一也先生 「パーキンソン病の治療これまでとこれから」	
		同上理学療法科主任 外山治人先生 「パーキンソン病のリハビリテーション」	
	体験発表	伊藤 加津子(患者)、森 英雄(家族)	
	2.秋の研修会	ビラマリーン南知多 (愛知県南知多老人福祉館) ① 新入会員(八野健蔵以下5人)の紹介 講演: 半田保険所美浜支所長 丸山晋二 「パーキンソン病の日常生活」 地域保健課技師 相場悦代 「パーキンソン病とリハビリについて」	
	3.難病対策 (街頭活動)	名古屋・金山総合駅で難病対策の早期確立要望する議定書 署名運動・ビラ配り 役員・会員による、	
[1998年度]	[1999年 第23回全国総会]	(千葉県浦安市 東京ベイホテル)	1999.10.05-06
H.10.・・.・・	1.春の研修会	午前 総会 午後 医師の講演	
H.10.・・.-・.	2.秋の研修会(1泊2日)	1日目 医師の講演 座談会 2日目 リハビリ体操 座談会	
	3.ストレッチ体操ビデオ作成して会員に配布		
	4.愛難連の行事に参加	定期総会 新年交流会 保険医協会の懇談会	
[1999年度]	[2000年 第24回全国総会]	(新潟市)	2000.06.22-23
H.11.	1.春の研修会	総会、 医師の講演会	
	2.秋の研修会	医師の講演と懇談会	
	3.「リハビリ体操」ビデオ(介助編)作成		
	4.地域保健所との交流会		
	5.愛難連の行事に参加		
[2000年度]	[2001年 第25回全国総会]	(和歌山県 白浜市)	2001.05.21-22
H.12.	1.春の研修会	総会と、医師の講演会、体験発表、音楽療法	
H.12.11.16-17	2.秋の研修会 (一泊研修)	医師の講演と音楽療法、 ビラ・マリーン南知多 ②	
	3.支部だより (創刊号・第2号)発行		
	4.地域保健所との交流会		
	5.愛難連の行事に参加		
	6.役員会7回開催		

[2001年度]	[2002年 第26回全国総会]	（千葉県　かずさアカデミアセンター）	2002.05.17-18
H.13.	会員の増加を第一の目標とした、 ① 活動の重点を一般社会にも向けました。医師会、保険所、ポスターの 作成添付、県民対象の医療講演会等の活動をしました。 ② 会員向けの活動の充実を図りました。		
	具体的には		
	1 会報3号(B-5版24ページ)、会報4号(B-5版28ページ)の発行		
H.13.08.26.	2 医療講演会を蒲郡市で開催　一般参加者30人		
H.13.10.20.	3 医療講演会を名古屋市で開催「ウイルあいち」　一般参加者 350人		
	4 ポスター　カラー50枚　神経内科		
	5 会報の送付先　愛知県下神経内科　約100		
	6 加入促進口コミ運動の展開		
H.13.10.21.	7 一日行楽の開催「あいち健康プラザ」　参加者30人		
	これらの運動を展開した結果、年初125人であった会員が年度末には		
	175人に増加した。		
[2002年度]	[2003年 第27回全国総会]	（石川県　金沢ニューグランドホテル）	2003.06.07-08
H.14.	1. 会報の発行　A-4版　44頁のもの4回発行		
H.14.06.09.	2. 行楽を兼ねた座談会を開催、「あいち健康プラザ」　参加者35人		
H.14.10.17-18	3. 一泊旅行開催、「三河リゾートリンク」　参加者 32人		
	4. 会員対象にアンケートを実施、まとめを会報に掲載、		
	5. 作業を分担して行い、会員番号制を導入		
H.14.10.12.	6. 医療講演会開催・医療個別相談会を実施「一宮市　アイプラザー一宮」 参加者350人		
H.14.04.14	7 総会時に医療講演会を開催、医療個別相談を実施、		
	8. 会員名簿を会員全員に配布、		
	9. 会の歌を制定、	(「愛知の友を得て」 CD)、	
	10. 役員が会員宅を訪問して懇談、		
	11. 会報で会費の寄付を募る、(48万円集まる)		
	12.ホームページ開設したが、うまく機能せず、		
[2003年度]	[2004年 第28回全国総会]	（福岡市 総会:シティホテル、大会:福岡国際会議場）	2004.06.19-20
H.15.			
[2004年度]	[2005年 第29回全国総会]	（東京　国立オリンピック記念青少年総合センター）	2005.06.16-17
H.16.			
[2005年度]	[2006年 第30回全国総会]	（東京　ティアラこうとう （江東公会堂））	2006.06.21-22
H.17.04.23.	1.総会・医療講演会	「DBS手術について」脳神経外科医・同内科医の鼎談　200名参加	
	2.会報の発行	6回(奇数月)	
H.17.06.10.	3.一日交遊会	セントレア(中部国際空港)　25名参加	
H.17.10.20-21	4.一泊旅行	「あいち健康プラザ」 泊①　30名参加	
H.17.10.29. H.18.03.26.	5.医療講演会	豊橋市　50名参加 半田市　60名参加	
[2006年度]	**[2007年 第31回全国総会]**	**（名古屋市　名鉄ニューグランドホテル）**	**2007.06.21-22**
H.18.05.06.	1.総会並びに医療講演会		
H.18.06.15.	2.一日交遊会	ブルーボネット①　36人参加	
	3.特定疾患問題について会員の現状を訴える文章を募集		
H.18.11.4-5	4.一泊旅行	「あいち健康プラザ」②	
H.18.11.11.	5.医療講演会	豊田市　61人参加	
H.18.11.12.	6.医療費助成打ち切りに反対の街頭署名運動 （名鉄名古屋駅前）		
H.19.01.	7.パーキンソン・デー署名運動		
	8.会報の発行	奇数月(3.5.7.9.11.1月)	

[2007年度]	[2008年 第32回全国総会]	（神戸市　しあわせの村）	2008.06.24-25
H.19.05.12.	1.総会並びに医療講演会	「パーキンソン病～快適な生活のための工夫」 山本纊子教授	
H.19.06.07.	2.一日交遊会	ブルーボネット② リハビリテーション　埜口先生	
H.19.06.21-22	3.第31回全国総会・大会	(名古屋大会)名鉄ニューグランドホテル	
H.19.10.27-28	4.一泊旅行	ビラ・マリーン南知多④	
H.19.10.30.	5.医療講演会	「パーキンソン病患者の転ばない生活」 饗庭郁子医師他	
H.19.12.16.	6.街頭署名活動	(名鉄名古屋駅前)　約1時間	
H.20.02.05.	7.音楽療法	名大ナディックで開始、 以降 月1回実施　鵜飼久美子先生	
H.20.02.27.	8.一日交遊会	名古屋市北生涯学習センター① 音楽療法、おしゃべり、リハビリテーション　鵜飼先生、埜口先生	
H.20.01～02	9.パーキンソンデー署名活動		
	10.会報発行	年6回　奇数月(3.5.7.9.11.1)	
		大会記念号　シンポジウムの記録	
[2008年度]	[2009年 第33回全国総会]	（富山市　カナルパークホテル富山）	2009.06.18-19
H.20.05.10.	1.総会並びに医療講演会 午前　総会 午後　医療講演	名古屋総合社会福祉会館 総会後、会員4名の体験発表 名大　平山正昭 先生	
H.20.07.04.	2.一日交遊会	ブルーボネット③　音楽療法 鵜飼先生、リハビリテーション 埜口先生 顧問 平山正昭先生、神野久美子先生参加	
H.20.10.22.	3.一日交遊会	名古屋市北生涯学習センター②　参加40名	
H.20.10.31.	4.医療講演会	名古屋総合社会福祉会館　阿部祐士 医師　参加者62名	
H.20.11.22-23	5.一泊旅行	ビラ・マリーン南知多⑤　40人参加	
H.21.02.27.	8.一日交遊会	名古屋市北生涯学習センター③　43人参加 音楽療法 鵜飼久美子先生、リハビリテーション 近藤将人先生	
[2009年度]	[2010年 第34回全国総会]	（大阪市　ホテルニューオオタニ大阪）	2009.06.18-19
H.21.02.27.	1.役員会	月1回　第1土曜日　役員外の参加自由	
	2.音楽療法	月1回　第2火曜日　参加すること自体、リハビリになります。	
	3.パーキンソン・デー国会請願　8名参加		
H.21.04.23.	4..総会並びに医療講演会 午前　総会 午後　医療講演会	名古屋総合社会福祉会館 総会後、会員5名の体験発表 本町クリニック院長 服部達哉 医師 「パーキンソン病と言われた後」 副院長 服部優子 医師 「パーキンソン病の介護を考える」	
H.21.05.30.	5.一日交遊会	ブルーボネット④ 鵜飼先生 音楽療法、埜口先生 リハビリテーション	
H.21.08.26.	〃	名古屋西生涯学習センター① 鵜飼先生、 埜口先生	
H.21.11.09.	〃	名古屋北生涯学習センター④ 鵜飼先生、 埜口先生	
H.22.02.25.	〃	名古屋北生涯学習センター⑤ 鵜飼先生、 埜口先生	
H.21.11.28-29	6.一泊旅行	ビラ・マリーン南知多⑥　40名参加 名古屋大学 平山医師ご夫妻同行・懇談会 日本ベーリンガー・山田和宏氏のマジックショー	
H.21.06.27.	7.医療講演会	岡崎げんき館　名大 平山正昭先生「パーキンソン病の病態と治療」	
H.21.10.31.	〃	グリーンパレス春日井市　〃　「　〃　」	
H.22.02.20.	〃	一宮スポーツ文化センター　〃　「　〃　」	
H.22.01.15.	8.新春コンサート	名大病院リハビリ広場　毎月行っている音楽療法の成果を発表②	
	9.ひまわりの会・手芸教室	月1回 第3木曜日　名古屋市熱田図書館	
	10.会報発行	偶数月　44、45、46、47、48、49号の6冊	
[2010年度]	[2011年 第2回定時社員総会] (第35回目全国総会) （東京都江戸川区　タワーホール船堀）		2011.06.20-21
H.22.	1.役員会	月1回　第1土曜日　役員外の参加自由	
	2.音楽療法	月1回　第2火曜日　参加すること自体、リハビリになります。	
H.22.05.01.	3.総会並びに医療講演会 午前　総会 午後　医療講演会	名古屋総合社会福祉会館 総会後、会員4名の体験発表 名古屋大学 渡辺宏久先生「パーキンソン病の副作用とその対策」 引き続き、言語聴覚士7名により「リーシルバーマン法(LSVT)」でのリハビリ	

H.22.05.29.	4.一日交遊会	ブルーボネット⑤　鵜飼先生 音楽療法、埜口先生 リハビリテーション	
H.22.08.20.	〃	名古屋北生涯学習センター⑥　鵜飼先生、　埜口先生	
H.22.11.29.	〃	名古屋北生涯学習センター⑦　鵜飼先生、　埜口先生	
H.23.03.18.	〃	名古屋北生涯学習センター⑧　鵜飼・鈴木先生、　埜口先生	
H.22.11.20-21	5.一泊旅行	ビラ・マリーン南知多⑦　　36名参加 名古屋大学 平山医師ご夫妻同行・懇談会 日本ベーリンガー・山田和宏氏のマジックショー	
H.22.08.28.	6.医療講演会	豊橋市保健所(ほいっぷ)名大平山先生「パーキンソン病の病態と治療」	
H.22.11.13.	〃	刈谷市産業振興センター　　〃　「　　〃　　」	
H.23.02.05.	〃	津島市文化会館　　〃　「　　〃　　」	
H.22.12.21.	7.クリスマス・コンサート	名大病院リハビリ広場　毎月行っている音楽療法の成果を発表③	
	9.ひまわりの会・手芸教室	月1回 第3木曜日　名古屋市熱田図書館	
	10.会報発行	年6回　50,51,52,53,54,55号の6冊	
[2011年度]	[2012年 第3回定時社員総会]（第36回目全国総会） （グランドプリンスホテル広島）		2012.06.18-19
H.23.	1.役員会	月1回　第1土曜日（12回／年）　役員外の参加自由	
H.23.04.30.	3.総会並びに医療講演会 午前　総会 午後　医療講演会	名古屋総合社会福祉会館 総会後、会員4名の体験発表 名古屋大学　梶田泰一先生 「DBS治療10年をふりかえり、次世代DBS治療に夢をつなぐ」	
H.23.07.16.	4.医療講演会	半田市市民交流センター・ホール 名大 平山先生 「パーキンソン病の病態と治療」	
H.23.10.22.	〃	豊田産業文化センター　　〃　「　　〃　　」	
H.24.01.28.	〃	瀬戸市 瀬戸蔵　　〃　「　　〃　　」	
	5.音楽療法	月1回　第2火曜日　　参加すること自体、リハビリになります。	
H.23.12.16.	6..クリスマス・コンサート	名大病院リハビリ広場　毎月行っている音楽療法の成果を発表④	
H.23.05.28.	7.一日交遊会	ブルーボネット⑥　鵜飼・鈴木先生 音楽療法、埜口先生 リハビリ	
H.23.08.26.	〃	名古屋北生涯学習センター⑨　鵜飼・鈴木先生、　埜口先生	
H.24.02.20.	〃	名古屋北生涯学習センター⑩　鵜飼・鈴木先生、　埜口先生	
H.23.11.19-20	8.一泊旅行	ビラ・マリーン南知多⑧　　39名参加 名古屋大学 平山医師ご夫妻同行・懇談会	
	9.ひまわりの会・手芸教室	月1回 第3木曜日　名古屋市熱田図書館	
	10.会報発行	年6回　56、57、58、59、60、61号 の6冊	
	11.国会請願	12月から2月にかけて請願署名の収集	
H.23.05.18-21	12.日本神経学会学術大会と市民公開講座に参加　　名古屋市内		
H.23.05.19.	講演会参加	ミッドランドホール 「パーキンソン病を予防し、治療し、よりよくいきる」	
H.23.05.20.	リーシルバーマン(LSVT)の音楽療法の実技ボランテア協力参加　名古屋国際会議場1F		
H.23.05.21.	市民公開講座参加	「脳を知る、脳を護る」 名古屋国際会議場 センチュリーホール	

編集後記

ご投稿くださいました先生方、会員の皆さま、ありがとうございました。これからも友の会をよろしくお願い申しあげます。大いなる時の流れの中に、友の会３５周年記念号編集に参加できましたことを心から嬉しく思っています。

パソコンの処理等、原田良實事務局長にお世話になりました。感謝致しております。また、会報はじめ特別号の印刷・製本を廉価で応援してくださっている一粒社の都築延男社長にお礼申しあげます。

１０数年来、病妻と共に友の会に参加できましたことを嬉しく、また感謝いたしております。薬は勿論ですが、友の会のいろいろな行事に、ほぼ毎回参加したことが治療に大いに役立ったことと、今になって懐かしんでいる昨今です。（越澤）

編集人　　愛知県パーキンソン病友の会　　越澤　　博
発行人　　特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会
〒157-0073　東京都世田谷区砧　6-26-21
℡03-3416-1698　　fax03-3416-3129
加入者　　一般社団法人全国パーキンソン病友の会愛知県支部原田良實
〒458-0821 名古屋市緑区鳴海町字尾崎山 43-6
アーバンラフレ鳴海 3-407
Tel・fax　　052-623-7554
E メール　　ysm-h@mx5.bb-west.ne.jp

1971年8月7日第3種郵便物認可　　毎月1・6の日発行

2013年3月24日発行　　増刊通巻7869号

ＳＳＫＡ一般社団法人全国パーキンソン病友の会会報・愛知県版69号